

令和7年度

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」
「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

実施報告書

新 潟 県
新 潟 市

目 次

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」

1	上越市立東本町小学校	5
	「食」とわたしたちの暮らし	
2	上越市立北諏訪小学校	9
	自然環境と私たち～身近なことから1つずつ～	
3	妙高市立新井中央小学校	13
	命をつなぐ「しょく」の物語	
4	妙高市立妙高高原小学校	17
	見つめよう「食と命と自然」	
5	五泉市立五泉小学校	22
	五泉の水博士になろう	
6	五泉市立五泉南小学校	26
	五泉市に生息する魚「トゲソ」を通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ	
7	五泉市立五泉東小学校	31
	①水をめぐる旅Ⅰ～身近な水～ ②水をめぐる旅Ⅱ～阿賀野川・新潟水俣病～ ③水をめぐる旅Ⅲ～ひょうたん池プロジェクト～	
8	五泉市立川東小学校	34
	「トゲソの里 水の里 川東」 ・五泉市に生息するトゲソを通して、環境問題について学ぶ ・阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ	
9	五泉市立大蒲原小学校	39
	能代川はかせになろう	
10	五泉市立村松小学校	43
	五泉市に生息する魚のトゲソやサケ、学校の近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ	
11	五泉市立愛宕小学校	48
	わたしたちを支える水	

「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

12	新潟市立南浜小学校	53
	川や海の変化が、人々の暮らしにどのような影響を与えたのか考えよう	
13	新潟市立葛塚東小学校	58
	葛塚を食べよう！	

14	新潟市立中野山小学校	62
	4大公害の1つである新潟水俣病について調べよう	
15	新潟市立鏡淵小学校	66
	新潟水俣病を知ろう！	
16	新潟市立日和山小学校	72
	日和山海岸、早出川、福島潟の生き物やごみを調べ、SDGsの解決を目指そう	
17	新潟市立亀田東小学校	78
	大好きにいがた「環境にやさしい町 みんなにやさしい町 亀田」	
18	新潟市立小合東小学校	85
	小合の米作りと環境とのかかわりを調べよう	
19	新潟市立月潟小学校	92
	月潟の産業を支える水環境について考えよう	
20	新潟市立大野小学校	99
	NO MORE 新潟水俣病 ～今の自分たちにできること～	
21	新潟市立黒崎南小学校	103
	過去の公害や新潟水俣病の歴史や現状を調査して、わたしたちの行動や活動が食や環境に どんな影響を与えているか調べよう	
22	新潟市立巻北小学校	107
	守ろう！大切な自然	
23	新潟市立南浜中学校	113
	新潟水俣病の現地学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう	
24	新潟市立下山中学校	119
	新潟の魅力を守る・創る 阿賀野川探求グループ「新潟水俣病から学ぶ」	

**小学校・中学校への
地域の環境学習等支援事業**

(様式2)

小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立東本町小学校	担当(職・氏名)	教諭 滝沢 真紀子
学習テーマ	「食」とわたしたちの暮らし		
活動のねらい	様々な人とのかかわりや体験を通して、食の大切さや問題点、食に携わる人々の苦労や願いを理解し、食にかかわる事象を自分自身の問題としてとらえながら、課題解決に向けて取りんだり、これからの自分の食生活や生き方について考えを深めたりする。		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <p>子どもたちは、前年度の青田川での体験活動を想起したり、田植えを経験したりする中で、食と命が密接に関係していること、そしてそれをつなぐものが水であることに気付いた。私たちの暮らしにかけがいのない水が汚染され、人の命や生活を奪っていった新潟水俣病の学習へとつながっていった。学習を通して、体だけではなく、心も傷付いた新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の解消に向けて自分ができることを考え、児童の実践的態度を養うことをねらいとした。</p>			
<p>○ 活動概要 (新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。)</p> <p>(1) 新潟水俣病の概要を理解する。</p> <p>(2) 写真やあがのがわ環境学舎の方からいただいた資料を活用し、阿賀野川が人々の生活と密着した川であることへの理解を深める。</p> <p>(3) 現地学習会を通して、新潟水俣病を身近な問題として捉え、切実性をもちながら事実について学び、考えていく。</p> <p>(4) 「環境と人間のふれあい館」で語り部の方から聞いた実体験を基に、被害者のおもいや願いに寄り添う。</p> <p>(5) 新潟水俣病被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別解消のために行動しようとする気持ちを高める。</p> <p>(6) 新潟水俣病被害者と共に生きてきた旗野秀人さんのドキュメンタリー映画を視聴したり、旗野さんの講話を聴いたりし、差別解消のために自分ができることについて考える。</p> <p>(7) 活動を通して考えたことを感想文にまとめる。</p>			
○ 活動詳細			
実施期間	9月～2月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
総合的な学習	2	○阿賀野川の様子や、新潟水俣病の発生の仕方、メチル水銀・食物連鎖の仕組みについて、あがのがわ環境学舎の講師から指導していただく。	
総合的な学習	9	<p>現地学習会</p> <p>○山崎さんと資料や動画等で学んできたことを振り返りながら、旧昭和電工鹿瀬工場周辺の見学を行う。</p> <p>○環境と人間のふれあい館で語り部である小武節子さんと交流し、新潟水俣病患者への差別について学ぶ時間を設ける。</p> <p>○旗野秀人さんと交流し、「阿賀のお地藏さん」のことや建立にまつわる出来事について学ぶ。</p>	

総合的な学習	3	○現地学習会で学んできたことをまとめる。 ○交流した語り部の小武節子さんの生い立ちや新潟水俣病の症状を確認する。
同和学習	3	○新潟水俣病によって起こされた偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、行動しようとする意欲を高める。
国語	4	○これまでの学びを振り返り、作文にまとめる。

○ 協力団体・協力者等

- ・あがの川環境学舎 山崎陽さん、橋本めぐみさん
- ・環境と人間のふれあい館
- ・語り部 小武節子さん
- ・冥土のみやげ企画 旗野秀人さん

○ 成果と課題

[成果]

- ・事前学習では、あがのがわ環境学舎の山崎さんから新潟水俣病の概要を教えていただいたことで、原因や症状について理解することができた。現地学習でも山崎さんから指導していただいたので、短時間でも学習効果の高い学びになった。
- ・現地学習では、実際に阿賀野川を見学した。案内してくださった山崎さんが、当時の写真を見せながら説明してくださったこともあり、児童は阿賀野川流域に暮らす人々にとって、生活に欠かせない大切な川であった「命の川」が「魔の川」となったことを実感することができた。
- ・環境と人間のふれあい館では、語り部の小武さんの話をお聞きして、新潟水俣病の公式確認から60年以上経った今も続く偏見や差別の事実と向き合い、偏見や差別が続いている要因や、差別に立ち向かう被害者を支えている仲間やおもいに気付いた。
- ・現地学習後の授業では、差別が現在も続いているために、被害者の方は体だけでなく心までむしばまれていることについて、改めて深く考え、共有する時間を設けた。さらに、差別解消のために自分ができることを考えることができた。

[課題]

- ・事前学習や現地学習を通して、新潟水俣病の学習をいろいろな角度から学ぶことができた。しかし、児童にとっては身近な問題とはいえない。差別は、公認から60年たった今でもなお続いている。今後も学ぶ機会をもち続け、差別解消のための行動につなげていけるような支援をしていく必要がある。

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

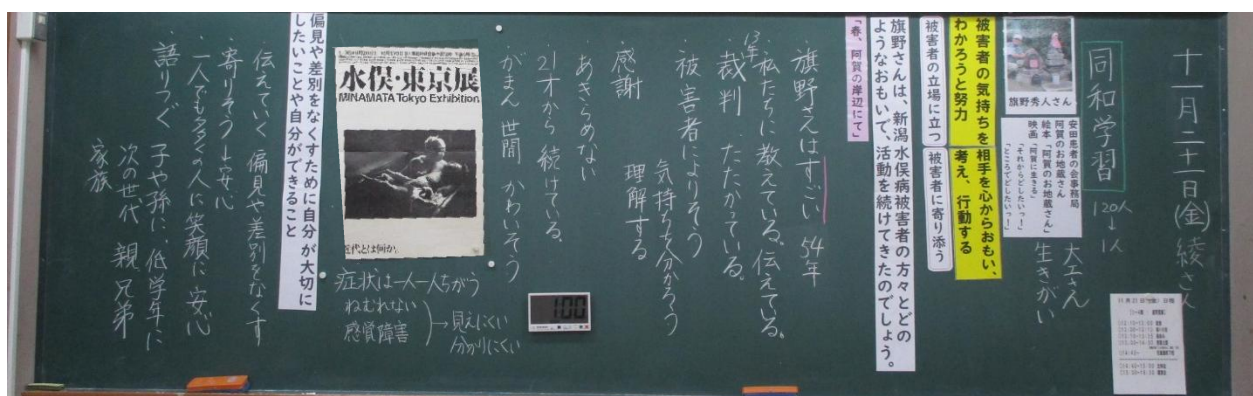
学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
上越市立東本町小学校	5年2組(34名)	11月21日	同和学習	教諭 滝沢真紀子

主題名 新潟水俣病の被害者に対する偏見や差別をなくすために

ねらい 新潟水俣病被害者とともに人生を歩んできた支援者の話を聞くことを通して、その生き方に込められた支援者のおもいについて考え、差別をなくすために行動していこうとする態度を育てる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	◎前時の学習を振り返り、思ったことを発表しましょう。	○Aさんや家族は、偏見や差別によってつらいおもいをした。	映画「阿賀に生きる」 映画「春、阿賀の岸辺にて」 ダイジェスト
40	◎旗野さんは、新潟水俣病被害者の方々とどのようなおもいで活動を続けてきたのでしょうか。 <映画ダイジェスト版 視聴> <旗野さんからのお話(児童の発表、質問などを受けて)>	○被害者のそばにいて、わかろうと努力することや相手の立場に立った言動が大切だと思う。 ○50年以上活動を続けている旗野さんはすごいと思う。 ○旗野さんは、自分にできることをして、被害者を笑顔にしたい、被害者の方に寄り添い続けたいと思っている。 ○「被害者はつらい、悲しい」だけではなく、明るく楽しい人生を歩んでほしいとおもいながら活動を続けている。	
15	◎旗野さんのお話や今日までの学習を通して、偏見や差別をなくすために自分が大切にしたいことや自分ができていることを考えましょう。	○旗野さんのように、相手の立場になって相手の気持ちを考えた行動をしたい。 ○新潟水俣病の正しい知識や事実を家族に伝えていきたい。 ○本当に被害者の立場を考えているのかをしっかりと考えていきたい。現実に起こっている新潟水俣病の被害者に対する差別をなくしていきたいことを家の人にも知らせたい。	

板書



授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・旗野さんの話を聞いて、私は苦しんでいる人々を助けたいと思いました。そして、私は大人になったら、困っている人々を助ける仕事ができるように頑張ります。旗野さんに教えてもらったことは絶対に忘れません。

・私は、新潟水俣病はもう二度と起こってほしくないと思いました。新潟水俣病の症状は、指の変形、耳鳴り、視界が狭くなるなど、たくさんあるのを学びました。だから、新潟水俣病を学んだ私たちが、未来につなげていきたいと思いました。

・人は弱い心をもっていて、弱い心は人を傷つけてしまう。「やめなよ」といえない弱い心。自分が差別をやめてもなくなる差別が、どんどん新潟水俣病の被害者を傷つけていく。役に立っているつもりでも自分が思っているだけ。差別をしてしまう弱い心、「みんなが強い心をもとう」と思えば差別はなくなると私は思いました。

・旗野さんのお話を聞いて思ったことは、被害者さんの隣にいて被害者さんの人生を分かろうとすることです。ぼくは、旗野さんを見習って、大人になったら新潟水俣病の患者さんの隣にいたいです。

・私は、偏見、決めつけ、いじめはよくないし、新潟水俣病の患者さんたちが、どれほど辛く悲しいおもいをしていたのかが分かりました。新潟水俣病の患者さんのためを思って、阿賀のお地藏さんを作ろうと思った旗野さんはすごいと思いました。これからは、新潟水俣病のような公害病が出ても決して偏見や差別はしないようにしようと思いました。

・私は、Aさんが灸や薬草を使ったらいい調子だったのに、翌朝に命を絶ってしまったことが、すごく悲しくなりました。旗野さんは、なぜ足を運んでいるのか、なぜ、新潟水俣病に取り組んでいるのだろうと自分に問いかけ、自分の力のなさをつくづく思い知らされたそうです。何のために活動をしているのか問いかけるというのがすごく伝わってきました。

・「助けになることをしてやっている」は、上から目線で仕方なくやっている感じがします。私は、してやっているではなく、相手の気持ちや立場をよく考えて、「自分からしている」の言葉になるようにしたいです。新潟水俣病を苦しんで自ら命を絶った人もいます。私が相手にとってうれしいだろうなと思っていたことでも、水俣病の被害者からすると「被害者じゃないのに」と悲しんだり、怒ってしまったりしてしまうこともあるので、私は、寄り添うことや相手の話をよく聞くことが大切だと考えました。

・私たちは、新潟水俣病患者の辛さ、苦しみ、悲しみを学びました。新潟水俣病のことを後世に伝え、もう二度とこのような偏見や差別がなくなることを願いたいと思います。私は、この学習を通して、差別や偏見は改めてよくないと思い、嘘か本当かわからない噂は信じない方がいいと思いました。私は、人をいたわる心、人を思いやることを忘れず、正しい知識を持ち、正しい判断をするようにします。

(様式2) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立北諏訪小学校	担当(職・氏名)	教諭・佐藤洋希
学習テーマ	自然環境と私たち ～身近なことから1つずつ～		
活動のねらい	川が流れつく海の現状を見たり、川の豊かさだけでなく川が媒体となって引き起こされた公害があることを学習したりすることを通して、自然環境を守ろうとする意識を醸成し、実際に行動に起こそうとする姿の育成。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 4学年での学習で、学校の近くを流れる川の学習を行った。その川の学習から、川が起因となった公害について学習し、自然の豊かさについて知っている一方で、負の側面もあることを知り、より川が生活に身近なものであることに気付く。			
○ 活動概要 (新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。)			
①新潟水俣病について知る(6月上旬～7月上旬) 新潟水俣病について資料やインターネット等で調べ学習を行い、正しく理解を進める。			
②環境と人間のふれあい館での現地学習(9月) 語り部さんの講話を聞き、施設の見学をする。新潟水俣病の原因や症状、差別の実態について学習する。			
③新潟水俣病患者への差別と、その差別の中で立ち向かう姿を学ぶ(9月) 人権教育の学習として、新潟水俣病患者が受けた差別と、その差別の中で認定を求めて立ち向かった人の姿を学ぶ。様々な人との協力、支え合いによって立ち向かう勇気が出ることに気づき、差別に対しての自身の表明を行う。			
④学んだことのまとめと、学習成果発表(9月～10月) 学んだことを仲間と協力してまとめ、他学年や家族、地域の方へ伝える。			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年6月～10月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
新潟水俣病との出会い	2	学習に入る前に、新潟水俣病について知っていることを把握した。「名前を聞いたことがある」という児童が2人いたが、詳しくは知らなかった。	
新潟水俣病について詳しく知る	6	環境と人間のふれあい館から借用した映像資料や、いただいた紙の資料を基に、調べてまとめる学習を行った。調べた情報は児童同士で共有することで、正確な情報がまとまるようにした。	
環境と人間のふれあい館の見学 語り部さんの講話を聞く	2	環境と人間のふれあい館を訪問した。職員の方に案内をしていただき、原因や症状、差別について詳しく聞いた。また、語り部・小町ゆみ子様講話を聞き、新潟水俣病がある生活について知った。差別が今も続いていることを直接聞き、改めて課題意識を持った。	

新潟水俣病の差別とそれに立ち向かう人の姿	4	資料を基に、差別の実態を知り、差別を受けることで新潟水俣病患者がどのような気持ちになるかを想像し、差別の不当性に憤りを感じた。そのような差別の中でも、裁判等に参加し、行動することができた理由として、行動を支える人の存在が勇気を与えることを学習した。また、差別をなくすために自分にできることを考え、共鳴することで、行動の指針となるものを意識した。
学習のまとめと発表準備	10	学習発表会に向けて、学んだことをまとめた。原稿やスライド資料の作成を児童が中心になって行った。
学習成果発表	1	全校、地域の方の前で発表をした。学習したこと、考えたことを伝えることができた。

○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

- ・ 環境と人間のふれあい館 —新潟水俣病資料館— 様
- ・ 語り部 小町ゆみ子 様

○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

<成果>

- ・ 子どもたちが第4学年で川について詳しく学習していたことで、繋がりがあったため、興味を持って学習に取り組むことができた。
- ・ 学習する前は、新潟水俣病について「名前を聞いたことがない」「名前は聞いたことがあるが、詳しくは分からない」と全員が答えたが、資料の内容を要約したり、お互いに説明し合ったりする活動を通して、自分に分かる言葉で理解を進めた。学習が進むにつれ、重大な問題であることに気づき、「何とかしなくてはならない」と思う児童が増えた。
- ・ 環境と人間のふれあい館を見学し、語り部である小町ゆみ子様のお話を直接聞くことができ、児童にとって暮らしの中に当たり前存在していることを実感できた。
- ・ 新潟水俣病について、もっと多くの人に詳しく知ってほしいという思いを持った児童は、学習発表会で新潟水俣病の原因、裁判、受けた差別について保護者・地域に説明をし、自分たちがどう行動していくかを表明することができた。

<課題>

- ・ 自然環境を守っていくための行動を継続していけるよう、今後も支援していく必要がある。自然環境に関わる話題を出し、解決や防止の方法を考える場を引き続き設定していく。
- ・ 新潟水俣病の差別をきっかけに、あらゆる差別を捉えるようになってきた。このことをさらに広げ、差別を見逃さずに、なくしていくための行動を続けられるよう、継続した支援が必要である。また、6年生で学習する「部落差別」へ意識を繋げていきたい。

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
上越市立北諏訪小学校	5年1組(9人)	9月26日	人権教育	教諭・佐藤洋希

主題名 生き方を求める「ある新潟水俣病患者の訴え」

ねらい 新潟水俣病の下人追究や公害認定に向けて、懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して、差別や偏見に屈することなく、立ち上がっていくことの大切さを学ぶ。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5分	「これまでの新潟水俣病の学習、語り部さんのお話などから、どんなことを覚えていますか。」 ・学習で使ってきた資料、掲示を黒板に示して、思い出すことができるようにした。	○これまでの学習の復習 ・新潟水俣病の症状は人によって違う。 ・「心のつらさ」と「体のつらさ」がある。 ・「体のつらさ」は症状のこと。「心のつらさ」は差別や、家族との関係のこと。 ・症状に苦しむ人や差別はまだなくなっていない。	生きるⅢ 「ある水俣病患者の訴え」
25分	・資料の配付と範読 「どうして『わたし』は、心や体のつらさを感じながらも、活動を続けることができたのでしょうか。」 ・資料内のことだけでなく、語り部さんの講話や、環境と人間のふれあい館の見学から学んだことを思い出せるよう、その時のワークシートを配付した。	○資料内の「わたし」が、差別に負けずに闘い続けることができた理由を見つける ・支援団体や、同じ症状で苦しむ人と支え合っていたから。 ・協力してくれる人がいて、その人に支えられていたから。 ・「新潟水俣病でないなら、私の病気はいったい何なのだ…それが知りたい」という思いがあったから。 ・同じ苦しみを次の世代の人たちに味わってほしくないから。	
15分	「差別や偏見をなくすため、増やさないために、これからの自分には何ができるでしょうか。」 ・児童自身の行動や生き方について明確にし、より具体的な行動に繋がるよう、行動する理由や、なりたい姿を目指すために何をするかを聞き、児童の中で明らかにした。	○これまでの学習から、差別をなくすために自分ができることを考え、発表する ・決めつけをしないで、よく話をして人と関わる。 ・困っている人がいたら、話を聞いて支えたりして、その人が勇気を持って行動できるように手伝える。 ・差別はつらいことだから、悪口を言ったり、差別につながるような行動を絶対にしない。	

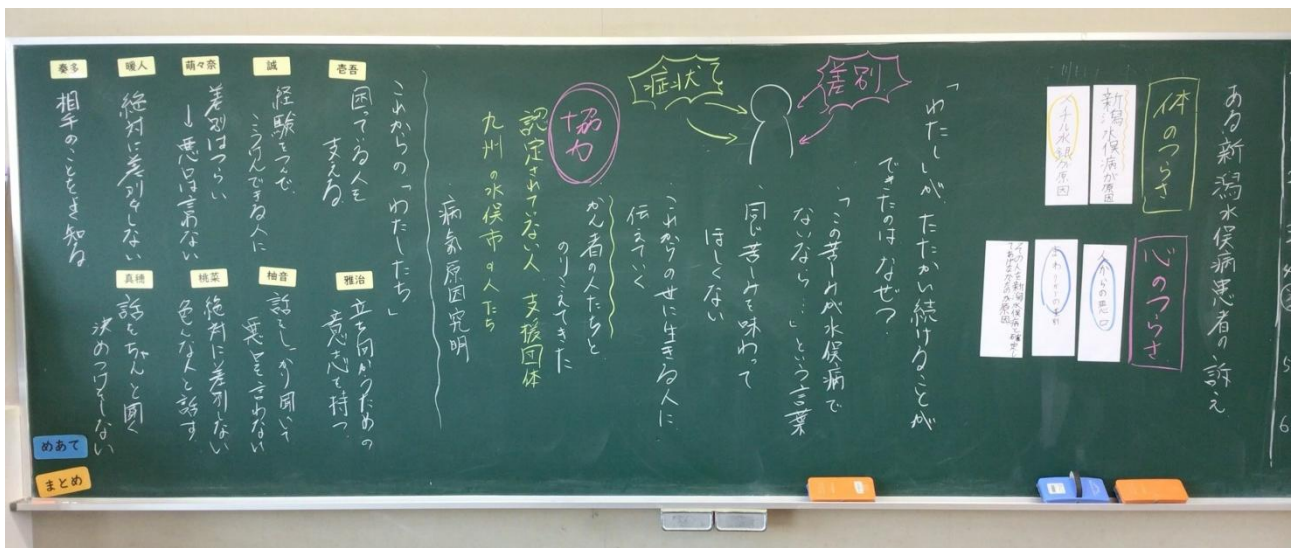
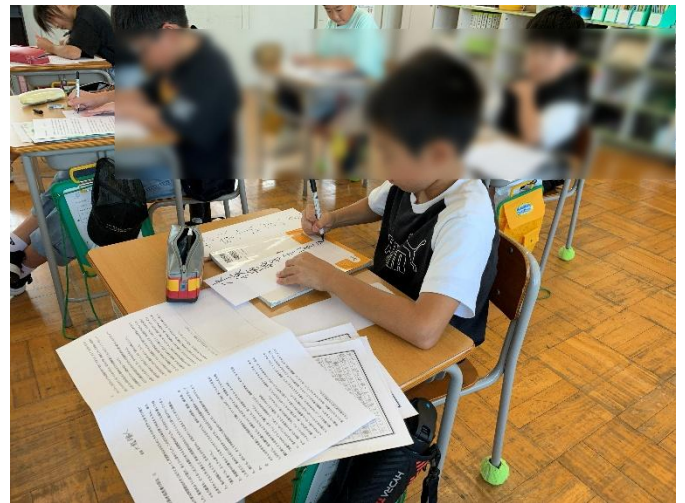
授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・新潟水俣病の学習をしてきて、差別のつらさを知ることができました。原因が分からないというだけで、差別を受けたら、自分だったらとてもつらいと思います。だから、どんなことがあっても差別は絶対にしないと決めたとし、差別をしている人がいたら、やめるように声を掛けます。

・新潟水俣病は、体だけでなく、心もつらくなってしまいます。症状だけでもつらいのに、さらに差別や家族とのけんかもあると、もっとつらくなってしまいます。差別がなければ、それだけでも楽になると思う。今も差別が続いているので、少しでも差別をなくすことができるように、自分が差別になるような言葉を言ったり、行動をしたりしないようにする。

・協力する人がいるということで、行動をする勇気が出てくるということが分かった。僕は、行動をしようと思っている仲間を支援して、その人が安心して行動できるようにしたい。そのためには、話を聞いたり、周りをよく見たりできる人になりたい。

・私はどんな人ともしっかり話をし、関わっていきたくです。「何を考えているか」とか「どうしてそう考えたか」を知ることで、きめつけや勘違いがなくなって、差別につながるものが減ると思います。



(様式2) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	妙高市立新井中央小学校	担当(職・氏名)	教諭 小林 俊人
学習テーマ	「～命をつなぐ『しょく』の物語～」		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験活動などを通して、「生き物」の「いのち」を食べることや、そのために行う人間の行為の意味を自身に問い直そうとする態度を育む。 ・新潟水俣病に関する調査・体験活動を通して、人間と食、身近な環境とのつながりについて考えをもち、偏見や差別の解消のために、自分たちに出来ることを行動しようとする気持ちを高める。 		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料活用により、阿賀野川流域の人々の生活や「新潟水俣病」の原因・症状・被害・裁判等についての理解を深める。 ・「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行い、語り部の方から直接体験談を聴き、偏見や差別の現実を深く学ぶ。 ・「新潟水俣病」にかかわる学習を根拠にして、差別をなくすために自分自身でできることを考え、文章に表す。 			
<p>○ 活動概要 (新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。)</p> <p>(1) 各種資料を活用し、「阿賀野川」がその地域の人々の生活に密着した川であることや、「新潟水俣病」の概要を知る。</p> <p>(2) 「新潟水俣病」にかかわる現地学習会を通して、「新潟水俣病」の被害者の思いや願いを理解したり、差別解消のために行動しようとする気持ちを高めたりする。</p> <p>(3) 「新潟水俣病」について考えたことを振り返り、自分が今後よりよく生きていくために、大切にしていきたいことを作文にまとめる。</p>			
○ 活動詳細			
実施期間	10月～ 2月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
社会科	1	<p>○四大公害病についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害病の原因と状況を知るとともに、新潟水俣病がいつ、どこで、どんな公害なのか概要を知る。 	
なかまの時間 (同和学習)	1	<p>○新潟水俣病について深く知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVDを視聴したり、パンフレットを活用したりして、新潟水俣病のあらましや差別や偏見の実態を知る。 	
なかまの時間 (同和学習)	2	<p>○現地学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部さんの講話を聴き、館内を案内役のもとで見学をし、阿賀野川の状況や新潟水俣病の偏見や差別の現実学ぶ。 	
なかまの時間 (同和学習)	1	<p>○現地学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病の背景や偏見・差別の実態、語り部の話から分かったことなどを、シートにまとめる。 	
なかまの時間 (同和学習)	1	<p>○病気に対する差別を許さない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別 	

		に立ち向かう生き方に共感することを通して、差別を許さず、差別の解消のために自分にできることを行っていくとする気持ちを高める。
国語	2	○新潟水俣病作文や意見文を書く ・新潟水俣病の学習を通して理解したことや、自分の生き方について考えたことを作文にまとめる。
なかまの時間（同和学習）	1	○新潟水俣病と職業差別の振り返り（学習参観） ・新潟水俣病と職業差別（と畜業者差別）の問題点を振り返り、これからの生活で気を付けていかなければならないことを考える。

○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

- ・語り部 曾我 浩 さん
- ・新潟県立環境と人間のふれあい館

○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

[成果]

・事前学習として四大公害病についての原因や状況を学ぶとともに、DVD やパンフレットを活用することで、新潟水俣病の概要や差別・偏見の実態についてあらかじめ知識をもって現地学習に臨むことができた。



・「環境と人間のふれあい館」への訪問では、館内のジオラマ模型や展示を通して、阿賀野川と人々の暮らしの深いつながりや、有機水銀による環境汚染がもたらす深刻な問題について理解を深めることができた。

・現地学習では、語り部の曾我さんから、長年患者さんに寄り添ってこられた経験や、環境を守る大切さ、差別をなくしていくという思いを聞くことができた。実際の仕事場や展示、語り部の話を通して、自然と人間がともに生きる難しさや大切さを感じ取ることができた。



・「病気に対する差別を許さない」の学習や、新潟水俣病と職業差別（と畜業者差別）の問題点の振り返りを通して、被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することができた。これにより、子どもたちは「見えない苦しみを抱える人がいること」に気付き、相手の立場に寄り添うことの重要性を学んだ。

・一連の学習を経て、自分が理解したことやこれからの生き方について作文や意見文にまとめることで、これからの生活で気を付けていかなければならないことを深く考える機会となった。

[課題]

・新潟水俣病の学習を通して「命を支える仕事の大切さ」や「相手を大切に作る心」への気付きは生まれたが、今後はこの気付きをさらに深め、確実な人権教育や同和教育へとつなげていく必要がある。

・学習の中で得た「差別や偏見を決して許さず、相手の立場に寄り添って行動する」という意識を、日常の小さな会話や行動の中で具体的に実践できる子どもを育てていくことが継続的な課題である。

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新井中央小学校	5年1組・2組	令和8年2月16日(月)	なかまの時間(同和学習)	教諭・郷戸俊彦 教諭・小林俊人

主題名 【病気による差別をなくそう】

ねらい 新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することを通して、差別を許さず、差別の解消のために自分にできることを行っていこうとする気持ちを高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
	<p>◎新潟水俣病に対する偏見や差別にはどんなものがありましたか。</p> <p>◎語り部のAさん(小武さん)は、どんな気持ちだったと思いますか。</p> <p>◎運動に参加したAさんが「変わったこと」は何でしょう。一方で「変わらないこと」は何でしょう。</p> <p>◎Aさんは、なぜ、語り部を続けているのでしょうか。</p> <p>◎「ほっかむりはやめよう」と考え、新潟水俣病の真実を伝えようがんばっているAさんの姿や生き方、この学習で考えたことを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病はうつる、仕事をしないとされた。 ・魚を取りすぎたタタリだと言われた。 ・ニセ患者、金欲しさに裁判を起こしていると言われた。 ・地域の人に悪口を言われて、ここに住むのがつらい。 ・体も病気であつらいのに、家族まで変わってしまつて悲しい。 ・病気のつらさを分かってほしい。 ・「変わったこと」は、ほっかむりをやめて顔を出すようになったこと。前向きな気持ちになったこと。 ・「変わらないこと」は、手足のしびれなどの病気の症状と、世間の差別。 ・差別は間違っていると伝えたいから。 ・本当のことを知ってほしいから。 ・自分たちのような被害者を二度と出さないため。 ・子どもや孫たちにこの苦しみを味わわせないため。 ・差別や偏見をなくすために、新潟水俣病を正しく伝える。 ・もっと語り部さんの話を聞き、これからもずっと新潟水俣病に関心を持ち続ける。 ・身近な家族から伝えていく。 ・本当のことを何も知ろうとせず、周りの意見に流されるのはよくない。 	『いっちゃんめい水らった』越書房 一部抜粋

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

- ・新潟水俣病を治す薬はないけれど、新潟水俣病になった人も自信をもって生きてほしい。他の人にも知ってほしいと思いました。
- ・本当に何も悪いことをしていないのに、悪い者あつかいをされている。この話を聞いて、病気による差別を絶対にしないようにしたいです。
- ・小武さんは、いろいろひどいことを言われてたけど、仲間が増えていって心が明るくなった。仲間の発言によって勇気をもって行動できたことや新潟水俣病を隠すことをやめようと思ったところがすごい。
- ・まず新潟水俣病の原因にもなった自然を壊す環境破壊をしないことに気をつけたいです。そして差別・偏見をなくして逆に困っている人のことを助けてあげることしたいです。
- ・新潟水俣病の真実をみんなに知ってもらいたい。とてもつらくとても大変な生活をしているということを知ってもらいたいです。
- ・差別や決めつけをすることでつらい思いをする人がたくさんいる。だから僕は差別をしないように、差別している人には注意してあげたほうが人のためになると思った。
- ・人がうわさ話をしていると、周りの人も正しいことだと思ってしまうから、自分で正しいことを伝えたりして、本当のことを伝えなきゃいけないと思いました。
- ・見て見ぬふりをしてしまうと、うわさ話や差別をしている人と同罪になるから、自分も気を付けていきます。

(様式2) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	妙高市立妙高高原小学校	担当(職・氏名)	教諭・松風 幸恵
学習テーマ	見つめよう「食と命と自然」		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「食」を通して自然の豊かさの上に成り立つ人間の生活を見直し、自然の恵みに気付く。 ・新潟水俣病を通して、人間と食、人間と環境のつながりについて考えたり、偏見や差別の解消に向けて行動しようとしたりする気持ちを高める。 ・「食と命と自然」について、自らの考えをもち行動できるようにする。 		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料活用により、新潟水俣病の原因・症状・被害・現在も続く裁判などについて学び、問題への正しい理解を深める。 ・被害者取材をまとめた新聞資料や語り部との出会いを通して、新潟水俣病が引き起こした被害や差別の現実を深く理解するとともに解決に向けて力強く行動する人々の生き方に学ぶ。 ・保護者参観での発表を機会として、一連の学習から学んだことや、差別に対しての自分の考えをじっくりまとめ、発信の機会とする。 			
<p>○ 活動概要</p> <p>①地元の方からご指導いただいたの山菜収穫体験や、野草研究所の見学を通して、地域の山菜や野草の種類や人との関わりについての理解を深める。 (自然の恵み、人々の生活の知恵、安全安心な食のための取組、微生物の役割、農業について)</p> <p>②自然体験学習で、自らサザエを採ったり魚をさばいて食べたりすることを経験し、食への興味・関心を高める。 (「命をいただく」ことへの実感、食材や調理への感謝)</p> <p>③新潟水俣病についての事前学習を行う。 (新潟水俣病の原因、被害と差別について概要を知り、新聞記事を活用して調べる意欲をもつ)</p> <p>④環境と人間のふれあい館での現地学習を行う。 (新潟水俣病についての学習を深めると共に、語り部との出会いを通して問題を自分事として考える機会とする)</p> <p>⑤学習参観で、保護者や地域の方・教職員に向けて、学んだことや自分の考えを発信する。 (新潟水俣病で学んだことを振り返り、自然や差別問題についての自分の考えをもつ、自然と自分や差別に対しての考えを発表する)</p>			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年4月～令和8年3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
「山菜パラダイス」 ・山菜採り ・山菜料理作り	10	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から指導を仰ぎ、山菜とり体験を行う。 ・土壌や生育環境など、自然の着眼点を与える。 ・筍汁やウドの天ぷらなど、自分たちでとった山菜を調理して食することで、食や自然の恵みに対する興味・関心を高める。 	

「野草パラダイス」 ・ミヤトウ野草研究所 工場見学	3	<ul style="list-style-type: none"> ・工場の方の話から、地元でとれる野草の種類を知る。 ・酵素やその働き
「スマイル・チャレンジ・リスペクト～自然体験学習～」 ・サザエ採り体験 ・海の生き物探し ・夕日鑑賞 ・魚さばき体験	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物を探したり、夕日をじっくり見たりすることで、自然の素晴らしさを再発見する。 ・自分の採ったサザエや自分のさばいた魚を食することで、食への関心や感謝の気持ちを高める。
川の水質を調べてみよう	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を流れる関川の上流・中流・下流の河川の様子の観察を行う。 ・その中で、水質調査や水生生物調査を行い、自然環境の豊かさに目を向けさせる。
「栗パラダイス」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から指導を仰ぎ、栗拾い体験を行う。 ・土壌や生育環境など、自然の着眼点を与える。 ・モンブランや栗きんとんなど、自分たちでとった栗を調理して食することで、食や自然の恵みに対する興味・関心を高める。
新潟水俣病に関する学習	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDやリーフレットを活用し、新潟水俣病の原因、被害などの概要を学ぶ。 ・新聞記事を用いて、新潟水俣病の被害についてより詳しく学び、差別について問題意識をもち、自ら考えようとする心情を育む。 ・環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部さんから実際に体験談を聞くことで、被害者の心情に寄り添い差別解消のために自ら行動しようとする心情を高める。
冬の自然と食	2	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然と保存食の工夫について調べる。
考えよう・自然と自分	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや自分の考えを話し合う。 ・授業参観で学んだことや自分の考えを表現するという目的意識をもち、新潟水俣病問題を通して学んだことをプレゼンテーションにまとめる。
○ 協力団体・協力者等 ・山菜取り指導 星川定男様（地元農業関係者） ・栗収穫指導 岡田和則様（地元協力者） ・現地学習語り部 水澤 洋 様		

○ 成果と課題

【成果】

- ・「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために」や新潟水俣病の患者を特集した新聞記事、環境と人間のふれあい館への現地学習を通して、児童は新潟水俣病の原因や被害や差別の実態について理解を深めると共に、自らこの問題について考えていこうとする意欲をもつことができた。
- ・語り部の水澤さんに実際にお会いして、新潟水俣病の問題が半世紀以上かかってはまだ解決していないこと、偏見や差別の現状や問題解決に向かって自ら行動していく人々やそれ支える人々のお話をお聞きした。設定時間が足りないほど次々に質問が沸き上がり、児童がこの問題に対して主体的に考え行動していく心情の高まりが見られた。

【課題】

- ・児童の感想に「水澤さんは『人の心の中に新潟水俣病の源流がある』と語っていた。差別する人もいれば、水澤さんを助け励ます人もいた。私もこの問題を忘れずに自分の生き方を考えていきたい。」という感想があった。児童一人一人にこの問題の深い理解と自分とのつながりを認識させるためにも、現地学習や語り部との出会いは非常に有効であり、学習に欠かせない。県内は広いため、当校のように遠隔地での学習を考えると、時間・費用面で課題が残る。どの学校も本事業のような支援をより積極的に受けられるような支援の拡充が求められると感じた。

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
妙高市立妙高高原小学校	13	11/27	総合	教諭・松風 幸恵

主題名 新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見をなくす
 ねらい 資料から新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見の実態について学んだり、差別や病気に負けず前を向いて歩もうとする生き方に学んだりして、差別の解消のために自ら学んでいこうとする態度を育む。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	○前時までの学習を振り返り、新潟水俣病の発生原因や症状について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ●メチル水銀が食物連鎖を通して魚にたまって、それを食べた人の体内に入ってしまった。 ●手足のしびれ、耳なり、めまい、視野がせまくなる、頭痛など 	「未来へ語りついで」P17、18
25	○新潟水俣病の被害者の暮らしを取材した新聞記事から、今日は学んでいきましょう。 新聞記事を読み、疑問に思ったことやおかしい、すごいと感じたことを出し合い、新潟水俣病で苦しんでいる人の気持ちを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を拡大提示し、自分で選んだ記事の机で学習する。 ・補助資料として、個人用に新聞記事も配付する。 ・記事の選定としては「苦しい症状や厳しい差別の実態」「差別に立ち向かう生き方」「差別しない仲間の支援」から5種類選定した。 ・まずは個人用の新聞記事を読み、疑問に思った箇所とおかしいと感じた箇所、すごいと思った箇所に色を指定して線を引かせた。 ・その後に、同じ新聞記事のグループで意見交流し、拡大新聞記事にまとめさせた。線を引いた部分では、なぜそう感じたのかを記すよう指示した。 	新潟潟日報社新聞特集記事「素顔」



		<ul style="list-style-type: none"> ●周囲の人や同級生から、噂をされたり、いきなり殴られたりしたなんてひどい。これらは、きめつけや偏見からくる差別だ。病気で苦しみ、さらに差別で我慢しなければならないなんておかしい。 ●水俣病だとわかると、自分の家族も差別を受けるかもしれないという不安から、本当のことを話せないことはとても悲しい。 ●差別をする人もいたけど、なかよくしてくれる人もいた。そういう人こそ本当の仲間だと思うし、私もそういう人になりたい。 	
10	○グループで出た意見を全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大新聞の書き込みを見せながら、グループごとに発表する。 ・教師の補助質問で、そう感じたわけをはっきりさせていく。 ・感じたことをワークシートにまとめる。 	
5	○本時のまとめをする。 ・今日は新聞記事を通して、被害者の方と出会い学んでいきました。次回は実際に新潟水俣病の語り部さんにお会いして学んでいきたいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習までにさらに調べたいこと、確かめたいことをはっきりさせるよう意識づける。 	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

<ul style="list-style-type: none"> ・何も悪いことをしていないのに、そして病気で苦しい思いをしているのに、学校や病院で差別を受けるなんてひどいと思いました。また、水俣病だとわかると家族まで差別されて、就職や結婚ができなくなるなどしたので、病気を隠す人もいました。本当のことが言えない、つらい気持ちを隠さなくてはいけないことがひどいと思いました。 ・「裁判で争っている最中も、輪投げ仲間は以前と変わらず接してくれた。かけがえのない仲間なんだわ。」というところを読み、私はこういう仲間が本当の仲間だと思いました。 ・病気にかかっても、自分や家族への差別が不安で、名前を公表できないことを知りました。他にも、新聞記事を読んで、いろいろな差別を受けても、がまんしていたことが分かりました。名前や顔を公表したり、裁判で闘ったりすることはとても勇気がいることだと思ったけど、行動したことがすごいと思いました。 ・「川魚を与えていた飼い犬が死んだ。」というところを読み、周りの魚や動物にも影響があったことを知りました。人間のせいで、苦しんで死んでしまった動物がかわいそうだと思います。 ・私は新聞記事を読み、和解までになぜそんなに長く時間がかかったのかと疑問に思いました。

(様式2)

小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立五泉小学校	担当(職・氏名)	教諭 長谷川 裕子 高橋 杏奈
学習テーマ	五泉の水博士になろう		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種トゲソの生態と環境について学び、人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ・川の汚れが何に起因しているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶことで、環境を守る意識を高める。 ・あがのがわ環境学舎の方のお話などから、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。 		
○ 新潟水俣病とのかかわり 水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること、また、水を汚したことにより近くの阿賀野川で新潟水俣病が発生したことを知る。そして、あがのがわ環境学舎の方から水俣病についての話を聞き、学びを深める。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。） <ul style="list-style-type: none"> ・川を汚したことによりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。 ・五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地見学をする。簡易 COD パックテストなどにより、家庭からの排水が川の汚れの一つであることを知る。水の浄化実験を通して、水を汚さないためには、どうしたらよいかを考える。 ・あがのがわ環境学舎の方の話を聞き、公害の実態を知る。そして、このような環境問題や水にかかわる問題に対し、どのように考え、行動していったらよいかを考え活動する。 			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年6月～令和8年1月（45時間）		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
トゲソについて知ろう	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「トゲソの会」の方から、トゲソの生態について学ぶ。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。 	
トゲソの里を訪ねよう	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「トゲソの会」の方の案内で、トゲソの生息地を訪問し、トゲソや周囲の自然の観察、外来種の駆除活動を行う。 ・気付いたことや学んだことをワークシートなどにまとめる。 	
水の循環について知ろう 水の汚れを調べよう	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「トゲソの会」の方から水の循環について学び、水の旅について考える。 ・CODパックテストで3種類の水の汚れを調べる。 ・学んだことや考えたことについてワークシートにまとめる。 	
水の浄化実験をしよう	4	<ul style="list-style-type: none"> ・水の浄化について学び、実験を通じて水がきれいになる方法を考える。 ・現在の工場排水の流れについての話を聞き、新潟水俣病について知る。 	

		・ どうしたら水を汚さないようにできるのかを考える。
あがのがわ環境学舎の方のお話を聞いて考えよう	2	・ あがのがわ環境学舎の方の新潟水俣病について話を聞き、新潟水俣病の現状について理解を深める。
五泉の水や水にかかわる環境問題、新潟水俣病について調べ、自分たちにできることを考える。	10	・ 五泉の水、日本や世界における水問題や新潟水俣病について、本やインターネットなどで調べ、自分たちにできることを考える。 ・ グループごとに自分たちが考えた活動を行う。
学習したことをまとめて発表しよう	10	・ 五泉の水環境について調べたことや学んだこと、自分たちが行った活動などをスライドにまとめ、保護者に向けて発表する。
<p>○ 協力団体・協力者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人五泉トゲソの会 ・ CMK蒲原工場 ・ あがのがわ環境学舎 		
<p>○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「トゲソの会」のみなさんや「あがのがわ環境学舎」の方の協力により、トゲソや新潟水俣病について体験的に学ぶことができた。児童が身近な水環境や自然について、関心をもって学習に取り組む姿が見られた。 ・ 学習を進める中で、児童に「きれいな水を守るために自分たちにできること」を考え、実践していこうという意識が芽生え、実際に活動することができた。 ・ 自分たちが調べたり考えたりしたこと、自分たちが行った活動をまとめて、授業参観日に発表会を行った。児童同士だけでなく保護者へも発信することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「トゲソの会」からの協力による活動だけでなく、地域に流れる川を題材として水と自分たちの生活との関わりについて追究させると、より自分事として身近に捉えられたかもしれない。 ・ トゲソや新潟水俣病について教えていただくだけでなく、自分たちで調べる活動を充実させることで、自分たちにどんなことができるかをより具体的に考えられたかもしれない。 		



【トゲソを知る・水の循環を考える】

トゲソの会の齋藤さんからトゲソについて教えてもらった。

トゲソがなぜ絶滅しそうになっているのかを、水の循環や環境との関わり視点から考えた。



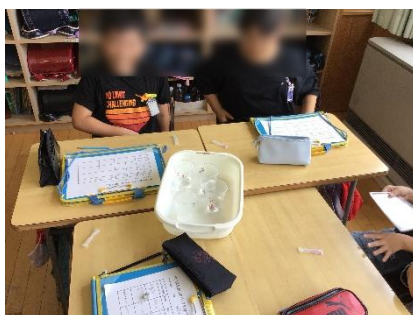
【トゲソの里見学・ザリガニ駆除】

トゲソの里に行き、トゲソが生息しているのはどのような場所なのかを、水を触ったり、周りの自然を観察したりして確認した。トゲソの絶滅を防ぐために、ザリガニの駆除作業を行った。地域に湧き出る「どばしっこ清水」で湧き水を試飲することもできた。



【浄化実験】

身近にある道具を活用し、汚れた水をきれいにする方法をグループごとに実験して確かめた。色のついた水がきれいになる様子を観察することができた。



【水の循環・COD調査】

水道水、米の研ぎ汁、牛乳を混ぜた水の3種類の水の汚れをCODにより調べた。家庭から出る生活排水が水を汚す原因の一つであることを学んだ。



【新潟水俣病出前講座】～「あのがわ環境学舎」の方をお招きして～

水がきっかけで大きな公害病が起こった事実を知ることができた。水が汚れることで人間にも影響を及ぼすことがあることが分かり、水について考えることが自分たちにとっても重要であると実感することができた。





(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立五泉小学校	2クラス(72名)	11月17日	総合的な学習	教諭 長谷川裕子 高橋 杏奈

主題名 わたしたちの生活と水

ねらい あがのがわ環境学舎の方の話から、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5分	○あがのがわ環境学舎の山崎さんの紹介		
40分	 	<ul style="list-style-type: none"> ●導入・被害の概要を知る。 新潟水俣病とは 阿賀野川の地図を確認 新潟水俣病の被害 食物連鎖と昔の暮らしの関係 被害の4つのポイント ●ワークシートにメモを取りながら、話を聞く。 	・パワーポイント
40分		<ul style="list-style-type: none"> ●発生原因の概要を知る。 工場の歴史をたどろう なぜ、危険な製品を作ってしまったのだろう ●ワークシートにメモを取りながら、話を聞く。 	・パワーポイント
5分	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや感じたこと、考えたことを書く。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの方が被害にあっていたことが分かりました。 ・水俣病で、どのくらいの方が被害にあったのか知りたかったので、よく分かりました。 ・水俣病で多くの方が苦しめられていたということが分かりました。水俣病が起きないようにするために、どうしたらいいか考えたいと思いました。 ・水俣病は昭和電工という会社のせいで起きたことが分かりました。もう二度と水俣病が起きないでほしいと思いました。 ・食物連鎖というのを初めて知りました。生き物のためにも人間のためにも川をきれいにしたいと思いました。
--

(様式 2)

小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立 五泉南小学校	担当(職・氏名)	4年 教諭 加藤 奈緒子 教諭 中澤 芽生 教諭 藤崎 美月
学習テーマ	4年総合的な学習…五泉市に生息する魚「トゲソ」を通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。		
活動のねらい	4年…きれいな水にすむ魚「トゲソ」について学び、人間が生活する上で川などの自然にどれだけ負荷をかけているかを知ることができる。川などの汚れの原因を知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶことができる。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 4年…人間が川を汚したことが原因でトゲソが絶滅に瀕していることを知る。そして、人が生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で、新潟水俣病は水の汚染が原因であることを学び、水の汚染が環境にどのような影響を及ぼしているのか、一人一人がどのように考えたらよいのかを考える。			
○ 活動概要 (新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。) 4年…五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学んだ。簡易CODパックテストなどにより子どもたちは、トゲソの絶滅に瀕する主な原因が家庭からの排水、汚れであることを知る。そして、トゲソだけでなく、近くの阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことについて、あがのがわ環境学舎の方を講師にして学んだ。 ※4年生は、学んだことをポスターや新聞などにして他学年に発信した。			
○ 活動詳細 4年生は4回にわたってトゲソの関連で現地訪問、授業、実験を行った。また、当校のビオトープでトゲソの生息数調査を実施した。加えて、人間が水を汚したことによって、新潟水俣病が引き起こされたことを知り、五泉の水を大切にしていくことが大事であることを学んだ。 阿賀野川に上るサケの捕獲場や捕獲作業、受精の方法、飼育の仕方を見学した。その後、自分たちで、サケの稚魚が大きくなるまで、みんなで協力して飼育し、能代川に放流した。			
実施期間	令和7年6月～令和8年3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
① 6月5日(木) ・トゲソについて	9:20～ 11:10	トゲソの会の方の話聞く ・トゲソはどんな魚か ・どうしてトゲソはいなくなったのあろうか?	
② 6月12日(木) ・トゲソの生息地調査	9:20～ 11:30	トゲソの生息地を実際に調べる。水温を計測、地下水を味わう、ザリガニ駆除の手伝い。カナダモの除去法は?	
③ 6月25日(水) ・水の循環について ・水質調査	10:20～ 12:00	水の循環、水の旅を考える 水の汚れを調べる CODテスト3種類の水実験。	
④ 6月28日(金) ・新潟水俣病について	13:25～ 14:10	人権教育授業～新潟水俣病について①～ あがのがわ環境学舎 山崎 陽 様の話を聞く	

⑤ 7月22日(火) ・新潟水俣病について	9:20～ 11:10	人権教育授業～新潟水俣病について②～ あがのがわ環境学舎 山崎 陽 様の話を聞く
⑥ 9月11日(木) ・校内ビオトープの調査	9:20～ 12:00	校内ビオトープ「南の泉」のトゲソ生息数調査 生き物調査・水生植物の調査
⑦ 12月1日(月) ・サケの人工授精見学 ・サケの飼育について	8:30～ 9:15	サケの人工授精の様子を見学する サケの飼育方法を知る
⑧ 12月8日(月) ・捕獲場や作業の見学	9:00～ 10:40	サケの捕獲場や捕獲作業を見学する。 サケが海から川に帰ってくることを知る。
⑨ 3月5日(木) ・育てたサケの放流	9:40～ 10:20	能代川に育てたサケの稚魚を放流する。
⑩ 3月9日(月) ・ポスターや新聞などを 校内に掲示する ・校内放送で紹介する。	13:45～ 14:30	学習したことを全校に発信しよう。
○ 協力団体・協力者等 NPO法人五泉トゲソの会 一般財団法人あがのがわ環境学舎 山崎 陽 様 阿賀野川河川事務所(サケを守る会)		
○ 成果と課題(※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容にふれてください。)		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・五泉市に生息する身近なトゲソという淡水魚について学ぶことを通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、水の浄化について学ぶことができた。 ・新潟水俣病を含め、私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、一人一人が環境を保護することへの意識を高めることができた。 		
課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・トゲソやサケについての学習が中心となり、新潟水俣病については、話を聞くだけになった。もう少し自分たちで調べる学習が設定できるとよかった。5年生の新潟水俣病の学習につなげていきたい。 		

【活動成果参考写真】



① 6月5日トゲソを知る



②6月12日生息地見学



③6月25日水の循環を考える



④6月27日、7月22日新潟水俣病



⑤9月4日生息数調査



⑥12月8日サケ捕獲場見学



⑦3月5日サケの稚魚放流



⑧3月9日学んだことを発信

(様式 3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立五泉南小学校	3クラス(77人)	6月28日	総合	教諭 加藤 奈緒子 教諭 中澤 芽生 教諭 藤崎 美月

主題名 五泉の自然を守り隊

ねらい 「あがのがわ環境学舎」山崎 陽 様の話から、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、その原因が川の水の汚染にあることから、環境を守る意識を高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	○講師の山崎様を紹介する。 ○五泉市に流れている川を調べる。	・早出川、能代川、阿賀野川が流れている。	・タブレット ・パワーポイント
20	○新潟水俣病について山崎様からどんな病気なのかを詳しく説明してもらう。 ・いつ頃、どこで、どんな原因で発生し、どんな症状だったのかを捉えられるようにする。	・新潟水俣病という病気は初めて知った。 ・何が原因なのかな。 ・なぜ阿賀野川の近くでたくさんの被害者が出たのかな。 ・有機水銀に汚染された魚を食べたから被害を受けた。	・新潟水俣病に関するパンフレット ・「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために」 P4～10
5	○山崎様から被害者への差別や偏見について説明してもらう。	・なぜ何も悪いことをしていないのに差別を受けるんだ。 ・差別や偏見を恐れて、自分の被害を名乗り出ることができないのはおかしい。 ・病気で苦しんでいるのに、差別や偏見でも苦しむのはつらい。	



5	○今はなぜ新潟水俣病が起こらないのか、起こさないために自分たちにできることは何かを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今は、排水を処理してから川に流している。 ・自分たちも川を汚さないようにしていかなければいけない。 ・これからもトゲソが住める川を守っていききたい。 	
5	○本時の学習の振り返りをする。		

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

<ul style="list-style-type: none"> ・五泉市を流れる身近な川で、新潟水俣病が起きたことを知って、驚きました。被害者が偏見や差別で苦しむのはおかしいと思いました。これからは、トゲソが生きていける五泉のきれいな水を守っていきたいです。 ・今日のお話を聞いて、新潟水俣病のことを初めて知りました。 ・新潟水俣病の原因などを知ることができました。もっとくわしく知りたいです。 ・魚を食べて、病気になったことにびっくりしました。川を汚さないことについて考えていきたいです。
--

(様式2)

小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立五泉東小学校	担当(職・氏名)	教諭 増淵 利香
学習テーマ	①水をめぐる旅Ⅰ～身近な水～ ②水をめぐる旅Ⅱ～阿賀野川・新潟水俣病～ ③水をめぐる旅Ⅲ～ひょうたん池プロジェクト～		
活動のねらい	①五泉市に生息する魚「トゲソ」を通して、身近な水環境について学ぶ。 ②旗野秀人さんのお話や環境と人間のふれあい館の見学などを通して、新潟水俣病で苦しんでいる人々の存在を知り、環境を守る意識を高める。 ③学校のひょうたん池をきれいで親しみのある池にするための活動を通して、多角的な視点を持ち、協力しながら問題を解決する力を養う。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 人間が川を汚したことによりトゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。また、工場排水により、かつて阿賀野川流域では新潟水俣病という恐ろしい病気が起こった事実を知る。ふれあい館の訪問などを通し、新潟水俣病への理解を深め、環境保全への意識を高める。			
○ 活動概要 ①ひょうたん池の観察 ②NPO法人五泉トゲソの会の方から、トゲソについての話を聞く。 ③トゲソを実際に見に行く。天敵ザリガニを駆除する。 ④五泉南小学校と交流学習を行い、きれいな水について考える。 ⑤水道水・川の水・生活排水の3種類についてCODパックテストを用い、汚れを調べる。 CMK蒲原工場の方のお話を聞く。昔の工場との比較。 ⑥学校前の太田川の生き物調査を行う。CODパックテストを用い、汚れを調べる。 ⑦旗野秀人さんのお話を聞き、新潟水俣病の患者さんの実態を知る。 ⑧環境と水のふれあい館の見学を通し、水俣病への理解を深める。 ⑨トゲソ学習や新潟水俣病の学習から分かったことや考えたことを、学習発表会で伝える。 ⑩学校のひょうたん池を、きれいで親しみのある池にするための活動を行う。			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年4月～令和8年3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
ひょうたん池の観察	4時間	ひょうたん池の水生生物の観察。水生生物による水質判定。	
トゲソとは？水の汚れ	2時間	トゲソの会の方から、トゲソの生態などについて話を聞いて、ワークシートにまとめる。	
トゲソの生息地見学	3時間	トゲソや水路の様子を観察。天敵のザリガニ駆除。清水を飲み、湧き水のきれいさや水温を体感する。	
五泉南小との交流学習	5時間	南の泉の観察。トゲソがすめるくらいきれいな水はどんな水か考える。	
水の循環	2時間	水の循環を考える。CODパックテストで、川・水道水・牛乳の混ざった水の汚れを測る。CMK蒲原工場の方から工場排水のお話を聞く。(昔の工場との比較。)	


太田川の調査	3時間	川の汚れを水生昆虫、CODパックテストなどで確認する。
水の旅Ⅰのまとめ	3時間	まとめの新聞作り
旗野秀人さんのお話	4時間	旗野秀人さんのお話や『阿賀のお地蔵さん』の読み聞かせを聞き、新潟水俣病の患者さんの実態を知る。
環境と水のふれあい館の見学	4時間	環境と水のふれあい館の見学し、阿賀野川や水俣病、水環境への理解を深める。
学習発表会	10時間	水の旅ⅠとⅡの学んだことのまとめや考えたことなどを発表する。
ひょうたん池プロジェクト	25時間	池の掃除や生き物など6つのチームに分かれて活動を計画し、学級全体の合意を取りながら実行する。
<p>○ 協力団体・協力者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人 五泉トゲソの会 ・ CMK蒲原工場 ・ 新潟水俣病安田患者会 旗野秀人様 ・ 新潟県環境と人間のふれあい館 		
<p>○ 成果と課題 (成果)</p> <p>① 体験的な活動の充実</p> <p>トゲソの会の方の協力を得て、体験を伴った学習を毎回することができた。このことが子どもの興味を高め、学習意欲の向上につながった。</p> <p>② 学習全体の柱「ひょうたん池」</p> <p>子どもたちにとって身近な水であるひょうたん池から学習をスタートし、水に関する様々な学習を経て、自分たちの手でひょうたん池を整備する＝水環境を整える活動で締めくくった。常に、「ひょうたん池をきれいにしたい」という思いをもって学習を進めたことで、全ての学習活動につながりをもたせることができた。</p> <p>③水環境に関する意識の高まり</p> <p>初めは、「トゲソがいなくなっても、他の魚がいるから問題ないのではないか。」などと考えている子もいた。しかし、学習を進める中で、「人間が川を汚したせいで他の生き物がいなくなるのはよくない。」「トゲソもかけがえのない命。」というように変化していった。</p> <p>また、新潟水俣病安田患者会の旗野秀人さんが、子どもたちの質問に対して一つ一つ丁寧に説明してくださった。新潟水俣病が起こった仕組みや訴訟問題等、4年生が理解するには難しい部分もあったが、旗野さんの熱い思いが子どもたちに伝わり、新潟水俣病への関心が高まった。</p> <p>さらに、環境と人間のふれあい館で展示を見たり解説を聞いたりすることで、新潟水俣病への理解を深めることができた。「患者さんに優しく接したい。」「水を汚さないようにした。」という思いにつながっていった。</p> <p>(課題)</p> <p>時間や予算の関係で、鹿瀬現地学習や語り部の患者さんから直接お話を聴くことができなかった。来年度の年間の学習計画を立てる際、検討していく。</p> <p>今年度は、自分達に一番身近な学校のひょうたん池を学習の柱として活動を組んだ。今後、地域の川である太田川や早出川での活動を増やすことで、地域とのつながりや地域への発信が、より強まる取り組みになるのではないかと考える。</p>		

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉東小学校	4年1組(34名)	9月10日	総合	教諭 増淵 利香

主題名 水をめぐる旅Ⅱ～阿賀野川・新潟水俣病～

ねらい 旗野秀人さんのお話や『阿賀のお地蔵さん』の読み聞かせから、新潟水俣病で苦しんでいる人々の存在を知り、環境を守る意識を高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
25	<p>○旗野秀人さんの紹介。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>旗野さんのお話を聞き、阿賀野川や新潟水俣病についての考えを深めよう。</p> </div> <p>○旗野秀人さんによる『阿賀のお地蔵さん』の読み聞かせ。</p>	<p>●読み聞かせを聞く。</p>	電子黒板(絵本を映す)
60	<p>○旗野さんへ質問のある人は、挙手して質問しよう。</p> 	<p>●ワークシートにメモを取りながら聞く。</p> <p>●昭和電工は何を作る工場だったのですか。</p> <p>●昭和電工は、なぜメチル水銀を流したのですか。</p> <p>●水俣病になった人は何人くらいいるのですか。</p> <p>●水俣病は人間だけがかかるのですか。</p> <p>●メチル水銀は、まだ(阿賀野川に)残っていますか。</p> <p>●水俣病になった人は、今でも差別されていますか。</p>	
5	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや考えたことをワークシートに書く。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

<ul style="list-style-type: none"> ・(新潟水俣病の患者さんに対する)差別があったり、いじめがあったりするので「ひどいな。なんでそんなことをするのだろう。」と思って、聞いている自分も悲しくなりました。 ・水俣病はなくなったのではない、水俣病はとてつらい病気だということが分かりました。そして、その苦しさを、見て分からなくても、知ることができる世の中になってほしいです。 ・水俣病は人の心をきざんだざんこな病気だと世界に伝わってほしい。そして、被害者の人には、元の自分には戻れないけれど、いつまでも元気で、差別をされてもあなた達は一人ではないと思ってほしい。
--

(様式2)

小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立川東小学校	担当(職・氏名)	4年担任 塩原美幸
学習テーマ	4年総合的な学習 「トゲソの里 水の里 川東」 ・五泉市に生息するトゲソを通して、環境問題について学ぶ。 ・阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。		
活動のねらい	きれいな水にすむトゲソの生態を学んだり、川の環境調査や水質検査、浄化実験を行ったりすることを通して、人間の生活が川や自然に負荷をかけていることを知り、水環境への関心を高める。 新潟水俣病について知り、健康的で安全な暮らしのために水環境を守ろうとする意識を高める。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 川の汚染によりトゲソが絶滅に瀕していること。人の生活によって様々な汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で、水の汚染により阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。また、新潟県立環境と人間のふれあい館で新潟水俣病患者の方からの話を聞いたり、館内の見学をしたりすることを通して、未来の水環境を守るための方策について一人一人が自分の考えをもち、学びを深めていく。			
○ 活動概要 ①五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地を見学した。トゲソが絶滅に瀕しているのは水の汚れが原因であることを知った。簡易CODパックテストや川の観察、水生生物調べなどにより、人間の生活に関わる排水が汚れの大きな原因であることを学んだ。さらに、水の浄化実験や水をめぐる世界情勢などの学習を通して、水環境維持のためには人々の努力が必要であることを学んだ。 ②「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業を行い、新潟水俣病患者や住人の苦しみについて考えた。水が汚れることと病気になることの関係に興味を持ち、公害に関する調べ学習を行った。 ③新潟水俣病についての学習と新潟県立環境と人間のふれあい館の見学での語り部の方との交流を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境の保全の大切さを知った。 ④これまでの学習を通して、学んだことや感じたこと、考えたことを作文にした。また、学習のまとめを学習参観で発表し、水環境を守っていくことについて、家庭や地域の人々に協力をお願いした。			
○ 活動詳細 ①トゲソの会の方に講師をしていただき、5回にわたってトゲソや水の環境に関わる授業、見学、実験を行った。 ②環境と人間のふれあい館で語り部の講話を聴いた後、施設見学をした。 ③グループごとで、環境を守るために大切なことを考え、今できることを発信した。			
実施期間	令和7年6月～令和8年3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
①6月4日(火)	8:35～10:10	トゲソの生態や環境について知る。	
②6月20日(金)	9:45～11:45	トゲソの生息地の見学を行う。水温及び水路の観察と、ザリガニ駆除の手伝いを行う。	
③6月27日(金)	9:25～11:10	水の循環について考える。CODテストで3種類の水の汚れについて調べる、新聞にまとめ掲示する。	

④9月3日(水)	10:25~12:15	地域の川(新江川)の水質と、住んでいる水生生物について調査する。
⑤9月12日(金)	9:25~11:10	水の浄化実験を行う。水の汚染により新潟水俣病が起きたことを知る。
⑥11月19日(水)	14:00~14:45	水環境や新潟水俣病について調べ学習を行う。
⑦11月26日(水)	8:35~12:15	新潟県立環境と人間のふれあい館の施設見学を通して、新潟水俣病についての正しい知識を身に付けるとともに、水環境を守っていこうとする心情を育てる。
⑧12月1日(月)	13:45~14:30	「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行う。新潟水俣病の被害者の心情について考える。
⑨1月28日(水)	13:45~14:30	水の環境や新潟水俣病について学んだことをテーマに作文を書き、作文コンクールに応募。
⑩2月上旬		グループごとにまとめ活動。
⑪2月13日(金)	14:00~14:45	トゲソや水環境、新潟水俣病に関して学んだことをまとめて、発信する。
<p>○ 協力団体・協力者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人五泉トゲソの会 齋藤 明様 ・ 新潟県立環境と人間のふれあい館 		
<p>○ 成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>五泉市に生息するトゲソについて調べることや水の循環、水質調査、川の観察、浄化実験を通して、水環境への関心を高めることができた。また、水の汚れは人間の生活が起因することが大きいこと、きれいな環境を保つためには人々の努力が不可欠であることを学ぶことができた。</p> <p>新潟水俣病などの事例を通して、人が水を汚染することで、水生生物だけでなく、人の健康や安全もおびやかされることがあることを知った。また、道徳の授業で新潟水俣病患者やその地域の人が苦しんできたことを学び、水の汚染で再び人々が苦しむことがないように自分たちにできることは何か、水環境を守ろうとする意識が高まり、相手の立場に立った言動をとることの大切さについて考えるようになった。</p> <p>【課題】</p> <p>水環境への意識が高まり、学んだことを様々な場で発表した。これらの呼びかけで、保護者や地域の人の意識がどのように変化したかが分かると、児童の学習もより一層充実する。アンケートなど、意識を探る方策を今後検討していきたい。</p>		

【活動成果参考写真】



①6月4日トゲソを知る



②6月20日トゲソの里見学



③6月27日水の循環・COD



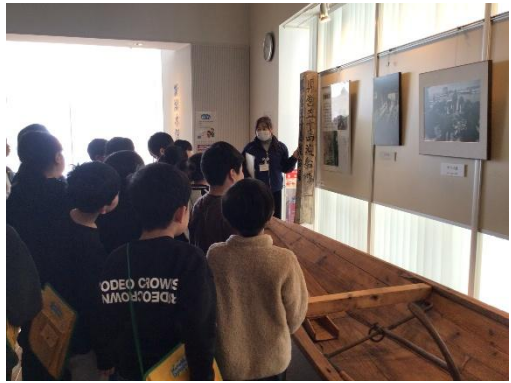
④9月3日新江川の観察



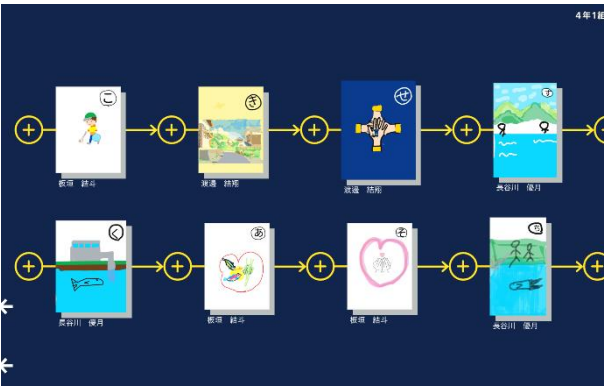
⑤9月12日水の浄化実験



⑥9月24日トゲソハウス清掃



⑦11月26日環境と人間のふれあい館見学



⑧2月上旬 環境学習かるたづくり

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立川東小学校	4年1組(21人)	12月1日	道徳	教諭 塩原 美幸

主題名 みんなが仲良くくらししていくために 2-(2) 思いやり・親切

ねらい 地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気づき、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

資料 「お地藏さんにこめられた願い」

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	<p>阿賀野川のほとりの小さな村は、どんな様子でしたか。</p> <p>○教師による模範を行った後、水俣病にかかる前の村の様子を読み取らせる。</p>	<p>●小さな村だけど、にぎやかで楽しそう。</p> <p>●川魚や野菜を分け合っていて、とても仲のよい村だった。</p>	<p>・読み物資料「お地藏さんにこめられた願い」</p> <p>・仲よくしている村人の絵</p>
5	<p>強いきずなで結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。</p> <p>○水俣病の後の村の様子を読み取らせる。</p>	<p>●仕事がなくなった。</p> <p>●みんなで話をするのが少なくなった。</p> <p>●みんなの心がバラバラになった。</p>	<p>・怒ったり、悲しんだりしている村人の絵</p>
10	<p>病気に苦しんでいる上に、さらにかげ口をいわれるAさんの気持ちを考えましょう。</p> <p>○ロールプレイ1を行い、かげ口を言われる患者役として感じたことを発表させる。</p>	<p>●かなしい。何で認めてもらえないのか。</p> <p>●うそだと決めつけられて腹が立つ。</p>	<p>・ワークシート</p>
5	<p>どうすれば、もとの仲のよい村にもどれるのでしょうか。</p> <p>○旗野さんの言葉を読み、旗野さんが仲のよい村にもどすために行ったことを伝える。</p>	<p>●たしかに変わるのはお地藏さんではなくて、自分たちだ。</p> <p>●相手のことを考えてあげられるようになりたい。</p>	<p>・旗野秀人さんと「阿賀のお地藏さん」の写真</p> <p>・旗野秀人さんの言葉</p>
10	<p>旗野さんの「相手のことを思った言葉」とは、どんな言葉でしょう。</p> <p>○患者にかける言葉を考え、ロールプレイ2を行う。言葉を言われたときの心情を発表させる。</p>	<p>●「大丈夫。」と声をかけてもらい、嬉しい気持ちになった。</p> <p>●「協力するね。」と言われて、味方がいるんだと思い安心した。</p>	

	自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。	
10	<p>○以下の中から相手を選んで、自分の思いを手紙に書く。</p> <p>ア 水俣病と認められずにかげ口を言われていた人</p> <p>イ かげ口を言っていた人</p> <p>ウ 旗野さんへ</p>	・手紙の用紙

授業後の子どもたちの考え等(手紙の中から一部抜粋)

<p>【ア 水俣病と認められず、かげ口を言われていた人たちへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病と認められず、つらい思いをしましたね。きずつけ合うのではなく、昔のように仲よくくらししてほしいと思います。 ・かげ口を言われて辛かったですね。安心して下さいね。 ・わたしは信じています。無理をせず、ゆっくり休んでください。苦しい生活かもしれませんが、わたしは応援しています。 ・かげ口を言われてつらかったですね。これからはやさしい心でみんなで助け合えるはずだと思います。応援しています。 ・水俣病になり、差別をされてとても苦しそうでしたね。私も水俣病の人のことを考えて、苦しさを理解してあげられる人になりたいと思いました。 <p>【イ かげ口を言っていた人たちへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が病気になっているのにかげ口を言われたら、と考えてみてください。 ・「お金が欲しいだけなんだろう。」と言った相手が、もし病気だったらどう思うでしょうか。 ・同じ村の仲間ですよ。ニセ患者だなんて言わないで、名前でご呼んでください。 ・本当のことを言っているのにウソだと言われたら、ぼくだったらきずつきます。お話を聞いてみるのはどうですか。 ・きっと仲直りできるはずですよ。あやまるのは勇気がいるけど、がんばってください。 <p>【ウ 旗野さんへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お地蔵さんをたてるアイデアがすごいと思いました。 ・「お地蔵さんがなんとかしてくれるのではなくて、自分たちが変わらないといけない」という言葉がすごいと思いました。 ・旗野さんのように、みんなが仲よくできるように行動できる人になりたいです。 ・かげ口を言っていた人たちにも、「仲よくしようよ。」と言える旗野さんがとてもやさしいと思いました。わたしも見習いたいです。
--

(様式2) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立大蒲原小学校	担当(職・氏名)	教諭 鈴木 利奈 東 友里
学習テーマ	能代川はかせになろう		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絶滅危惧種のトゲソの生態や能代川に帰ってくるサケについて調べたり、能代川の環境調査や水質検査を行ったりすることを通して、人間の生活が川や自然に負荷をかけていることを知り、水環境への関心を高める。 ・ 「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんのお話などから、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、健康的で安心な暮らしのために水環境を守ろうとする意識を高める。 		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <p>水の汚れがトゲソに危機を及ぼしていること、サケが生まれた川に帰ってこれなくなること、また、水を汚したことにより、新潟水俣病が発生し、苦しむ人がいることを知る。川に住む生き物や、川と共に暮らす人間のためにも、川の水質や環境を保全していくことは重要であることを学ぶ。</p>			
<p>○ 活動概要 (新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間が川を汚したことが原因で、トゲソが絶滅の危機に瀕していたり、サケの母川回帰に影響が出たりすることを知った。COD パックテストや川の水生生物調べなどにより、人間の生活によって生じる様々な汚れが川や自然の汚れの原因であることを学んだ。 ・ 新潟水俣病安田患者の会の旗野さんから、「阿賀のお地蔵さん」の話聞き、新潟水俣病の実態を知った。「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行い、新潟水俣病の被害者が病気の症状だけでなく、差別や偏見にも苦しんでいることを理解し、心情について考えた。 ・ 学んだことをスライドにまとめ、水環境を守っていくことについて学習発表会で発信した。 			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年4月～令和8年3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
サケパークの謎調査隊	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大蒲原地区にあるサケパークやサケについて、サケマス増殖組合の塚野さんから話を聞いたり、調べたりする。 	
能代川の水質調査隊	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ トゲソの会の斎藤さんから話を聞き、トゲソと川の環境について学ぶ。 ・ トゲソの会の斎藤さん、日本cmk(株)の市川さんより、水の循環について学ぶ。CODテストで3種類の水の汚れについて調べる。 ・ 実際に能代川に出向き、生き物調査やCODテストなど、能代川の水質について調査する。透明度、川の深さ、川の幅などを上流、中流で記録し、比較する。 	
能代川の歴史調査隊	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新津地域整備部の上村さんから話を聞き、能代川は洪水と治水工事が繰り返されてきたことを理解する。 ・ 市民も協力して「サケの路」がつくられたことを知る。 	

新潟水俣病調査隊	10	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病について動画を視聴したり，調べたりする。 ・新潟水俣病安田患者の会の旗野さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせを聞き，新潟水俣病の症状だけでなく，差別や偏見に苦しむ人について学ぶ。 ・「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行い，新潟水俣病の被害者の心情について考える。
能代川の遡上サケ調査隊	10	<ul style="list-style-type: none"> ・サケマス増殖組合の方に，サケの人工授精や育て方などについて話を聞いたり，自分たちで調べたりする。 ・サケの卵や稚魚を育てる。
学習してきたことを発信しよう	13	<ul style="list-style-type: none"> ・水環境や新潟水俣病について学んだことをスライドにまとめ，保護者に向けて発表する。
サケを放流しよう 学習をふり返ろう	3	<ul style="list-style-type: none"> ・育ててきたサケの稚魚を能代川に放流する。 ・自分の学びを振り返る。

○ 協力団体・協力者等

- ・サケマス増殖組合 塚野弘 様
- ・地域振興局新津地域整備部 上村一隆 様
- ・NPO 法人五泉トゲソの会 齊藤明 様
- ・新潟水俣病安田患者の会 旗野秀人 様
- ・日本 CMK (株) 蒲原工場 市川克巳 様

○ 成果と課題

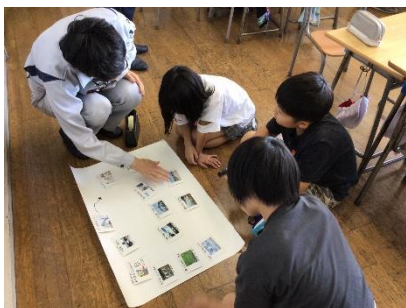
【成果】

- ・トゲソやサケについて調べることや，能代川の観察・水質調査・水生生物調査などを通して，水環境への関心を高めることができた。学習を進める中で，水は循環しており，自分たちの生活の仕方がいろいろなところに影響を及ぼすことが分かり，学習内容と自分の生活とを結び付けて考えようとする姿が見られた。
- ・「新潟水俣病」について，詳しく知らない児童がほとんどであったが，旗野さんからお話をしていただいたことで，新潟水俣病の症状だけではなく，差別や偏見に苦しんでいることについても知ることができた。
- ・トゲソやサケ，新潟水俣病と，いろいろな切り口から水環境の大切さについて考えることができた。きれいな水を守るために，自分たちに何ができるかを考えて実践していこうとする意識が高まった。

【課題】

- ・川の環境や水質の保全の大切さについて学ぶことができたが，今後もその意識を継続できるよう，指導していく必要がある。

【活動成果参考写真】



水の循環



能代川の水生生物調査



旗野さんのお話

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録


学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立大蒲原小学校	3年(13名) 4年(10名)	11月6日	道徳	教諭・鈴木 利奈

主題名 みんなが仲良くくらししていくために 2-(2) 思いやり・親切

ねらい 地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気づき、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

資料 「お地蔵さんにこめられた願い」(新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために 新潟水俣病教師用指導資料集 P.29~41)

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	<p>阿賀野川のほとりの小さな村は、どんな様子でしたか。</p> <p>○教師による範読を行った後、水俣病にかかる前の村の様子を読み取らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな村だけど、にぎやかで楽しそう。 ・川魚や野菜をおすそ分けし合っていた。 ・川の恵みで生活していた。 ・雨の日はお茶を飲んで楽しくおしゃべり。 ・みんなで仲良く暮らしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い」 ・仲良くしている村人の絵
5	<p>強いきずなで結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。</p> <p>○水俣病の後の村の様子を読み取らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事が減った。 ・みんなで話をするのも減った。 ・川で遊ばないし、魚も取らなくなった。 ・みんなの心がばらばらになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・怒ったり、悲しんだりしている村人の絵
10	<p>病気に苦しんでいる上に、さらに陰口を言われるAさんの気持ちを考えましょう。</p> <p>○ロールプレイ1を行い、かげ口を言われる患者役として感じたことを発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。何で分かってもらえないのだろう。 ・うそをついていると、決めつけられて嫌だ。 ・否定されるとつらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
5	<p>どうすれば、もとの仲のよい村に戻れるのでしょうか。</p> <p>○旗野さんの言葉を読み、旗野さんが仲のよい村に戻すために行ったことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お地蔵さんが変えてくれるのではなく、自分たちがお地蔵さんを見て変わらないといけないんだ。 ・相手のことを考えた言葉がけが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旗野秀人さんと「阿賀のお地蔵さん」の写真 ・旗野秀人さんの言葉
10	<p>旗野さんの「相手のことを思った言葉」とは、どんな言葉でしょう。</p> <p>○患者にかける言葉を考え、ロールプレイ2を行う。言葉を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「大丈夫。」と声をかけてもらって、心配してくれる人がいると思ってうれしかった。 	

	言われたときの心情を発表させる。	・「信じているよ。」と言われて、味方がいると思えて心強かった。	
	<div data-bbox="268 331 1198 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。 </div> <p>○ 3人の中から相手を選び、自分の思いを手紙に書かせる。 ア 水俣病と認められず、陰口を言われていた人たち イ 陰口を言っていた人たち ウ 旗野秀人さん</p>		・手紙用紙

授業後の子どもたちの考え等(手紙の中から一部抜粋)

<p>【ア 水俣病と認められず、陰口を言われていた人たちへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大丈夫ですか。今までつらかったですね。今度いろいろなお話を聞かせてください。水俣病と認められるまでがんばりましょう。 今、まだ水俣病で苦しんでいますよね。水俣病と認めてもらえず、つらいし、怖いし、苦しいですよね。みんなが認めてくれたら、あまりつらい思いはしなかったのかもしれない。なぜ、見た目や裁判で認めてくれなかっただけで、「ニセ患者」と言われないといけないのでしょうか。私は味方です。信じてくれる人も中には、いると思います。つらくても、必ず認めてくれる人がいるから、あきらめずにがんばってください。応援しています。 <p>【イ 陰口を言っていた人たちへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> どうして、そんなことを言うのですか。もし、自分が言われたらどんな気持ちになりますか。ちゃんと相手の気持ちを考えて言葉を出さないと、相手が傷ついてしまいます。みんな、これからは陰口を言わず、仲良く過ごしていきましょうね。 水俣病と認められなくて陰口を言われたら、どんな気持ちになるか考えてから言葉を言った方がよかったんじゃないですか。水俣病になった人たちは、病気のせいで生活も大変なのに、陰口まで言われて、心も傷ついてしまいます。水俣病の被害を受けた人の気持ちがどれだけ傷ついたのか、考えたことはありますか。そこをちゃんと考えてみてください。 水俣病の患者さんに対して、人の気持ちを考えていましたか。陰口のその一言で、患者さんの心が傷ついたんです。あなたがもし陰口を言われたら嫌ですよ。みんなが人の気持ちを考えたらいいと思います。 <p>【ウ 旗野秀人さんへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲の良かった村に戻すために、お地蔵さんをたてることを考えたのがすごいと思いました。前に旗野さんに教えてもらったように、水俣市の石を使ってつくられたお地蔵さんなので、いろんな人の願いがこめられていると思いました。 お地蔵さんが何かをしてくれるわけではないけれど、みんな水俣病のことを考えることがいいことだと思いました。みんなが水俣病のことを知ってくれるといいですね。
--

(様式2) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立村松小学校	担当(職・氏名)	勝見 蓮
学習テーマ	五泉市に生息する魚のトゲソやサケ、学校の近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。		
活動のねらい	トゲソやサケの生態を学んだり、川の環境調査や水質検査、浄化実験を行ったりすることを通して、人間の生活が川や自然に負荷をかけていることを知り、水環境への関心を高める。 また、新潟水俣病について知り、水環境を守ろうとする意識を高める。		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <p>トゲソの生態を知り、水を汚したことがトゲソの減少、水俣病の原因になったことを知り、これからの生活につなげる。また、サケの稚魚飼育と放流を行い、海に出たサケが再び帰ってくるのできる水環境を作らなければいけないことを知る。さらに、「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業や、公害に関する調べ活動から、人間による水の汚染がトゲソやサケなどの水生生物だけでなく、人間の健康や安全にも関わっていることを学ぶ。これらの活動を通して、未来の水環境を守るためにできることを一人ひとりが考えていく。</p>			
<p>○ 活動概要 (新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。)</p> <p>五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地を見学した。トゲソが絶滅に瀕しているのは水の汚れが原因であることを知った。滝谷川で水生昆虫から水の汚れを調べ、COD パックテストを使い川の水、水道水などを比較し、汚れを調べた。水が循環していく過程で汚れてから浄化する過程を知り、川を汚さない最新の工場技術を CMK 蒲原工場の方からお話しして頂いた。水の浄化実験や水をめぐる世界情勢などの学習を通して、水環境維持のためには人々の努力が必要であることを学んだ。トゲソについて新聞にまとめ、オープンスクールで保護者へ向けて発表した。</p> <p>また、サケの稚魚の飼育と放流活動を行った。かつて新潟水俣病は川魚を食べることによって罹患者が増えた経緯を知り、魚も人間も安心できる水環境作りの必要性を学んだ。</p> <p>「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業を行い、新潟水俣病患者や住人の苦しみについて考えた。水が汚れることと病気になることの関係に興味を持ち、公害に関する調べ学習を行った。</p> <p>「わたしたちにできること」として学習したことを新聞にまとめて発表した。</p>			
<p>○ 活動詳細</p> <p>トゲソの会の方に講師をしていただき、5回にわたってトゲソや水の環境に関わる授業、見学、実験を行った。</p> <p>能代川サケマス増殖組合の方に講師をしていただき、サケの人工授精、飼育、放流まで行った。安田患者の会の旗野秀人さんをお招きし、水俣病について学んだ。</p>			
実施期間	令和7年6月～令和8年3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
トゲソと水 6月6日(金)	9時30分～ 11時25分	「トゲソの会」の方から話を聞く。生態や環境について知る。	
トゲソの里観察 6月18日(水)	9時50分～ 11時50分	トゲソの生息地の見学を行う。トゲソ、植物、水生昆虫などの観察や湧水を見る。ザリガニ駆除の手伝いを行う。	
水の汚れを調べる 7月2日(水)	9時35分～ 11時25分	水の循環について考える。COD パックテストで3種類の水の汚れを調べる。	
滝谷川観察 9月9日(火)	9時50分～ 11時50分	地域の川(滝谷川)の水質と、すんでいる水生生物について調査する。	

浄化実験 9月26日(木)	9時50分～ 11時50分	水生昆虫、CODパックステストなどで汚れの確認。
サケの人工授精見学 11月25日(火)	9時40分～ 10時20分	サケの人工授精見学。サケの飼育方法を知る。
サケの捕獲場見学 12月9日(火)	9時40分～ 10時20分	サケの捕獲場見学。サケが海から川に帰ってくることを知る。
水俣病についての道徳授業 令和8年1月27日(火)	13時30分～ 14時15分	「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行う。新潟水俣病の被害者の心情について考える。
旗野秀人さんの講演 1月28日(水)	10時40分～ 11時25分	「阿賀のお地蔵さん」について学んだ。学んだことを手紙にして渡した。
サケのまとめ 1月29日(木)、30(金)	13時30分～ 14時15分	一人ひとりがサケについてのプレゼンテーションを行った。また、学級の人々に発表した。
トゲソと水俣病 2月6日(金)	13時30分～ 14時15分	学んだことをオープンスクールでトゲソの会の人や保護者に向けて発表した。
2月中旬		わたしたちにできることを新聞にまとめた。
2月下旬～3月上旬		図工「川にすむ生き物」をテーマに版画に取り組んだ。
サケ放流 3月5日(水)	9時40分～ 10時	鮭の稚魚を放流する。川の環境が変わってしまうと帰ってくるできないことを知る。
○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。） CMK 蒲原工場、五泉トゲソの会、能代川サケマス増殖組合、旗野秀人さん(安田患者の会)		
○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）		
【成果】		
<p>五泉市に生息するトゲソについて調べることや水の循環、水質調査、川の観察、浄化実験を通して、水環境への関心を高めることができた。また、水の汚れは人間の生活が起因することが大きいこと、きれいな環境を保つためには人々の努力が不可欠であることを学ぶことができた。</p> <p>サケの飼育・稚魚放流活動では、サケの生態を知り、また帰ってきてほしいという思いから、水環境を守っていこうという気持ちを強めた。</p> <p>新潟水俣病の学習から、人が水を汚染することで、水生生物だけでなく、人の健康や安全もおびやかされることがあることを知った。サケの学習をしていたこともあり、川魚と人間の関係についても理解を深めることができた。また、道徳の授業で新潟水俣病患者やその地域の人が苦しんできたことを学び、水の汚染で再び人々が苦しむことがないように自分たちにできることは何か、水環境を守ろうとする意識が高まった。</p>		
【課題】		
<p>1年間を通して学んできたが、スケジュールに間があった時期があり、子ども達が学習内容を思い出すのに時間がかかることがあった為、時期などを予め調整しておき、学習内容が疎かにならないようにする必要があった。</p>		

【活動成果参考写真】



6月6日 トゲツと水



6月18日 トゲツの里見学



7月2日 水の環境



9月9日 滝谷川観察



9月26日 浄化実験



11月25日 サケの人工授精



12月9日 サケの捕獲場



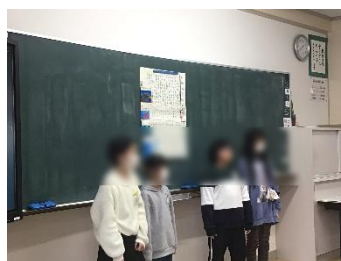
1月27日 道徳授業



1月28日 旗野秀人さんの講演



1月29日 プレゼンテーション



2月6日 トゲツと水俣病



3月5日 サケ放流



図工「川にすむ生き物」

(様式3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立村松小学校	4年1組(34人)	1月27日	道徳	教諭 勝見 蓮

主題名 みんなが仲良くくらししていくために 2-(2) 思いやり・親切

ねらい 地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気づき、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

資料 「お地藏さんにこめられた願い」 (新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために 新潟水俣病教師用指導資料集 P29~41)

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	<p>阿賀野川のほとりの小さな村は、どんな様子でしたか。</p> <p>○教師による模範を行った後、水俣病にかかる前の村の様子を読み取らせる。</p>	<p>●小さな村だけど、にぎやかで楽しそう。</p> <p>●川魚や野菜を分け合っていて、とても仲のよい村だった。</p>	<p>・読み物資料「お地藏さんにこめられた願い」</p> <p>・仲よくしている村人の絵</p>
5	<p>強いきずなで結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。</p> <p>○水俣病の後の村の様子を読み取らせる。</p>	<p>●仕事がなくなった。</p> <p>●みんなで話をするのが少なくなった。</p> <p>●みんなの心がバラバラになった。</p>	<p>・怒ったり、悲しんだりしている村人の絵</p>
10	<p>病気に苦しんでいる上に、さらにかげ口をいわれる A さんの気持ちを考えましょう。</p> <p>○ロールプレイ 1 を行い、かげ口を言われる患者役として感じたことを発表させる。</p>	<p>●かなしい。何で認めてもらえないのか。</p> <p>●うそだと決めつけられて腹が立つ。</p>	<p>・ワークシート</p>
5	<p>どうすれば、もとの仲のよい村にもどれるのでしょうか。</p> <p>○旗野さんの言葉を読み、旗野さんが仲のよい村にもどすために行ったことを伝える。</p>	<p>●たしかに変わるのはお地藏さんではなくて、自分たちだ。</p> <p>●相手のことを考えてあげられるようになりたい。</p>	<p>・旗野秀人さんと「阿賀のお地藏さん」の写真</p> <p>・旗野秀人さんの言葉</p>
10	<p>旗野さんの「相手のことを思った言葉」とは、どんな言葉でしょう。</p> <p>○患者にかける言葉を考え、ロールプレイ 2 を行う。言葉を言われたときの心情を発表させる。</p>	<p>●「大丈夫。」と声をかけてもらい、嬉しい気持ちになった。</p> <p>●「協力するね。」と言われて、味方がいるんだと思い安心した。</p>	

10	自分の思いや考えを旗野さんに向けて、手紙を書きましょう。	・手紙の用紙
	○自分の思いを旗野さんに向けて手紙に書く。	

授業後の子どもたちの考え等(手紙の中から一部抜粋)

<p>【旗野さんへ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前は、水俣病がそんなに大変な病気だと知りませんでした。しかし、旗野さんのお話とワークシートでとても分かりやすく勉強でき、水俣病はすごく危険な病気だと知りました。旗野さんが作ったお地蔵さんは、みんなのことを思って作ったということがすごいです。 ・最初水俣病はなんだろうと調べてみたら、「一生治らない」という言葉に目がいきました。ロールプレイを実際におこなってみたら、「ニセ患者」など言われてとても悔しい気持ちになりました。そんな中、旗野さんが町を明るくしたいという気持ちがすごいと思いました。私もそんな旗野さんを見習って、頑張っていきたいです。 ・旗野さんは、お地蔵さんを作ることにして、病気で苦しむ人のために作ったことで、優しい人だと思いました。また、旗野さんの言葉もすごく大切だと感じました。 ・村の人が仲良くなるように作った「阿賀のお地蔵さん」はとてもすごいと思いました。水俣病の話を知りたいと思って、旗野さんに聞いて、水俣病についてもっと知りたいと思いました。

(様式2) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	愛宕小学校	担当(職・氏名)	教諭・佐藤 肇
学習テーマ	「わたしたちを支える水」 五泉の水と環境に関わる調査活動を通して、豊かな水と人々のくらしや環境が関わっていることを理解し、きれいな川や海にするために自分たちができることを考え、自らの行動に生かす。		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・五泉の豊かな水がもたらした農産物や生物、きれいな水を保とうとする人々の努力や思いが分かる。 ・身近な地域の水に関わる疑問をもとに課題を設定し、必要な情報を収集し、複数の情報を比較しながら問題を解決し、相手や目的に応じて分かりやすく表現する。 ・身近な地域の水に関心をもち、協働的に学びながら自分にできることを考える。 		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水処理について学ぶ中で、かつて工場排水が原因で新潟水俣病が発生し、今も病気や差別で苦しんでいる人々がいること、多くの人々の努力によって阿賀野川がきれいな川に再生したことなどを学ぶ。 ・新潟水俣病被害者の救済や、絵本「阿賀のお地蔵さん」の作者として、今も全国で講演活動をされている旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」に込めた思いを学ぶ。 			
<p>○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五泉トゲソの会の齋藤明さんから、五泉に生息するトゲソの生育環境、なぜトゲソがいなくなったか、水の環境汚染について学ぶ。 ・「新潟水俣病学習用動画 新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう」を視聴し、あがのがわ環境学舎の山崎陽さんから、新潟水俣病はなぜ起きたのかを詳しく学ぶ。 ・旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき、「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景を学ぶ。 ・保護者に、自分たちが学んだこと、自分たちができることを発表する。 			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年4月～令和8年3月（70時間）		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
五泉のチューリップ・れんこん・牡丹栽培と水	16	五泉のチューリップ・れんこん・牡丹栽培は、川によって運ばれた堆積物や伏流水が関係していることを学ぶ。	
トゲソと水	10	五泉トゲソの会から、トゲソの生育環境、生息地、天敵駆除、水の循環と環境汚染、水の浄化について学ぶ。	
水生生物と水	6	早出川の水生生物調査を行い、きれいな水にすむ水生生物について知る。	
防災と水	12	阿賀野川にあった水害の歴史と、早出川ダム・太田川排水機場・災害対策車等の役割やしくみを学ぶ。	
浄化センターと水	5	下水はどのように処理され、再び川へと流れていくのか学ぶ。	
新潟水俣病と水	9	あがのがわ環境学舎の山崎陽さんから、新潟水俣病が発生した原因や、どのような被害や差別があったかを学ぶ。 旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景を学ぶ。	
生活排水と水	7	生活排水のCODパックテストを通して、生活排水がいかにか水を汚しているかを学ぶ。	

水を汚さないために	5	家の人へのアンケートをもとに、これまで学んだことをまとめ、自分たちにできることを発信する。
-----------	---	---

- 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
- ・新潟県花卉球根農業協同組合 ・五泉アグリセンター ・県立植物園顧問 倉重祐二さん
 - ・五泉トゲソの会 ・阿賀野川河川事務所 ・早出川ダム
 - ・満願寺出張所 ・新津浄化センター
 - ・あがのがわ環境学舎 山崎陽さん ・旗野秀人さん

○ 成果と課題

【成果】

- ・農産物や絶滅危惧種のトゲソ、きれいな水にすむ水生生物などは、五泉の豊富な地下水が支えていることが分かり、大切にしたいという思いをもった。
- ・トゲソや新潟水俣病の学習を通して、人間が出す排水に関心を深くもち、生活排水のCODパックテストの調査や保護者へのアンケートなどから、自分たちにできることを発信したいという思いをもった。
- ・新潟水俣病による被害とともに、偏見や差別、絆を取りもどす努力なども知ることができた。

【課題】

- ・五泉にも被害者がいることは分かったが、語り部の方から直接お話を聞く機会がもてると、より身近な問題ととらえられてよい。

【活動成果参考写真】



花卉農協（チューリップ） アグリセンター（れんこん） 倉重祐二様（ぼたん） トゲソの里（トゲソ）


水生生物調査 山崎陽様（新潟水俣病） 旗野秀人様（阿賀のお地藏さん） 学習発表会

(様式 3) 小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立愛宕小学校	4年1組(27人)	11/6(木)	総合	教諭・佐藤 肇

単元名 「わたしたちを支える水」

ねらい 「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
25	<p>(前時までに、あがのがわ環境学舎の山崎さんから、新潟水俣病の話聞いておき、「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせしておく)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旗野秀人さんに自己紹介してもらう。 ・旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせしてもらう。 ・「阿賀のお地蔵さん」の解説してもらう。 	<p>(○有機水銀を含んだ川魚を食べ続けたことが原因で新潟水俣病が起きたんだ。 ○「阿賀のお地蔵さん」のたかしくんは、震災があった神戸から来たんだ。)</p> <p>○21才の時、大工になるのがいやで家出して東京に行って、水俣病被害者の支援者の川本さんと出会ったんだ。</p> <p>○川本さんに阿賀野川の石を送って、水俣にお地蔵さんが建てられ、水俣から送られた石で阿賀にお地蔵さんが建てられたんだ。</p>	<p>・「阿賀のお地蔵さん」のPDFデータ</p>
15	<p>旗野さんに質問しましょう。</p> 	<p>○お地蔵さんには、どんな思いがこめられていたのか⇒水俣病が二度と起きないように見守ってほしい。</p> <p>○前からあるお地蔵さんの隣に阿賀のお地蔵さんが建てられたのは⇒昔のように差別がなく、みんな仲よくなってほしい。</p> <p>○「阿賀のお地蔵さん」の絵本にこめられた思いは⇒水俣病のことを子どもたちに伝えたい、最後は元気の出る本にしたい。</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを書かせる。 		

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

<ul style="list-style-type: none"> ・渡辺参治さんは、ニセ患者と言われても、歌を歌い続けて、104才まで生きてすごい。 ・「阿賀のお地蔵さん」には、水俣病が二度と起きないように見守ってほしい、みんな仲よくしてほしいという思いがこめられていることが分かった。 ・震災は自然が起こしたものだけど、水俣病は人間が起こしたものということが分かった。 ・水俣のお地蔵さんと阿賀のお地蔵さんは向かい合っていることが分かった。どちらも、水俣病のことを忘れず、二度と起きてほしくないという思いがこめられている。
--

地域の特色を活かした
環境学習支援事業

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	南浜小学校	担当(職・氏名)	教諭 金子 一美
学習テーマ	川や海の変化が、人々の暮らしにどのような影響を与えたのか考えよう。		
活動のねらい	新潟県内でかつて起きてしまった公害による健康被害の実態を知り、二度と繰り返さないようにしようとする態度を育てるとともに、自分たちにもできることを考える機会とする。		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり 「環境と人間のふれあい館」を訪問し、正しい知識を得る。 また、語り部の方からお話をうかがい、公害が招く健康被害についてさらに考えを深める。 学習したことをふりかえり、まとめる活動を通して、自分たちの故郷で起きた出来事について自分たちの思いをより確かなものとする。</p>			
<p>○ 活動概要 ①「環境と人間のふれあい館」の訪問（2回）。 ②社会科および理科の学習として環境学習。 ③総合的な学習としての環境調査と清掃活動。</p>			
<p>○ 活動詳細 ①「環境と人間のふれあい館」へ行き、自然環境の変化や新潟水俣病について知るとともに、語り部の方の話をうかがい、公害が招く健康被害について考えを深めた。 ②日本が発展を遂げる過程でさまざまな環境問題が発生してきたことを、時間を過去に遡りながら考えてきた。 ③再度「環境と人間のふれあい館」を訪ね、これまでに学習したことを確かめたり比べたりするとともに、実験を通して環境を守ることの大切さを再認識した。 ④考えたことをまとめたり実行したりしながら、5/6年生で共有し深め合った。 ⑤自分たちにできることとして、島見浜の海岸清掃やマイクロプラスチック調査を行った。</p>			
実施期間	令和7年8月～10月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
「環境と人間のふれあい館」見学①	1	新潟水俣病について、語り部の方のお話を伺ったり館内の見学を行ったりすることで理解を深める。	
公害の歴史を学ぶ	3	新潟のみならず、日本各地で産業の発展がきっかけとなって公害を引き起こしてきた歴史を学校で学ぶ。	
「環境と人間のふれあい館」見学②	1	環境について、水質検査を行ったり館内のクイズや展示物を見て回ったりし、自分たちで環境を守る大切さを学ぶ。	
島見浜海岸清掃 マイクロプラスチック調査	3	自分たちが暮らす学区内の島見浜の現状を知り、過去の環境問題と対比させながら自分たちにできることに取り組む。	

○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

環境と人間のふれあい館の皆様

新潟水俣病の語り部の方（都合により動画視聴に変更）

○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

- ・自分たちが暮らす新潟県内で起きた公害の歴史を学ぶことで、子どもたちが自分事として環境を守る意識を高めることができた。
- ・1度の見学で完結するのではなく、2回に分けて施設見学ができたことが有意義だった。最初に見学した際に学んだことをもとに、学校でさらに歴史を辿って学び、改めて再度見学したことで学びを深めることができた。
- ・語り部の方の実際に体験された思いを伺うことができたことは、とても貴重だった。差別や偏見の苦しみがよく伝わった。


【課題】

- ・水俣病に関して教科書だけでは学べない非常に貴重な機会であるが活用されにくい現状。希望するどの学校でも積極的に学べるような取り組みになってほしい。

■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立南浜小学校	5・6年生(26名)	9月10日	社会	高岡 ちはる

- ・主題名 環境をともに守る
- ・ねらい 公害の問題と自分たちの暮らしのかかわりに関心を持ち、公害を二度と繰り返してはいけないものだと理解しようとする事ができる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
10分	○「環境と人間のふれあい館」の見学を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ●工場から排出されたメチル水銀が原因で水俣病が引き起こされた。 ●工場から有害物質が川へと流された。 	P63の指導案
	新潟水俣病とは、どんな病気なのかな。		
25分	○資料「新潟水俣病 20の疑問」や見学メモをもとに、新潟水俣病について調べて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●川魚をとって食べていた人々は、メチル水銀が工場から川へそのまま流されていることを知らず、魚を食べ続けていたことで体の中にメチル水銀が溜まっていった。 ●食物連鎖の仕組みから、人が直接メチル水銀を取り込むのではなく、プランクトン→小魚→人の順番で取り込まれていった。 ●手足のしびれや目の見える範囲が狭くなる、指の変形などの症状があった。 ●水俣病が原因で、仕事や結婚などで今も差別されている人たちがいる。 	P92の資料3
10分	○原因・症状・その他に分けて、黒板にまとめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 新潟水俣病は、工場からそのまま川に流されたメチル水銀が原因となり、体に取り込まれた人々は様々な症状、差別や偏見に今も苦しんでいる。 </div>	
	○わかったことや考えたことを一人ずつまとめる。		

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病は、病にかかった人を苦しめるだけでなく、人間同士の結びつきも壊してしまうとても怖い病気だと思った。 ・水俣病は、人間が環境のことをちゃんと考えていれば起きなかったこと。自分も環境のことを深く考え、水を汚さないように工夫していきたい。

【写真資料】





わかったこと

工場から出た排水で川が汚されてそれを魚が食べて人が食べて水俣病になったとわかりました
 その後も水俣病になった人は差別や偏見に苦しめられたことがわかりました

いざいあままたのりる げんいん

新漏水俣病の原因

原因を調査したところ、向良町（旧鹿嶋町）にあった化学工場、旧昭和臨工藤工工場でメチル水銀を蓄んだ排水を処理しないまま向良野川に流していたことがわかりました。メチル水銀で汚された向良野川の魚を食べた人たちが病気になるようになったのです。

昭和臨工は病気の原因を工場排水ではなく、新築地帯で流出した農業が原因だと主張しました。この原因を巡る対立は、結果的に発生原因の確定を遅らせる要因になりました。

家庭の中でも...

水道水は新築地帯に引かれた管、管が腐るとメチル水銀が溶け出し、水道水に含まれる。水道からいよいよお水が汚れる。

メチル水銀が人体に取り込まれるしくみ

水俣病は工場排水に含まれていたメチル水銀が原因で起こった公害病です。向良野川のプランクトンに取り込まれたメチル水銀は、川魚の体内で濃縮され、川魚をたくさん食べた人たちが水俣病になってしまったのです。

校外学習を振り返って

排水で川が汚されて食物連鎖になっていきメチル水銀が入っていることがわからなかった人が魚を食べてしまい水俣病になってしまったと知りました。
 症状では水俣病になった人は手足の感覚の低下、味や匂いがしなくなったり立ちくらみになってとても辛いことがわかりました。
 とても辛いことを自分たちが繰り返さず、水俣病のことを知らない人に知ってもらいたいと思いました

- 57 -

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立葛塚東小学校	担当(職・氏名)	教諭・高橋 賢人
学習テーマ	葛塚を食べよう！		
活動のねらい	自然環境と食文化について、地域の水環境や新潟水俣病と向き合い、問題を見出し、体験したり調べ活動をしたりすることを通して、地域の問題を環境の視点から見直し考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 葛塚地域周辺では阿賀野川につながる川や福島潟の水環境の恩恵を受けて生活している。私たちの生活を支える水環境では、新潟水俣病により苦しい生活を余儀なくなれた。また、豊かな川や潟の食文化も忘れ去られていった。そこで、新潟水俣病の歴史と教訓を学ぶことで、新潟水俣病の被害者が抱えてきた痛みを真摯に向き合い、同じような悲惨な公害が二度と繰り返されることなく、川の恵みを大切に、誰もが安心して暮らすことのできる環境を目指そうとする心情と態度を育む。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。） ・ 葛塚の食文化について調べる。 ・ 葛塚の食文化が途絶えていった歴史について漁業組合の方のお話を聞く。 ・ 環境と人間のふれあい館を見学し、新潟水俣病や阿賀野川の水環境について知る。 ・ 「新潟水俣病のあらまし」「新潟水俣病20の質問」「新潟水俣病が教えてくれたもの」を教材として活用し、新潟水俣病について理解を深める。 ・ 新潟水俣病の語り部の方のお話を聞き、新潟水俣病について理解を深める。 ・ 新潟水俣病について考えたことを振り返る。			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年4月 ～ 令和8年2月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
総合 葛塚を食べよう！～葛塚の食文化を過去からつなげよう～	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返り、地域である葛塚のよさを再確認する。 ・ 米栽培を通して、葛塚の自然環境や農業問題について調べるとともに、地域の食文化について関心をもつ。 ・ 福島潟の食文化について調べ活動を行う。 ・ 稲刈り体験をするとともに、福島潟の食文化について、農家や漁師の方等から話を聞く ・ 実際に福島潟で食べられていた食材や収穫したお米を食べることで、食文化への理解を深める。 ・ 福島潟の食文化を普及するための広報活動を行うという共通課題を設定する。 ・ 福島潟の食材のPRのために、福島潟自然文化祭において発表をする。 	


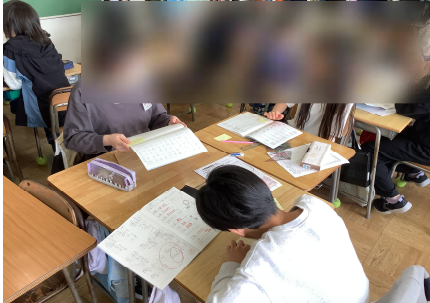
<p>総合 葛塚を食べよう！～福島 潟の水環境を考える～</p>	<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のシンボルである福島潟と食文化について、知っていることを話し合う。 ・葛塚の食文化について振り返り、環境と食文化における総合的な学習の時間の学び方をつかむ。 ・「新潟県立環境と人間のふれあい館－新潟水俣病資料館－」を見学したり、展示物などの直接資料と触れ合ったりすることで地域の水環境と食文化について考える。 ・新潟水俣病の語り部の方のお話を聞くことで地域の水環境と食文化について考える。 ・地域の問題を環境の視点から捉え直し、これからの対応策を考えるという課題を設定する。 ・過去から現在の食文化と水環境の関連について話し合う。
<p>社会 環境とともに生きる</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病の原因や被害について資料をもとに調べ、まとめる。 ・新潟水俣病の訴訟や裁判の経緯について調べ、まとめる。 ・新潟県の環境保全活動や、自然環境と生活の結び付きに着目して、生活環境を守ることの意味について話し合う。 ・新潟水俣病について考えたこと振り返り、まとめる。
<p>○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくり体験：JA 土田様、本間様、ボランティア様 ・食文化：福島潟新井郷川漁業組合長 長谷川様、松潟屋 佐藤様 ・新潟水俣病：環境と人間のふれあい館 様 		
<p>○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本四大公害病の一つである新潟水俣病がとても近い場所で起こったということで、公害問題をより身近な問題として捉え、関心を高めて考えさせることができた。 ○「県立環境と人間のふれあい館」の施設見学や解説を通して、新潟水俣病の概略や経緯を学ぶことができた。当時の生活環境や食生活を学習した上で、実際の展示物などの直接資料に触れることができ、より自分事として捉えさせることができた。 ○総合的な学習で、地域の食についても学習を進めており、地域の食文化と阿賀野川、福島潟、新潟水俣病を関連付けて学習を進めていくことで、福島潟の食文化に気付くことができた。米や魚だけでなく、阿賀野川を中心とした水環境の恩恵を多く受けていることを実感し、新たな地域の魅力を発見することができた。 <p>【課題】</p> <p>△児童がまとめたポスターを校内だけでなく、潟フェス 2026 にも展示した。潟フェスで展示するだけでなく、成果物を活用してより多くの人に学習内容をアウトプットする場とフィードバックを得る機会をもう少し早めに設定できるとよかった。潟フェスを含め、学習をアウトプットする場やフィードバックを得る機会について、単元構成を含めて検討していきたい。</p>		

■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立葛塚東小学校	5年1組(38人)	9月16日	社会	教諭・高橋 賢人

- ・ 主題名 環境を守る人々
- ・ ねらい

新潟水俣病について、新潟水俣病の発生原因と発生の経過、被害者の症状や苦しみなどを、資料を通して調べることを通して、被害者の苦しみや対応、新潟水俣病の教訓を生かした、人々の健康や生活環境を守るための取組へ関心を高め、追究の見通しをもつことができる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	○新潟水俣病について知っているか問う。 【学習課題】 新潟水俣病はどのような公害で、人々にどんな影響を与えましたか。	●聞いたことある。四大公害病の一つだ。 ●聞いたことあるけど、よく分からない。	・ P46の展開例
25	○資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」・「新潟水俣病のあらまし」をもとに、新潟水俣病の発生原因や症状を調べ、ロイロノートに書かせる。 	 ●メチル水銀が含まれた工場排水が原因になって発生した。 ●メチル水銀を含んだ川魚を人が食べて発症した。 ●川魚は貴重なタンパク源だった。 ●人だけでなくペットや家畜なども被害を受けた。 ●しびれやふるえなどの症状があった。 ●視野が狭くなったり、耳が聞こえなくなったりした。 ●最悪の場合死んでしまうこともあった。 ●差別や偏見など、精神的な苦痛もあった。	・ P46の展開例
	○調べたことを発表させ、新潟水俣病の発生原因や症状について、全体でまとめる。		

10	<p>【まとめ】</p> <p>阿賀野川にメチル水銀を含んだ工場排水が流れ出て、メチル水銀を含んだ川魚を食べた人が発症した。しびれやまひなどの健康被害や差別を受けて、今も苦しんでいる。</p>		
5	<p>○もっと調べたいことを意見交換し、課題意識を高める。</p> <p>○もっと調べたいことをもとに、これからの追究課題を設定する。</p> <p>【単元課題】</p> <p>新潟水俣病のような公害の防止やこれからも環境を守っていくために、国や人々はどんな取り組みをしているのか。</p> <p>○学習の振り返りをロイロノートに書かせる。</p>	<p>●実際の被害を受けた人々の苦しみや思いはどんなものだったのか。</p> <p>●新潟水俣病の被害を受けた人はその後、どうなっているのか。</p> <p>●新潟水俣病を防ぐ取組は行われたのか。</p> <p>●阿賀野川はどのように現在のようにきれいになったのか。</p> <p>●症状は辛いものばかりだったと分かった。</p> <p>●見た目に表れない人もいたからこそ、差別や偏見など想像以上にひどいことをされていたんだろうと思った。</p>	<p>・ P46の展開例</p>

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・私は新潟水俣病について学習しました。新潟水俣病になると、手足がしびれたり、温度が分からなくなったり、目が見えにくくなったり、とてもとてもつらい病気になっている人がいることを知りました。また、新潟水俣病だからと言って、手紙で嫌なことを書いたり、差別をしたりしてひどすぎるなと思いました。辛い思いをしているけど、頑張って生きてほしいと思います。そして、私たちに何ができるか考えなくてはいけないなと思いました。

・私は、新潟水俣病の原因や被害について学習しました。新潟水俣病は見える症状と見えない症状があったので差別や偏見がひどかったことが印象に残りました。例えば仕事を休むと怠け者、水俣病のふりをしていると嘘つき呼ばわりされ「金目当て」だと思われたりして辛い思いをした人もたくさんいました。他にも偏見や差別がひどいので家族に内緒にして話せない人もいたことが分かりました。今は前より差別がひどくはなくなったけど、完全になくなった訳じゃなく、まだ裁判も続いています。新潟水俣病は、まだ本当に解決した病気ではないと思います。やっぱり、新潟水俣病というだけで差別偏見はおかしいと考えました。もう二度とこんなことがあってはいけないと思いました。

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	中野山小学校	担当(職・氏名)	教諭 涌井 光
学習テーマ	4大公害の1つである新潟水俣病について調べよう。		
活動のねらい	リーフレットや語り部からの話を聞く活動を通して、新潟水俣病について正しく学び、願いや思いを理解する力を育む。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 新潟水俣病である語り部さんからの話から学ぶ時間をつくり、直接的な体験を大切にする。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。） 1. 4大公害について概要を理解する。（リーフレット，インターネット等） 2. 新潟水俣病について（発生した原因の詳細だけでなく，語り部から願いや思いを理解する。） ・リーフレット・語り部 3. これまでの学習からこれからの自分の見方・考え方に生かす。			
○ 活動詳細 ① 学校の全体計画（高学年の学年目標） 地球問題の改善に向かって，持続可能な社会の実現のために，考え行動する。 ② 評価について 社会の学習の評価テストによる評価。ワークシートや作成した資料の評価。 ③ 学習発表会について 社会の学習や事前学習，校外学習で学んだことをまとめ、クラスで発表する。			
実施期間	5月～7月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
社会 環境とともに生きる	5時間	公害とは何か。どのような原因で起こることなのかを学習し、昔と今でどのように変わったか知る。	
総合 事前調べ学習	3時間	インターネットや図書館の本から新潟水俣病や4大公害の内容や被害について調べる。	
総合 環境と人間のふれあい館	4時間	環境と人間のふれあい館へ校外学習に行き、語り部さんの話や資料を見て学ぶ。	

○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

新潟水俣病の語り部

環境と人間のふれあい館

○ 成果と課題

成果は、資料と実体験を結びつけた多角的な理解と「自分ごと化」が進んだことです。

まず、リーフレットを活用して発生の経緯や被害の広がりといった客観的な事実を事前に学んだことで、語り部の講話内容をより深く、正確に受け止めるための土台が形成されました。その上で、語り部の方から直接、当時の差別や葛藤、そして「二度と繰り返してほしくない」という切実な願いを聞くことで、知識としての公害が「生きた人間の物語」へと変わり、児童の共感的な理解が大きく深まりました。まとめ・発表の事後学習では、偏見や差別の理不尽さに対して憤りを感じるだけでなく、正しい知識を持って行動することの重要性に気付くなど、人権を尊重しようとする態度の変容が見られました。

課題は、学びを過去の出来事に留めず、現代の課題へ繋げることができなかつたところにあります。講話の衝撃が非常に大きかつた分、児童が「昔の悲しい歴史」としてのみ完結させてしまう傾向が見られました。今後は、現代の環境問題など、児童の身近にある問題と新潟水俣病の本質的な共通点を見出し、自分たちの生活に引き寄せて考えさせるための橋渡しの指導がさらに必要だと思ひました。

■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
中野山小学校	5年生2クラス (56人)	6月	道徳	教諭・鈴木 陽子

・主題名

ある新潟水俣病患者の訴え

・ねらい

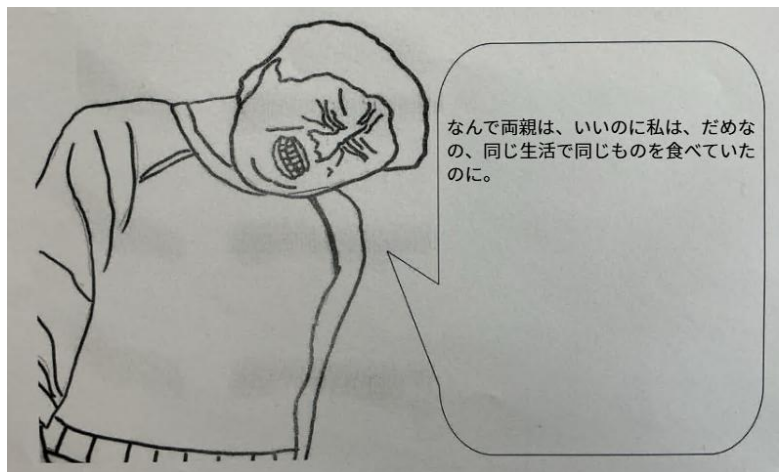
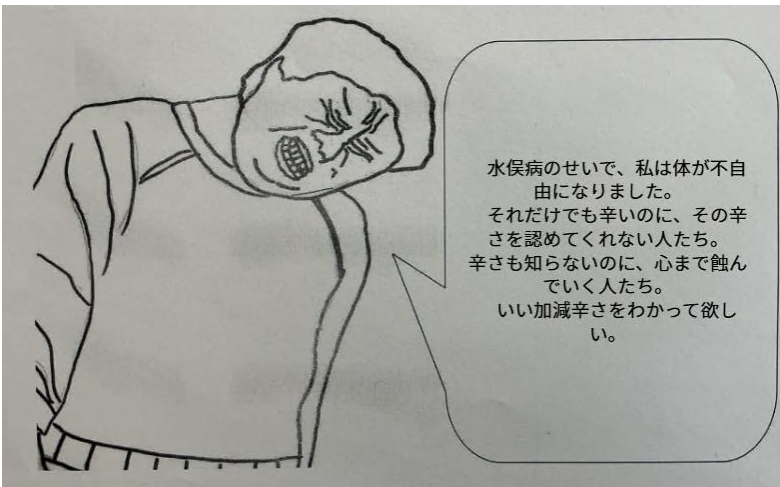
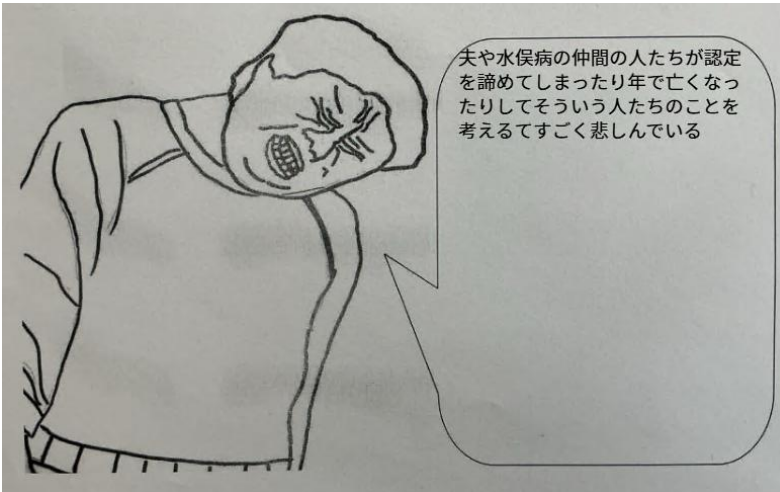
新潟水俣病**の原因追究や公害病認定に懸命に取り組んだ人々の生き方を学ぶことで、被害者が受けた差別や偏見に憤りを感じ、病気に対する差別をなくそうとする心情を高める。

配時 (分)	教師の働き掛け	子どもの反応 (学習活動等)	資料
5	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの新潟水俣病の学習が想起できるような資料を用意し、必要に応じて提示する。 ○「いつ頃、どこで、原因は」などの補助発問により県内で発生した公害病であることを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や地図を見て、新潟水俣病が発生した地域や病気の症状を想起し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者(被害者)や工場の写真 ・発生地域の地図
30	<ul style="list-style-type: none"> ○時間の経過や考えの根拠が分かるところに、サイドラインを引くなどの配慮をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 「わたし」の心や体や家庭を壊した原因は何ですか。 </div>		
		<ul style="list-style-type: none"> ○「わたし」の心や体、家庭を壊した原因を考え発表する。」 ○ 認定を求めて活動を始めた後の「わたし」がますますつらい日々を送る背景をとらえ、発表する。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 認定を求めて活動を開始してから「ますますつらい日々を送らなければならなくなった」理由を考えましょう。 </div>		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定を求めて活動を始めた後の「わたし」がますますつらい日々を送る背景をとらえ、発表する。 ○「ますますつらい日々」となった「わたし」の気持ちを想像し、ワークシートに書く。 	

10		○学習を振り返り、患者に対する見方や考え方を書き発表する。	
----	--	-------------------------------	--

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

水俣病患者の気持ちになって、つらい気持ちや考えていることを考え、差別や偏見がもたらすことを書いた子どもの振り返りのワークシート。



■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立鏡淵小学校	担当(職・氏名)	教諭・宮田 郁矢子
学習テーマ	新潟水俣病を知ろう！		
活動のねらい	新潟水俣病の発生原因や被害を知り、環境を守るために大切だと思うことを選択・判断することができる。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 日本の公害の学習をした後、新潟県で起こった新潟水俣病についてより詳しく知り、これからの生活の中で環境を守るために大切だと思うことを考える。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。） ① 新潟水俣病の発生から現代にいたるまでの歴史 ② 被害にあった方の話 ③ 発生原因 ④ 工場見学 レゾナック（旧・昭和電工株）に見学に行った。 ⑤ 現在の工場について 5時間分の話聞いた。			
○ 活動詳細			
実施期間	11月～ 12月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
新潟水俣病の発生から現代にいたるまでの歴史	1	一般社団法人あがのがわ環境学舎の方の出前授業	
被害にあった方の話	1	一般社団法人あがのがわ環境学舎の方の出前授業	
発生原因	1	一般社団法人あがのがわ環境学舎の方の出前授業	
工場見学	2	レゾナック（旧・昭和電工株）見学	
現在の工場について	1	レゾナック・グループ社員の方に来ていただいて、環境に配慮した製品の話聞いた。	
これからの生活について	1	話を聞いたことを基に、自分たちにできることを考える	

○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

一般社団法人あがのがわ環境学舎、レゾナック・グループ社員の方に来ていただいて、出前授業をしていただいた。

○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

1. 工場に対する認識の変容

工場に対しては当初、公害の加害者としての「悪いイメージ」を抱いていた児童が多く見られた。しかし、現在の徹底した環境配慮への取組や、「二度と同じ過ちを繰り返さない」という思いに触れたことで、負の側面だけでなく、日本の技術を支える工場としての誇らしさを感じるまでに認識が変化した。過ちを隠さず、未来へつなげようとする企業の姿勢を知ったことが、多角的な視点を持つきっかけとなった。

2. 多面的な視点による深い理解

新潟水俣病の原因だけでなく、被害者の方、そして工場の方という異なる立場にある方々の声を直接聴くことで、地元で起こった公害について多面的に理解を深めることができた。この貴重な体験は、「事実を正しく知らない人に伝えたい」「さらに詳しく調べたい」という児童の主体的な学習意欲を強く引き出すことにつながった。

3. 学びの日常生活への還元

工場での安全管理や工夫についての話を通して、児童は公害を「過去の出来事」として終わらせるのではなく、「これからの自分の生活において、安全を確かめることや工夫することの重要性」に気付くことができた。企業の製品づくりに対する責任感を学ぶことで、自分たちの生活態度を見つめ直すきっかけになった。

課題

- ・事実関係や対策については理解が深まったが、今なお残る差別や偏見といった課題に対し、自分たちに何ができるかをさらに議論する時間が必要である。
- ・「知らない人に伝えたい」という振り返りがあったが、具体的にどのように形にするか（新聞、発表会など）といった、アウトプットの機会が必要である。
- ・新潟水俣病の教訓を、現代のSDGsや海洋プラスチック問題など、身近な環境課題と結びつけて考え、行動に移すまでの導きが必要である。





■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

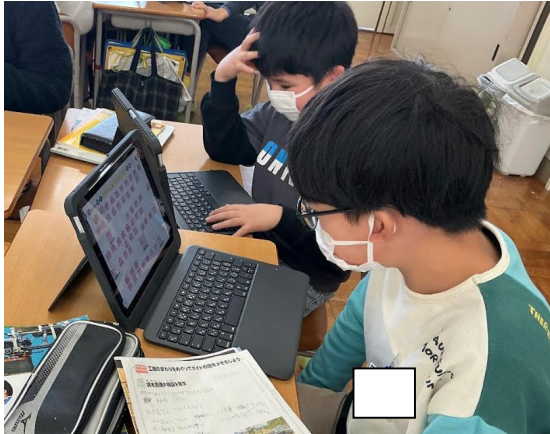
学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立鏡淵小学校	22人	2月4日	社会	教諭・宮田 郁矢子

- ・主題名 自分ができていることを考えよう
- ・ねらい 新潟水俣病について、現在の暮らしが過去の犠牲の上に成り立っていることを理解し、同じ悲劇を繰り返さないようにするために自分たちにできていることを考えることを通して、持続可能な社会を築こうとする意識をもつことができる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5分	<p>○講話や工場見学で一番心に残っている話や景色を話させる。</p> <p>発生原因、被害、工場で見聞きしたことについて分類する。</p> <p>○私たちの便利な生活は、犠牲とそこから学んだ教訓の上に成り立っていることを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●メチル水銀が原因。阿賀野川で発生して大きな被害が起こったね。 ●工場の人たちは今でも公害のことを考えながら安全に気を付けて仕事をしていたね。 ●被害の人は差別にずっと苦しんでいたよ。 	P132 ～ 134

◎新潟水俣病のような公害による犠牲を繰り返さないように、自分たちにできることは何だろう。

20分	<p>○個人で考える時間を取る。その際、発生被害、被害、工場での話からできることを探す。</p> <p>○近くの人と、できることについての考えを増やしていく。</p> <p>○全体で共有。「水を汚すものを減らす工夫」「環境に配慮した製品を選ぶ工夫」「差別をしない工夫」に分けて、クラスでできることを分類する。</p>	<p>【水を汚すものを減らす工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●洗剤をたくさん使わない ●カップ麺の汁を流しにそのまま流さない <p>【環境に配慮した製品を選ぶ工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プラスチック製品を買わない ●燃やせるものを買う <p>【差別をしない工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●正しい情報を得る ●正しいか分からない情報は人に伝えない 	
-----	--	---	--

10分	<p>水を汚すものを減らす工夫」「環境に配慮した製品を選ぶ工夫」「差別をしない工夫」からできることを考える。</p>	
	<p>○私の最初の一步宣言を書き、宣言の紹介をする</p>	<p>●阿賀野川を汚さない工夫を心掛けたい。油を流しに直接流さないように気を付けたいな。 ●レゾナックの方から製品の話聞いたから、環境に配慮された製品をできるだけ選びたいな</p>
	<p>ためていた資料の情報から、自分ができそうなことを調べている様子</p> 	<p>全体で意見を共有し、分類分けをした</p>

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

○汚れた水を海や川に流さないことに気を付けたい。ぼくは、リサイクルできることはしていく必要があると思う。川の汚染は自分たちに関係ないと思って、ごみを直接川や海に流してしまうと、大きな蓄積になり公害を引き起こしてしまうことが分かった。

○回ってきた情報をすぐに信じないようにしたい。正しい情報かどうかを確認してから信じる必要があると思った。特にネットでは間違った情報がたくさん出回っている。自分が発信した情報で人を気付付けたり、差別につなげたりすることがないように気を付けたい。

○ボミのポイ捨てに気を付けたい。捨てたごみを海や川にいる魚が食べてしまったら、人間の体に悪影響を及ぼすことにつながることに繋がるので、ごみは指定の場所に捨てるように気を付けたい。

令和7年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立日和山小学校	担当(職・氏名)	教諭・斎藤 隆																																
学習テーマ	日和山海岸、早出川、福島潟の生き物やごみを調べ、SDGsの解決を目指そう。(4・5学年：理科・道徳)																																		
活動のねらい	海、川、潟のプラごみや自然を調べる学習を通して、自然環境と生物との関わりについて理解を深め、環境を保全していこうとする態度を育む。																																		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <p>「水俣病教師用指導資料集」「みなまた探索日記自作DVD」を用いて、新潟水俣病が、自然を壊し、環境を蝕み、生活を変えたことを理解させ、人々が安心して暮らしていくために、自然を畏敬し、社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。</p>																																			
<p>○ 活動概要</p> <p>①プラごみや生き物を調べる。(4年生…日和山海岸、福島潟、5年生…早出川)</p> <p>②早出川ダムで環境にやさしい発電について学ぶ。(5年生)</p> <p>③環境と人間のふれあい館に行き、水俣病について学び、水の大切さ、環境の大切さに気付く。(4年生)</p> <p>④体験やゲストティーチャーから学ぶことを通して自然を守ることの大切さや苦勞と願いに気付く。</p> <p>⑤10年後の日和山海岸がどのようになっているといいか考え、AIで表したり工作で作ったりする(4年生)</p> <p>⑥追究したことをまとめる。(4・5年生)</p>																																			
<p>○ 活動詳細</p> <table border="1"> <tr> <td>実施期間</td> <td colspan="3">令和7年5月～令和8年3月</td> </tr> <tr> <td>主な学習内容・活動内容</td> <td>時間</td> <td colspan="2">指導・支援の内容</td> </tr> <tr> <td>プラごみなどを調べる。</td> <td>4年生4 5年生2</td> <td colspan="2">4年生…日和山海岸と福島潟のプラごみと福島潟の生き物やプラごみを調べる。 5年生…早出川のプラごみを調べる。</td> </tr> <tr> <td>環境にやさしい発電について学ぶ。</td> <td>2</td> <td colspan="2">5年生…早出川ダムを見学し、環境にやさしい発電について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>水俣病について学ぶ。</td> <td>2</td> <td colspan="2">4年生…環境と人間のふれあい館に行き、水俣病水の大切さ、環境の大切さを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>松林と日和山海岸について学ぶ。</td> <td>10</td> <td colspan="2">4年生… 浚渫船乗船体験、サップ体験、ビーチドッジボール体験、松林の役割を学ぶ、ハマベリングについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>日和山海岸の10年後の姿を考える。。</td> <td>10</td> <td colspan="2">4年生…環境を守り、たくさんの人から楽しんでもらえる施設などを考え、AIで表現したり、工作で表現したりする。</td> </tr> <tr> <td>追究したことをまとめ、発表する。</td> <td>2</td> <td colspan="2">4年生…参観日で発表する。 5年生…新聞にまとめる。</td> </tr> </table>				実施期間	令和7年5月～令和8年3月			主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容		プラごみなどを調べる。	4年生4 5年生2	4年生…日和山海岸と福島潟のプラごみと福島潟の生き物やプラごみを調べる。 5年生…早出川のプラごみを調べる。		環境にやさしい発電について学ぶ。	2	5年生…早出川ダムを見学し、環境にやさしい発電について学ぶ。		水俣病について学ぶ。	2	4年生…環境と人間のふれあい館に行き、水俣病水の大切さ、環境の大切さを学ぶ。		松林と日和山海岸について学ぶ。	10	4年生… 浚渫船乗船体験、サップ体験、ビーチドッジボール体験、松林の役割を学ぶ、ハマベリングについて学ぶ。		日和山海岸の10年後の姿を考える。。	10	4年生…環境を守り、たくさんの人から楽しんでもらえる施設などを考え、AIで表現したり、工作で表現したりする。		追究したことをまとめ、発表する。	2	4年生…参観日で発表する。 5年生…新聞にまとめる。	
実施期間	令和7年5月～令和8年3月																																		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容																																	
プラごみなどを調べる。	4年生4 5年生2	4年生…日和山海岸と福島潟のプラごみと福島潟の生き物やプラごみを調べる。 5年生…早出川のプラごみを調べる。																																	
環境にやさしい発電について学ぶ。	2	5年生…早出川ダムを見学し、環境にやさしい発電について学ぶ。																																	
水俣病について学ぶ。	2	4年生…環境と人間のふれあい館に行き、水俣病水の大切さ、環境の大切さを学ぶ。																																	
松林と日和山海岸について学ぶ。	10	4年生… 浚渫船乗船体験、サップ体験、ビーチドッジボール体験、松林の役割を学ぶ、ハマベリングについて学ぶ。																																	
日和山海岸の10年後の姿を考える。。	10	4年生…環境を守り、たくさんの人から楽しんでもらえる施設などを考え、AIで表現したり、工作で表現したりする。																																	
追究したことをまとめ、発表する。	2	4年生…参観日で発表する。 5年生…新聞にまとめる。																																	

○ 協力団体・協力者等

環境と人間のふれあい館の職員、福島潟の職員、早出川ダムの職員、サップ体験指導者、新潟市地域課の職員、浚渫船白山の職員

○ プラスチックごみを調べる。

4年生は、日和山海岸を調べた。きれいな貝殻がたくさんある一方でプラスチックごみがたくさん見つかった。また、福島潟で調べた。たくさんの川からごみが流れ込んで来ることを知り、気にとめなければ見つからないような場所にプラスチックごみがあることを知った。5年生は早出川を調べた。上流ではなかったプラスチックごみが、中流ではたくさん見つかった。

○ 環境にやさしい発電について学ぶ

5年生は、早出川ダムを見学しダムの役割を学んだ。その中で水の流れを利用してタービンを回し、二酸化炭素を排出しない発電方法であることに気付いた。

○ 体験、ゲストティーチャーから日和山海岸と松林について学ぶ

浚渫船乗船体験では「白山」に乗船し信濃川にたまる砂を取って河口の環境を守っていることを学んだ。サップではたくさんの指導者のおかげで1人1人がマリンスポーツの楽しさを体験することができた。ビーチドッジボールでは砂浜でスポーツすることの楽しさを体験できた。松林の役割について、海辺の砂と風に対する苦労と植樹、松林を維持する仕事について学んだ後に観察に行った。すると松の木が枯れたり折れていたりしていることが分かり維持管理の大切さと大変さが分かった。

○ 日和山10年後プロジェクト

環境を守り、たくさんの人から楽しんでもらえる施設を考え、CanvaのAIで表現したり、工作で野鳥を観察できる観察舎、海岸アスレチック、プラネタリウムなどを作ったりした。

～日和山小周辺の環境について～

「日和山海岸は近いのでよく行っていたが、プラスチックごみを調べてみるとたくさんあり、その後家族で散歩してみると、それまでは気にしていなかったプラスチックごみが、まだまだたくさんあることが分かりました。魚や鳥にも影響があるので本当によくないなと思いました。今度海などでごみを拾うイベント（活動）があったら参加してごみを拾ってみたいです。」

「日和山海岸や松林は、より良くしようとした先人の苦労と歴史があることが分かりました。そして現在も多くの人が環境を守り維持管理をしていることが分かりました。」

～水俣病について～

「一度環境がこわれると大変だと思いました。正しい知識を学び、環境を守りたい。」

○ 成果と課題

成果① プラスチックごみが、早出川、福島潟、日和山海岸にあることが分かった。多くの人が環境を守ろうと努力していることに気付くことができた。

成果② 水俣病について正しい知識をもつこと、差別を見抜き差別を許さないこと、自然環境を大事にしていかなければならないことの大切さについて学ぶことができた。

課題 環境を守る大切さと、差別をしてはいけないことは学んだが、身近なところから自分のできることをしていくという実践的な部分がまだ不足している。

令和7年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立日和山小学校	4年生（62人）	6月24日	道徳	教諭 斎藤 隆

主題名 環境学習から水俣病について学ぶ 3-(2) 自然愛

ねらい 新潟水俣病が、自然を壊し、環境を蝕み、生活を変えたことを理解させ、人々が安心して暮らしていくために、自然を畏敬し、社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。

配分（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習内容等）	資料
10	<p>水俣病について、これからどんな努力をしていくことが必要でしょうか。</p> <p>○ 環境を守る活動について考えさせる。</p>    	<p>環境と人間のふれあい館のHPを基にした自作プレゼン</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 赤ちゃんの水分は88%もある。 ● 水の汚れの原因は人がつくっている。 	
20	<p>○ 新潟水俣病について説明する。</p>    	<p>「水俣病教師用指導資料集」「みなまた探索日記自作DVD」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最初は水俣病の原因が分からなかった。 ● 「うつる病気」「タタリ」だと誤解され、差別や偏見があった。 	
15	<p>○ 水俣病について、これからどんな努力をしていくことが必要か考えさせる。今年あった話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然を守る。 ● 差別をしない。 ● 今も苦しんでいるんだ。 	

- わたしは、水俣病という病気を知らなかったので勉強になりました。そして水俣病になった方々は歩けなかったり、話せなかったりという症状の病気だということが分かりました。あと、話すことができい方が、初めて勇気を出してテレビに出たことを知り、すごいと思いました。
- 昔水俣病になった人は今でも病気が続いていて、薬を使っても治らないこと、差別を受けてる人は心に深い傷があることを知り、環境を守らなければならないし、差別をしてはいけないと思いました。
- 水俣病になるとネコは変な鳴き声を出し、くるったようにグルグルンと回り始めます。人間になると手足がしびれたりする上、差別で苦しんでいる人がいます。そして、水俣病になった人たちは、一生治りません。なぜなら今だに治し方が見つからないからです。私は、自然環境を守り水俣病の治し方を大人になったら見つけて治したいと思いました。
- 水俣病とかの病気なら、絶対治る方法があると思っていましたが、未だ治療法が見つからないと知って、かなり驚きました。あと、水銀を食べた魚を一回食べたら即感染するかと思いましたが、長い間食べないと、感染しないとわかって、ちょっと安心しました。でも、怖いです。私が大人になったら、もうその頃にはあるかもしれないけれど、水俣病を治す方法を見つけ出して、感染した人を治してあげたいです。あと、もし感染したとしても、医者に認めてもらわないといけないと知って、酷いと思いました。認めてもらっても、水俣病だと誰かに知られたら、「金が欲しいだけだ。」「恥だ。」「偽物だ。」と、誰かに言われると知って、酷すぎると思いました。そんな大人にだけは、私は絶対になりたくないと思いました。
- 水俣病になると普通の風邪のように薬を飲むと治るんじゃないなくて、60年経っても治る方法が出ていないというのがとても怖いところだと思いました。それに、お腹の中に赤ちゃんがいる人が食べると、赤ちゃんが生まれた時から水俣病になるのが、大変だと思いました。お母さんが気づかずに汚染された魚を食べることがあると聞いて驚きました。水俣病にかかった人は、歩くだけでもつらいのに、さらに差別までされるのは、とてもひどいことだと思いました。それに、人によって症状が違うので、まだ確認されていない症状が自分に出て、お医者さんにあなたは水俣病じゃありませんと言われて、差別されたりして、そのまま亡くなっていくことになったことを考えると、とても辛い病気だと思いました。水銀を流していた会社は、なぜ気づいていたのに、流していたのか疑問に思いました。
- 今日水俣病について学びました。水俣病はうつると言われていたけど、本当は全くうつらないということ、水俣病のせいで、差別を受けたり、結婚や就職をさせてもらえなかったりした人がいること、会社や国、市などだけが悪かったのかということ、水俣病にかかるとどんなに辛いかということが本当によく分かりました。しかも、赤ちゃんを産む人は魚をたくさん食べろと言われていたから、それで被害者が増えたことなどを知って後世で絶対に起こしてはいけないと思いました。

○ 写真資料

プラスチックなどのごみを調べる

日和山海岸 4年生

残しておきたい素晴らしい自然



素晴らしい環境のためがあると困るもの



早出川 5年生 上流にはなかったごみの中流ではたくさん見つかった。

中流のごみ



福島潟 4年生



子どもの声

「カッコウやオオヨシキリなどの野鳥がたくさんいました。レンジャーやボランティアの方がごみ拾いをよくしているのに、たくさんの川からごみが流れ込んできていることが分かりました。ごみがたくさんあってびっくりしました。」

○環境と人間のふれあい館で新潟水俣病について学ぶ。4年生



○体験、ゲストティーチャーから日和山海岸と松林について学ぶ。4年生



浚渫船白山



サップ



松林の観察

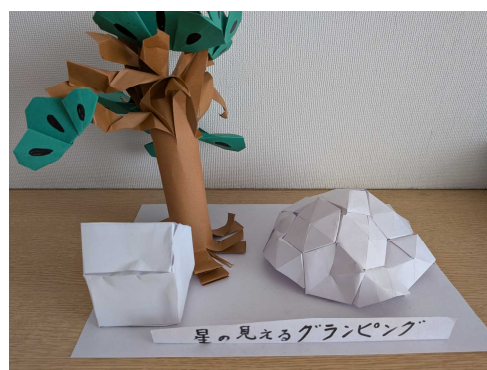


ビーチドッジボール

○日和山に10年後にあるといい施設



CanvaAIによる海岸のキャンプ場



星の見えるグランピング

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立亀田東小学校	担当(職・氏名)	教諭 小林 久代
学習テーマ	大好きにいがた「環境にやさしい町 みんなにやさしい町 亀田」		
活動のねらい	自然に触れ合う活動や地域の人々の様々な願いや思いに触れる活動を通して、誰もが幸せに暮らせる「環境にやさしい町 みんなにやさしい町 亀田」にしていこうという態度を育てる。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 「環境と人間のふれあい館」を訪問し、語り部の方のお話を聞き、差別や偏見のない「誰もが幸せに暮らせる社会」になるためにこれからの自分たちにできることを考える。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。） ①SDGsについて知り、興味をもったことを調べる活動を通して、環境や福祉について考える。 ②田植え体験や稲刈り体験を通して、亀田の環境や農家の人の思いについて考える。 ③7月「自然教室」での川や林での体験を通して、水環境など自然の大切さを学ぶ。 ④福祉体験やパラスポーツ体験、江南区の一人暮らしの高齢者へのお手紙を書く活動を通して、誰もが幸せになれる社会、公平な社会について考える。 ⑤「環境と人間のふれあい館」を訪問し、語り部の方のお話を聞き、差別のない社会になるためにこれからの自分たちにできることを考える。			
○ 活動詳細			
実施期間	4月～ 2月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
SDGsについて知り、興味をもったことを調べる	4		
田植え体験	3	田植え体験や稲刈り体験を通して、亀田の田んぼを中心とした環境や農家の人の思いについて考える。	
自然教室（1泊2日）	20	7月の「自然教室」での川でのカヌー体験や林でのグラウンドゴルフ体験を通して、自然の豊かさや大切さを学ぶ。水環境・森の環境について学ぶ。	
福祉とは（福祉人権教育）	2	江南区社会福祉協議会の方の講話を聞き、「しあわせの形は一人一人違いがあることを学び、相手の立場で考えること」の大切さを知る。	
バリアフリー・ユニバーサルデザイン体験	2	江南区社会福祉協議会の方からお話を聞き、バリアフリー・ユニバーサルデザインの意味を知り、UD体験を通して周囲への思いやりの大切さに気付く。	

パラスポーツ「ボッチャ」体験	2	ボッチャ体験を通して、パラスポーツへの理解を深め、誰とでも楽しく活動することの大切さを知る。
視覚障がい・アイマスク体験	2	視覚障がいがどのような障がいか理解し、ペア活動を通して分かりやすい伝え方について学ぶ。
視覚障がい・盲導犬についての講話	2	視覚障がいの方の生活や盲導犬を理解し、視覚障がいの方との交流を通して、自分たちにできることを考え、思いやりをもって生活する大切さに気付く。
新潟水俣病について学ぶ。	4	「新潟水俣病とはどんな病気か。何が原因で起きるのか。」など、調べたいテーマを決めて関連図書やインターネットで調べる。「生きるⅢ・」
環境と人間のふれあい館で、新潟水俣病について学ぶ。	4	「環境と人間のふれあい館」を訪問し、語り部の方のお話を聞き、差別のない社会になるためにこれからの自分たちにできることを考える。
<p>○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あけぼのクラブ立川様（田植え・稲刈り・亀田の農業について） ・江南区社会福祉協議会 ・パラスポーツ「ボッチャ」指導者 木滑様 ・社会福祉法人新潟県視覚障害者福祉協議会 木村弘美様 ・新潟水俣病の語り部 小町ゆみ子様 ・環境と人間のふれあい館 		
<p>○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から総合的な学習の時間の学習を中心に、水環境について考える活動や興味をもった環境についての疑問を調べる活動を行ってきた。7月の自然教室では、カヌーやフォトオリエンテーリングなどの自然と触れ合う活動を通して、きれいな河川や海の環境がもたらしてくれる恩恵や水環境やそこに住む生き物たちの命を守り続けていく大切さに気付く姿が見られた。12月の環境と人間のふれあい館での学習では、語り部の小町さんのお話を聞き、河川が人間の暮らしと密接に関わっていることや、水環境を守ることの重要性を学ぶことができた。 ・10月～12月の福祉についての学習では、アイマスク体験や盲導犬ユーザーの方の講話、ユニバーサルデザイン・バリアフリー体験・パラスポーツ体験の学習で、障がいのある方の生活の一部を疑似体験し、普段気付かないところに不便さや困難さがあることを実感し、サポートの重要性や声掛けの仕方などを知り、「困った人に出会ったら、声を掛けて手助けできる人になりたい。」と、共に生きる社会について考えていた。 ・さらに、12月の環境と人間のふれあい館での学習での語り部小町さんのお話を聞き、病気に対する差別や偏見の実態をしり、「病気の人も障がいを持っている人も、誰もが幸せに暮らせる社会」をつくるためには、相手を理解することと思いやりの心、正しい知識が大切であると気付く姿が見られた。 		

■様式3：令和7年度の特徴を活かした環境学習等支援事業に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立亀田東学校	5年2組(34人)	12月2日	道徳	教諭 小林 久代

- ・主題名 道徳 ある新潟水俣病患者の訴え(資料「生きるⅢ」)
- ・ねらい 新潟水俣病により命を奪われたり差別を受けたりした人々の様子を知り, 差別や偏見の中でも生活を守るために生きてきた人々の生き方を学ぶことを通して, 差別を許さない気持ちの大切さを学ぶ。

配時(分)	教師の働きかけ	子どもの反応(○学習活動等)	資料
10	新潟水俣病ってどんな病気でしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野川に流された水銀で起こった。 ・有機水銀が原因 ・体のしびれ, 目が見えにくくなる。 ・温度を感じなくなる。 ・仕事できない, 生活できない 	『新潟水俣病 20の疑問』 新潟水俣病について調べた自主学習ノート
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文を読む。 ・いろいろな言葉で差別を言われた人の気持ちを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しかったと思う ・仕方がないことなのにひどい。 	・ワークシート(ロイロ)
	「心も体もぼろぼろの状態」にしたのは, 何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・気のつらい症状 ・近所の人からの陰口 ・うつるから近づくな ・周りのとの差別 ・暴言 	
	差別を受けた人々がどんな気持ちだったのでしょうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に送られたいやがらせの手紙や患者さんを傷付けた言葉の資料を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の症状で苦しんでいるのに, 「大丈夫?」じゃなく, ニセ患者とか言われて心も傷ついた。 ・周りの人の差別 ・医者に行きたくてもいけないから辛い。 	

10	<p>(学習課題)</p> <p>差別の中でも、立ち上がって戦った「わたし」を支えたものは何かな。</p>	<p>・なりたくてなったわけじゃないのに。</p> <p>・強い気持ち</p> <p>・いっしょにたたかってくれる仲間</p> <p>・まわりで応援してくれる人</p> <p>・家族</p>	
15	<p>今の自分にできることは何だと思いますか。</p> <p>差別や偏見をしない考え方, 行動, 相手の気持ちに寄り添う行動について書いている振り返りを紹介し, 共有する。</p>	<p>○ワークシート記入</p>	<p>・ワークシート (ロイロ)</p>

・授業の子もたちの考え

B 認められなかったのか！
お前はニセ患者だ。
お金がほしいだけなんだろう！

どんなことを感じた、思ったでしょうか。

【病院・地域で感じた嫌な経験やニセ患者差別】

内 容
1 「うそをつくな」と言われたり、おこられたり、「あんた金ほしいんじゃないか」と言われたことがある。
2 耳鼻科（じびか）や眼科（がんか）で「できるはずだ」とか「聞こえるはずだ」とかいろいろ怒られた。
3 病院では「ニセ患者」呼びわりされるなど、いやな思いをした。
4 病院で「また来たのけ」「何しに来た」「そうやって立とうとすれば立てるじゃないか」など、医者によくおこられた。くやしくて病院から家に泣き泣き帰ってきたこともある。
5 ぶじょくてきな取り扱ひを受けた。視力検査の時、目が閉じられないように、まぶたをばんそうこうでおさえられた。
6 「水俣病なのに、どうしてあんなに元気なのか」ということは言われたことがある。ピラ配りや裁判の時にテレビに映し出されるので知れわたっている。「外からは分からない症状のつらさがあるのに」とくやしい思いをした。
7 しんせきから、「あんまりテレビに映されるな、かつこうが悪い」と文句を言われた。「なまけもの」「よくばり」「金めあて」「ニセ患者」「水俣病であんなに元気」など、むちゃくちゃ悪口を言われた。
8 しんせきから、「金ほしさで裁判をして」と言われた。
9 「褒めて金が入っていいね」といやみを言われたことがある。
10 ふだんは仲の良いような近所の人も、お金がからむと態度が変わる。
11 「人がお金をもらうのに応援なんかできるか」と言われた。
12 「いったい、どこが悪いん」とよく言われる。
13 よく、いやがらせのハガキや電話がある。
14 「水俣病が来た。ミナだ、ミナだ」と言われた。
15 町内の神社の木が倒れたので後始末をした。その後水俣病になったら「あの時木を切ったあたりだ」と言われた。

自分や他の人とかが水俣病になっている時すごく辛くて苦しいのに差別や偏見を勝手されていたりしてすごく辛い気持ち。

自分や水俣病になっている人達の気持ちにもなんないで差別をしていて「なんでそんなことをするの？」って思った。

**水俣病やいろいろな病気の人に対する差別
や偏見について思ったことを書きましょう。
(かじょう書きでもいいです。)**

差別や偏見されている人の気持ちにもなりしないでなんでそんなことが言えるの？と思った。
なんで苦しみや辛さが分からないのになんで言えるの？と思った。
差別やばい菌扱いとかをすると犯罪に繋がるよと思った。
世の中には病気で苦しんで人がいて裁判とかで言ってるのに金目当てとか偽患者とか言われていて病気とかの人は苦しいから言ってるのになんで差別や偏見するのと感じました。
差別や偏見をしたりして「そんなことをして楽しいの？」と思いました。

あなたの周りに病気で困っている人がいたら、あなたはどうすべきだと思いますか。たくさん書きましょう。
(かじょう書きでもいいです)

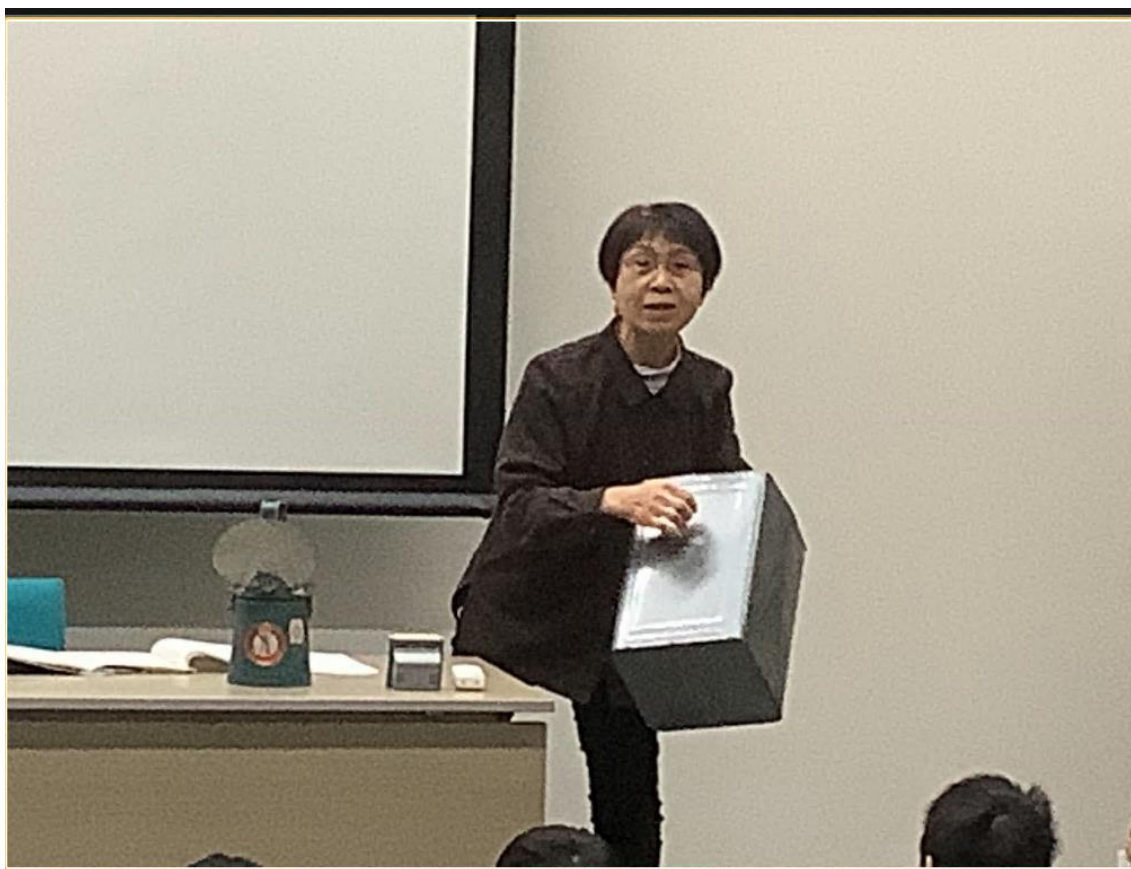
差別や偏見されている人側に言って一緒に支え合う。
困っていることがあったら、一緒に協力して自分に自信が少しでも持てるように協力をする。
差別や偏見されてきた人の側に言って差別や偏見をしていた人に少しでも自分の意見を言えるようにサポートをする。
差別や偏見されている人がいたら見てないで一緒に守る。
「大丈夫？」とか声をかける。
人に流されないようにする。
遠くの所に居たなら手紙や連絡したりする。
差別や偏見で遊ぶ人が居ないなら一緒に遊んだりして仲を深める。
何か手伝えることがないか聞いたりする。
相手のペースに合わせる。

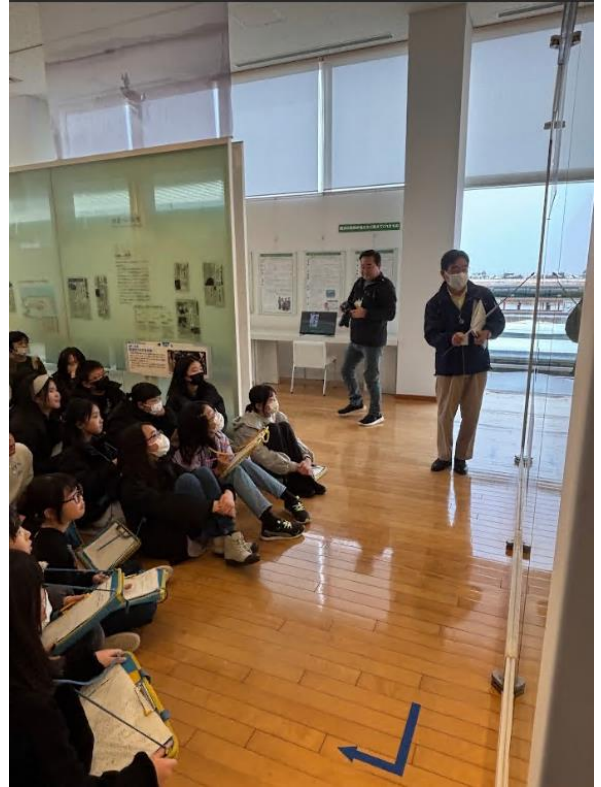
**水俣病やいろいろな病気の人に対する差別
や偏見について思ったことを書きましょう。
(かじょう書きでもいいです。)**

- 水俣病などの病気は、辛いことがわからない時などはもちろん差別や偏見と捉えられる言葉を言わない方がいいと思いました。
- 水俣病などいろいろな病気の人に対する差別や偏見をすると大ごとになったり、裁判になったりするし、その人が傷つくのでやめた方がいいなと思いました。

あなたの周りに病気で困っている人がいたら、あなたはどうすべきだと思いますか。たくさん書きましょう。
(かじょう書きでもいいです)

- 自分の差別などをしないで、いじめられている人の心に寄り添ってあげたいなと思いました。
- 支えている人は、世界が優しい人で溢れるようにと思いながら、支えていると思いました。





■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立小合東小学校	担当(職・氏名)	教諭・目黒 修
学習テーマ	小合の米作りと環境とのかかわりを調べよう		
活動のねらい	地域の米づくりについて調べる学習を通して、環境と人々の生活とのかかわりに ついて考え、環境保全・改善に主体的に取り組む態度を育てる。		
○ 新潟水俣病とのかかわり			
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病である語り部さんからの話から学ぶ時間をつくり、実感的・共感的理解を図る。 ・新潟水俣病は、環境や健康の問題だけではなく、人権問題でもあることを捉えさせる。 			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）			
<ul style="list-style-type: none"> ・小合の米づくりについて学ぶ。 ・水・土・農薬など、環境と米づくりとのかかわりについて学ぶ。 ・水と人々の生活は深いかかわりがあったことを学ぶ。 ・現在の水環境が保たれている背景にある新潟水俣病について学ぶ。 ・「環境と人間のふれあい館」に行き、新潟水俣病や環境についての理解を深める。 ・新潟水俣病は、環境問題であるとともに、人権問題であることを学ぶ。 ・環境や人権を守るためにできることを発信する。 			
○ 活動詳細			
実施期間	5月～2月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
小合の米づくりの学習	25時間	<ul style="list-style-type: none"> ・米づくりの1年の流れを調べる。 ・田植え前の苗づくりを見学する。 ・田植えを体験する。 ・稲の生長の様子を調べる。 ・米作りの環境(水・土・農薬など)について調べる。 ・興味をもったことについて調べる。(昔の米づくり、米粉、後継者不足等) ・米粉のいろいろな特徴を知る。 ・稲刈りを体験する。 ・刈り取ったわらで、お正月リースを作る。 ・収穫した新米を味わう。 	
新潟水俣病について知る	15時間	<ul style="list-style-type: none"> ・水と人々の生活は深いかかわりがあったことを学ぶ。 ・現在の水環境が保たれている背景には、新潟水俣病あることを知る。 ・新潟水俣病の歴史・原因・症状などを調べる。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・「環境人間のふれあい館」を見学し，語り部さんの話を聞いたり，展示物を見たりすることにより，水俣病への偏見と差別の実態を知る。
<p>学んだことをまとめ，交流する。</p>	8時間	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだことや自分たちにできることをまとめる。 ・水俣市の小学5年生と，オンラインで学習した成果を交流する。
<p>○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と人間のふれあい館 ・語り部 曾我 浩 さん ・あがのがわ環境学舎 ・JA 新津さつき野 ・新潟お笑い集団 NAMARA 		
<p>○ 成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校田における田植え体験や稲刈り体験では，米づくりの大変さを体感するとともに，農家の方や JA 職員の話から，米づくりと自然環境(水・土・農薬など)のかかわりに目を向けることができた。 ・小合地区の農業について学習してから新潟水俣病のことを考えたことで，秋葉区を流れる阿賀野川で起こった新潟水俣病について，興味をもって学習を進めることができた。 ・新潟水俣病についての正しい知識をもつことができた。 ・「環境と人間のふれあい館」を見学したり，説明を聞いたりすることにより，水と生活とのかかわりについて理解を深めるとともに，環境保全への意識が高まった。 ・語り部さんから被害者の思いや辛かったことを聞き，共感的な理解を深めるとともに，差別や偏見のない社会にしたいという思いをもつことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別や偏見はいけないことを学んだが，その学びを日常生活の中での友達との関わり方や言葉遣いなどに継続して生かしていくためには，人権に関わる問題について機会があるたびに，繰り返し指導していく必要がある。 		

育苗ハウスの見学



田植え体験



米粉蒸しパンづくり(アグリパーク)



稲刈り体験



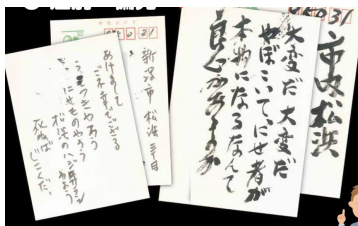
環境と人間のふれあい館見学





■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立小合東小学校	5年1組(14人)	2月2日	道徳	教諭・日黒 修

- ・主題名 みんなが仲良くくらししていくために 2-(2)思いやり・親切
- ・ねらい 地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気づき、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	<p>水俣病が発生する前の村の様子はどんなだったでしょうか。</p> <p>○読み物資料(村の絆が強かった頃の様子)を、教師が補足を加えながら読む。</p>	<p>●川魚や川の仕事など、川のめぐみがあった。</p> <p>●村の絆が強かった。</p>	P37の読み物資料
5	<p>強い絆で結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。</p> <p>○読み物資料(村がバラバラになった様子)を、教師が補足を加えながら読む。</p> <p>○嫌がらせの手紙の画像を見せ、差別や偏見があったことを理解させる。</p> <p>○学習課題を設定する。</p> <p>〈学習課題〉 どうすれば仲良く暮らすことができるだろうか。</p>	<p>●差別や偏見によって、患者さんが苦しんだ。</p> <p>●絆の強かった村がバラバラになった。</p>  <p>●どうすれば村はバラバラにならずに済んだのだろうか。</p>	
10	<p>陰口や心ない言葉を言われるとどんな気持ちになるか、ロールプレイをして確かめてみましょう。</p> <p>○ロールプレイ1行い、陰口や心ない言葉を言われた患者さんたちの気持ちを実感させ、感想を発表させる。</p>	<p>●心が痛くなった。</p> <p>●「信じてもらえない」という気持ちになった。</p> <p>●にせ患者と決めつけられて嫌な気持ちになった。</p> <p>●悲しい気持ち。</p> <p>●認められなくて、くやしい。</p>	P39 ロールプレイ用のワークシート

5	<p>旗野さんは、なぜお地蔵さんを建てたのでしょうか。</p> <p>○読み物資料(旗野さんがやったこと)を、教師が読み、旗野さんの行動の意味を考えさせる。</p>	<p>●村の人に優しい気持ちになってほしかった。 ●村の絆を取り戻したかった。</p>	
10	<p>旗野さんが言う「相手のことを思った言葉」とはどんな言葉でしょうか。ロールプレイでその言葉を言われた時の気持ちを確かめましょう。</p> <p>○「相手のことを思った言葉」とはどんな言葉か考えさせ、ロールプレイ2でその言葉を言われた時の気持ちを実感させ、感想を発表させる。</p> 	<p>〈相手のことを考えた言葉〉</p> <p>●早く認めてもらえるといいね。 ●つらいけどがんばろう。 ●寄りそってくれる人がいるから安心して。 ●仲間がいるよ。 ●つらかったんだね。 ●がんばって。</p> <p>〈言われた時の気持ち〉</p> <p>●気が楽になる。 ●寄りそってくれる感じがした。 ●うれしい。 ●すっきりする。 ●自分のつらさを分かってくれて安心。</p>	
5	<p>仲良く暮らすためにどうしたらいいか、まとめをしましょう。</p> <p>○今日の学習を振り返り、まとめを考えさせる。</p>	<p>〈まとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感、寄りそう気持ち、やさしい気持ちが大切。 ・相手の気持ちを考えた言動が大切。 	
5	<p>自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙に書きましょう。</p>		

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

「お地蔵さんにこめられた願い」

5年1組 名前

<ロールプレイ1>

A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ…。

B 認められなかったのか！
お前はニセ患者だ。
お金がほしいだけなんだろう！

あなたがAさん役のとき、どんなことを感じましたか。

●水俣病で苦しむのに、にせものと言われて、悲しいし、やしい

<ロールプレイ2>

A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ…。

B 水俣病で痛くて、つらかったわね

あなたがAさん役のとき、どんなことを感じましたか。

●Bが「自分がよりそってくれる感じがした」

あなたの思いや考えを手紙であらわしましょう。
だれに手紙を書きますか。あなたが手紙を書きたい人を下の3人からえらんで、記号を○でかこみましょう。えらんだら、手紙を書きはじめましょう。

⑦ 水俣病と認められず、かけ口を言われていた人たち へ
イ かけ口を言っていた人たち へ
ウ 旗野秀人さん へ

認められなくて、かけ口を言われて、大変ですわ。
認められなくても、共感してくれる人や、よりそって
くれる人はたくさんいるので、安心してください。
かならず仲間はたくさんいます。かけ口を言った
人は、つらさを分かってないですわ。でも、かけ口をい
われたことはあつれて、水俣病と認めてもらえる
ようにがんばりましょう。認めてもらえなくても、
共感してくれる人がたくさんいるので、1人で悩
みません。かけ口をいった人には、水俣病のつらさが
分かってもらえるように、かけ口を言う人もへら
るように、がんばっていきましょ。つらいと思
うけど、がんばってください

5年1組 名前

「お地蔵さんにこめられた願い」

5年1組 名前

<ロールプレイ1>

A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ…。

B 認められなかったのか！
お前はニセ患者だ。
お金がほしいだけなんだろう！

あなたがAさん役のとき、どんなことを感じましたか。

とても悲しくなりました。本当に自分がつらいのに、
信じてくれないやな気持ち。

<ロールプレイ2>

A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ…。

B そなたね、早く水俣病と認め
てもらえと良いね。つらいと思
うけど、頑張りな。

あなたがAさん役のとき、どんなことを感じましたか。

強い護りも寄りそってくれる言葉の方が
とても嬉しいと感じました。

あなたの思いや考えを手紙であらわしましょう。
だれに手紙を書きますか。あなたが手紙を書きたい人を下の3人からえらんで、記号を○でかこみましょう。えらんだら、手紙を書きはじめましょう。

ア 水俣病と認められず、かけ口を言われていた人たち へ
① かけ口を言っていた人たち へ
ウ 旗野秀人さん へ

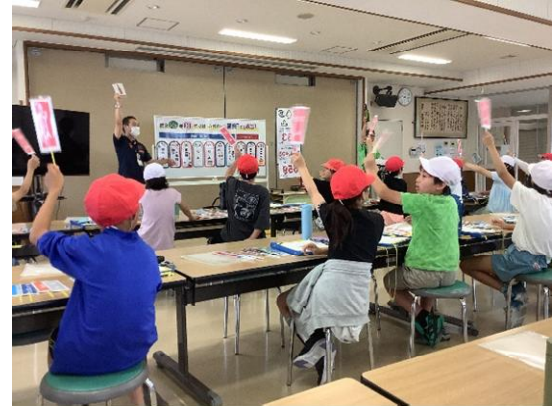
水俣病の人をニセ患者かも、て心で
思ってしまうのはしょうがないけど、本
当の水俣病の人们的完全ひいてい
するのは絶対にやめてください。
逆にもし自分が水俣病になつたとし
てかけ口を言われたら、どう思
うかを考えてください。水俣病にな
つた人々は、とても辛くて、一生治らない
病気になり、色んな人にかけ口を
言われて、悲しい気持ちなので
思っているけど、口に出さないでくだ
さい。

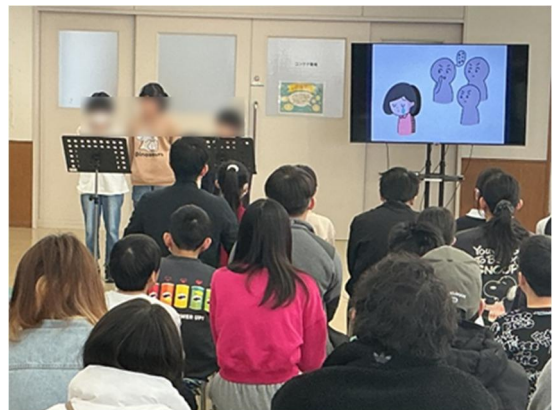
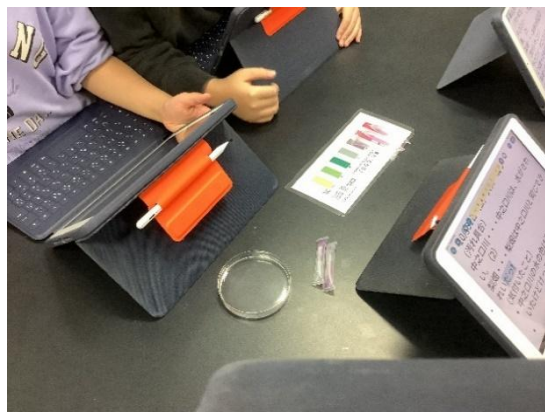
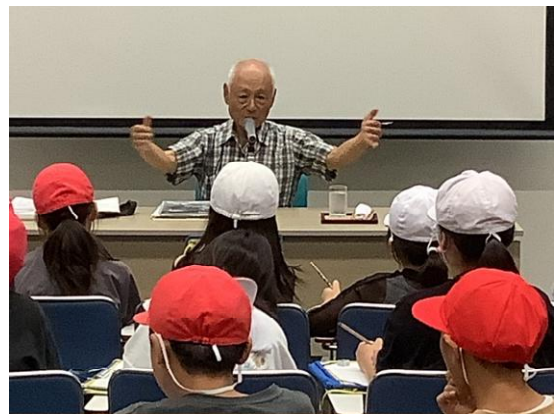
5年1組 名前

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立月潟小学校	担当(職・氏名)	教諭・広野 日信
学習テーマ	月潟の産業を支える水環境について考えよう		
活動のねらい	身近な河川を調べる学習を通して、自然環境と月潟の産業との関わりについて理解を深め、環境を保全していこうとする態度を育てる。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 「環境と人間のふれあい館」を訪問し、正しい知識をもとに学習を深める。また、様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。新潟水俣病である語り部さんの話から学ぶ時間をつくり、直接的な体験を重視する。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。） ①月潟のお宝を想起する活動を通して、月潟の産業と水の関わりについて考える。 ②梨や米づくりに必要な水がどこから来ているのかを知る。（ゲストティーチャー） ③地域の河川や用水などの水について調べたり、地域の河川の様子について知ったりする。 ④ごみの処理や水の浄化について、どんな取り組みが行われているのかを知る。 ⑤環境と人間のふれあい館職員の方からの話や語り部さんの話を聞き、水俣病について理解する。 ⑥地域のお宝を守るために、自分たちができることをまとめ発信したり、実現に向けて活動したりする。			
○ 活動詳細			
実施期間	4月～ 2月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
○年間を通してのテーマをつくる	3	・SDGsについて知り、身近なものの中から自分たちができることを考える。	
○地域の宝と中ノ口川の関係を知る	8	・3年生の総合の学びをふり返りながら、梨や米づくりに必要な水がどこから来ているのかを考える。 ・マップのアプリを使って、用水路がどこにつながっているのかを調べる。 ・地域に出掛け、中ノ口川から田畑までの水の流れを確かめたり、お米や梨を作っている地域の方からどのようにして水を使っているのかを見聞きしたりする。	
○中ノ口川の水について調べる。	6	・パックテストを使って、中ノ口川の水と田畑脇の用水路の水を調べる。	
○ごみの処理や水の浄化について調べる。	8	・新潟市清掃事務所による出前授業を通して、ごみの分別やパッカー車の仕組みについて知る。 ・新田清掃センターを見学し、地域で集められたごみがどのように処理されるのかを知る。 ・西部地域下水道事務所の出前授業を通して、下水道の仕	

		<p>組みや役割について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信濃川浄水場を見学し、浄水の仕組みや浄水場の役割について知る。
○新潟県内の河川の現状について知る。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・川に設置されている網場の現状を知り、どこに問題があるのかを考える。 ・水俣病の概略について知り、どこに問題があるのかを考える。 ・自分が知りたいこと（課題）をもったり調べたりする。
○水俣病についての理解を深める。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と人間のふれあい館を訪れ、展示物を見たり説明を聞いたりしながら水俣病についての理解を深める。 ・語り部を聞き、水俣病によって差別や偏見が生まれたこと、今もなお苦しんでいる人がいることなどを知る。 ・資料を提示したり、ロールプレイの場を設けたりしながら、差別や偏見を許さない強い心や相手に親切な言動をしようとする心情を育てる。
○地域のお宝を守るために自分たちにできることを考え、発信する。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお宝と中ノ口川の水を関わらせながら考え、自分たちにできることを考える。 (啓発ポスター・リーフレットの作成、いなほ発表会)
<p>○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梨農家 金子周永 様 ・新田清掃センター ・信濃川浄水場 ・新潟市清掃事務所 ・西部地域下水道事務所 ・環境と人間のふれあい館、(語り部) 曾我 浩 様 		
<p>○ 成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と人間のふれあい館での現地学習を通して、新潟水俣病の発生や水俣病患者の方の苦しみを知ることができた。 ・語り部の曾我さんから、新潟水俣病によって何が起こったのか、今もなお解決していないことなど生の声を聴くことができ、環境を守ることの大切さと自分たちの安心・安全な生活につながっていることに気付くことができた。 ・水俣病による差別や偏見について考えることを通して、子どもたちは、差別や偏見はどんなことがあってもいけないこと、相手の側に立った言動が大切だということに気付くことができた。 ・地域のお宝と環境（ごみの投棄、新潟水俣病）とを関わらせることで、課題をもつことから自分たちにできることを考えて発信するまで意欲や思考を継続させることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育コーディネーターさんの紹介で地域学習の講師を探すことができたが、必要な講師を探すのが一番大変だった。 ・現地での学習も入れながら学習を進めて行ったが、交通費などの制限もあり、限られた数しか現地に行くことができなかった。学習に合わせて予算が組めると、より実情に合った学習になると感じた。 		






■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立月潟小学校	4年1組(31人)	11月10日	道徳	教諭・広野日信

- ・主題名 みんなが仲良くくらししていくために 2-(2) 思いやり・親切
- ・ねらい

地域が差別や偏見によって結びつきを失う様子や結びつきを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気づき、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
10	<p>○「お地蔵さんにこめられた願い」を配付する。</p> <p>○読み進めながら村の様子を板書し、川からたくさんのお恵を受け、村の人々が強く結びついてきたことを強調する。</p> <p>○水俣病が起こったことにより、川の恵みを受けられなくなり、村人たちの絆がこわれていったことを強調する。</p>	<p>○「お地蔵さんにこめられた願い」を聞きながら、村がどんな様子だったかを板書とともに確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川とともに、村人が強い絆で結ばれている。 ・みんなが仲良くくらしていたんだな。 ・水俣病のせいで、川と関わることができなくなった。 ・陰口を言い合ったりして、絆がくずれ、みんながバラバラになってしまった。 	<p>掲示資料2 (P35)</p> <p>掲示資料1 (P35)</p>
(課題) どうすれば、もとの仲のよかった村にもどれるでしょうか。			
10	<p>○ワークシートを配付し、やり方を説明する。</p>	<p>○ペア学習で、AとBの役を交替しながら演じてAのときに感じたことをワークシートに書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい ・ひどい ・くやしい ・こわい ・心が痛い ・傷ついた ・何でそんなこと言うの ・何でもっと傷つけるの? 	<p>ワークシート (ロールプレイ) (P39)</p>
<p>手足が痛く、目が見えにくいなどの苦しみの上に、さらに陰口を言われたらどんな気持ちになるでしょうか。ロールプレイをしながら確かめてみましょう。</p>			
<p>ロールプレイ1</p> <p>A: 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかった。この痛みが水俣病でないならなんなんだ!</p> <p>B: 認められなかったのか!? お前はニセ患者だ。お金がほしいだけなんだろ!</p>			

7	<p>○もとの仲がよかった村にもどすために、旗野さんがとった行動を紹介する。</p>		本文 挿入 資料: 旗野さ んの言 葉 (P38)
10	<p>○旗野さんの言葉を紹介し、旗野さんのお地蔵さんに込めた思いや願いを知らせる。</p>	<p>旗野さんは、お地蔵さんを建てて、もとの仲のよかった村にもどそうとしました。では、お地蔵さんを建てるとみんなの仲がよくなるのでしょうか。旗野さんは何のためにお地蔵さんをたてたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お地蔵さんは、村の絆をとりもどすためのシンボルなんだ。 ・お地蔵さんの力で村がもとにもどるわけじゃない。 ・私たちがお地蔵さんを見て変わらないと…。 ・相手を思いやることが大切なんだ。 	
8	<p>○自分だったら、どんな言葉を掛けてあげるかを考えさせる。</p> <p>ロールプレイ2</p> <p>A: 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかった。この痛みが水俣病でないならなんなんだ!</p> <p>B: ()</p> <p>○相手の立場になって考えて言葉掛けすることが大切だということに気付けるようにする。</p>	<p>○旗野さんの思いを知って、自分だったらどんな言葉を掛けてあげるかを考え発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫だよ。そうしたの? ・ちがうお医者さんにみてもらおう。 ・心配しないで。ぼくがついている。 ・つらくても、これからもがんばろうね。 <p>○Bの言葉掛けに対して、どんなことを感じたかをワークシートに書き発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心した。 ・ありがとう。 ・気持ちが明るくなったよ。 ・次の病院に行ってみるよ。 ・つらくてもがんばるよ。 ・うれしい。 ・気持ちを切りかえよう ・やさしい言葉、ありがとう。 ・がんばれそう。 	ワーク シート (まと め) (P40)
	<p>○自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。</p> <p>○自分の思いを伝えやすい相手を選び、手紙を書かせる。</p> <p>ア 水俣病と認められずに陰口を言われていた人</p> <p>イ 陰口を言っていた人</p> <p>ウ 旗野秀人さん</p>	<p>自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。</p> 	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

【ア 水俣病と認められず、かげ口を言われていた人たちへ】

○大丈夫ですか？ 陰口を言っている人のことは、気にしなくていいですよ。陰口を言っているのは、気持ちをよく分かっていない人だと思います。私は、気持ちがすごく分かります。仲が良かった地いきも水俣病のせいで仲が悪くなってしまったのが、一番苦しいですね。少しの言葉で、とてもきずつくのも分かります。水俣病だけで、地いきだけでなく、家族までの仲をこわしてしまうことはとてもこわいと思います。別の病院へ行ってみてもらってください。

○私は水俣病と認められずにかげ口を言われていた人がとてもかわいそうだと思います。差別やへん見を受けて、とても悲しくて傷ついたと思いました。毎日病気でつらいのに心まで傷つけられてしまって大変だと思います。けれど、がんばってください。きっと大丈夫です。応えんしています。応えんされていると、安心したり気持ちが明るくなったりすると思います。あと、つらくてもがんばってください。かげ口を言われていた人の気持ちが明るくなり、安心できることを願います。これからもがんばってください。みんな応えんしています。

【イ 陰口を言っていた人へ】

○かげぐちを言われてきずついている人がいます。「お前はにせ患者だ！」とか「金がほしいだけだろ」とかを言う前に、その言われている人の気持ちになって考えてみてください。あと、これ以上、水俣病で悲しむ人をへらすためにかげぐちなど、心にないことを言わないで、悲しむ人をへらすために協力してください。もうその人たちのことをきずつけないでください。

○人の事じょうも知らないのにかげ口を言っていて、かげ口なんて人をきずつけることしかできないのに、当たり前のようにかげ口を言っているのはひどいと思います。そうやって知らない人にもいろいろなかげ口を言っているのですか。とにかく、水俣病にかかっているのか分からない人でも、やさしく対応することが大切だと思います。自分がいやになることを相手にいろいろ言うのはちがうと思います。ぜっ対に相手がいやがることはしないようにしてほしいです。

【旗野秀人さんへ】

○村の強いきずなをとりもどそうという気持ちが分かりました。旗野さんは、お地蔵さんを建てたりして自分たちで何とかしようとして、気持ちが伝わってきました。村のきずなをとりもどすシンボルにしようとしたあきらめない気持ちに感心しました。なので、ぼくも協力したいと思いました。ばらばらになった村の人たちの気持ちが、また、もとにもどるといいですね。

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立大野小学校	担当(職・氏名)	教頭 山下 信孝
学習テーマ	NO MORE 新潟水俣病 ～今の自分たちにできること～		
活動のねらい	新潟水俣病発生の経緯や現状について話を聞いたり自分で調べたりする活動を通して、新潟水俣病について理解を深めるとともに「環境を守ることにについて」今の自分たちにできることを考えることができる。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 社会科の単元「環境をともに守る」では、福岡県北九州市の事例をもとに学習する。さらに、新潟水俣病の事例を学習することで、「環境をともに守る」意義を深めることができる。			
○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。） (0) 社会科「環境をともに守る」の単元を学習し、日本では数十年前高度経済成長期において公害問題が発生していたこと、老若男女問わず公害問題によって苦しめられていたこと、地域や自治体などの力により状況が改善してきていることなどについて理解を深める。 (1) あがのがわ環境学舎 山崎様を講師に迎え、新潟水俣病について話を聞き、発生の理由、被害の状況などについて理解する。 (2) 新潟県立環境と人間のふれあい館に見学に行く。施設内を見学して山崎様から話を聞いたことを再確認したり、語り部の曾我さんから話を伺ったりする。 (3) 道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」を学習し、新潟水俣病の被害の実態や被害者の思いや願い、生き方等に触れ、被害者の辛さに思いをはせる。さらに、環境を守ることの大切さについて理解を深める。			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年12月～令和8年1月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
(社会科 環境をともに守る)	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市の海や空（昔と今）を比較して、公害によって汚染されていたことを知り、今どのようにして環境が改善したのかについて学習問題を立てる。 ・公害の発生時期や、公害をなくすための市民・市・工場の取り組みに着目して、それぞれの果たした役割と互いの協力関係について捉える。 ・現在の北九州市の環境を守る取り組みに着目して、市では公害を克服した後も環境の改善に努めていることを捉える。 ・現在の北九州市民の環境保全活動や、自然環境と生活との結びつきに着目して、生活 環境を守ることの意味について捉える。 	

講師による出前授業	2	新潟水俣病について知る。(新潟水俣病とは 新潟水俣病はどこで起こったのか なぜ起こったのか 症状はどんな症状なのか 何で苦しんだのか 今はどのようになっているのか など)
施設見学	2	環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部の方から話を聞いたり、館内を見学したりして新潟水俣病について理解を深めたり、自分なりの考えをもったりする。
道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」	2	新潟水俣病の被害者の話を読み、病気に対する差別をなくしていこうという心情を高める。 環境保全のために自分たちがこれからできることについて考える。
○ 協力団体・協力者等 (※この欄の必要が無ければ削除してください。) あがのがわ環境学舎 山崎 様 環境と人間のふれあい館 語り部の方 (曾我さん)		
○ 成果と課題 (※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。) 【成果】 ○四大公害病の一つである新潟水俣病が自分たちの地域とほど近いところで起こったことを知り、公害問題をより身近な問題として捉えることができた。 ○実際に語り部の方から話を伺う機会を得た。社会科で学習した北九州は写真や文章、作文などで迫るしかなかった。実際に被害にあった方から話を伺うことで、よりリアルに新潟水俣病について考えることができた。 【課題】 ●社会科の単元「環境をともに守る」を学習した後に、さらに学習を深めさせるねらいで新潟水俣病を取り上げる形をとった。大野小学校がある大野町は中之口川に面しており、昔から川とともに暮らし栄えてきた。それらのつながりなどを活かしながら、総合的な学習の時間を使って単元を組み直して学習をしていけば、より子どもたちの学びが深まるのではないかと感じた。		

あがのがわ環境学舎の方による出前講座



語り部の方からの口演



新潟県立環境と人間のふれあい館の管内の見学



■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立大野小学校	5年2組(33人)	1月23日	道徳	教頭 山下 信孝

・主題名

ある新潟水俣病患者の訴え

・ねらい

新潟水俣病被害者が感じてきた辛苦について考える活動を通して、偏見や差別、誤解をなくすために自分ができることについて考え、行動していこうとする心情を育む。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
10	○教師による範読 「わたし」が辛く苦しんでいたものはどんなことですか？		生きるⅢ P27
25	○子どもたちが発言したことを身体的につらいこと、精神的につらいことの2つに分類する。発表後、分類したものについて子どもの言葉で分類する。(心が辛い 体が辛い)	○発問に対して資料から読み取れる部分に印をつける。 【体の辛さ・苦しみ】 ・手足のしびれ 頭痛 耳鳴り めまい ・首や腰の痛み →疲れる 仕事でミスをすることが多くなる 家事もうまくできなくなる 【心の辛さ・苦しみ】 ・悪口を言われる 白い目で見られる ・陰口を言われる 冷たい態度を取られる →誤解 偏見 差別	
10	○ロイロノートに打ち込みをしたのち、自由交流をする時間をとり、互いの考えを交流させる。 ○相手の立場に立って考えることが大切であることに気付かせるように板書をする。	○発問に対しての自分の考えをロイロノートに打ち込む。 ・お金をもらってずるいと思っている。 ・本当は辛くも苦しくもあまりないと思っている。 ・もしかしたら、あまり被害者の本当の辛さを分かってないのかもしれない。	
	差別や偏見、誤解をしないために、これからの生活の中で自分が気をつけなければいけないことはどんなことですか？		

		○振り返りをロイロノートに打ち込む。 ・周りの言葉に流されずに、何が本当なのかを自分でしっかり確かめられるようにしたい。	
--	--	---	--

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・ どういう症状があるかを教えてもらう。また、話を聞いてどういうつらいことがあるかを聞いてかかっているかを確かめる。辛い思いをしている人の話をちゃんと聞くようにしたい。

・ その人の身にもなって、その行為をしたら相手がどのような気持ちになるかを考えてやる。またはその辛い人に寄り添う。そしてその人たちが困っていたら手伝う。

・ 自分だったら相手がそのくらい苦しいと言っているなら、何か手伝ってあげたり、悩み事を相談してあげたり、差別などをしないでその相手が悲しまないように工夫して声がけしてあげたりする。

・ その人がどういう症状にかかっているのかを聞いて見たりしたり、他人事と思わないで、その人に協力をしたりする事が大切だと思いました。

・ やめようと言ったり、どうして証拠もないのに差別するのか聞いたり、差別をやめさせようと思います。もしそれでもやめなかったら、自分が率先して意見を主張していきたい。

・ 今回の授業を受けて自分だったらどうするか考えました。一つ目は、自分はその人を支えたり辛かったら話を聞いたりいじめている人に注意をしたりなどをしたいなと思います。あと自分では苦しいことや辛いことがわからないから少しでも辛くならないように言葉をかけたいなとも思いました。二つ目は、全てに寄り添って、辛いことは忘れられるように工夫をしたり少しでも体は気軽にできないけど心のことを忘れられたり楽しくなったら良いなと思いました。



■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	黒崎南小学校	担当(職・氏名)	教諭・倉又菜緒
学習テーマ	過去の公害や新潟水俣病の歴史や現状を調査して、わたしたちの行動や活動が食や環境にどんな影響を与えているか調べよう。		
活動のねらい	米作りや食には水が深く関わっていることを理解し、環境を保全していこうとする態度を育む。		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境と人間のふれあい館」を訪問し、正しい知識をもとに学習を深める。また、様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。 ・新潟水俣病の語り部さんの話から学ぶ時間を作り、4大公害病の一つである新潟水俣病について知り、直接的な体験を重視する。 			
<p>○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①米作りの栽培方法について水とのかかわりから学習を進める。 ②社会科で、過去を遡って自然環境の変化を考える活動から新潟水俣病を知り、その歴史や現状について調査する。 ③「環境と人間のふれあい館」で見学したり、語り部さんの講話を聞いたりして、新潟水俣病についての理解を深める。 ④調べたことから、環境を守るためにわたしたちにできることを考えまとめる。 			
○ 活動詳細			
実施期間	令和7年9月～11月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
水と生活の関わりを知ろう。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水質を保つことの価値を知り、自然環境を守ることの大切さを学ぶ。 	
新潟水俣病について知ろう	10	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りと水環境の保持を関連させ、川と人間の生活のかかわりから新潟水俣病を知る。 ・「環境と人間のふれあい館」で見学をしたり、語り部さんの講話を聞いたりして、新潟水俣病への理解を深める。 ・社会科の学習で、新潟水俣病について、歴史や現状について調べる。 ・新潟水俣病は、過去のものではなく、今でも身体的苦痛、精神的苦痛を受けている人がいる事実を知る。 ・新潟水俣病について学んだことを通して、これからの環境をどのように守っていくことができるか考える。 	

- 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
環境と人間のふれあい館

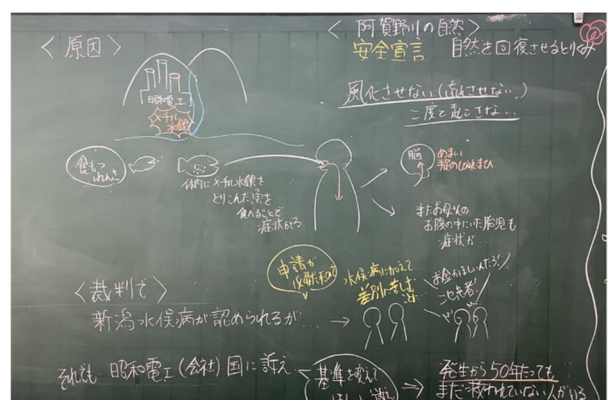
- 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

- ・学校田における米作りや社会科の学習を関連させて、米作りには良質な水が必要であり、水の量を管理することの大切さを実感することができた。
- ・資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」や「新潟水俣病20の疑問」、DVD 資料を活用して学習したことで、「環境と人間のふれあい館」で実際の資料を見たり、語り部さんの講話を聞いたりした際にこれまでの学習とつなげて新潟水俣病について理解を深めることができた。
- ・社会科の学習を関連させて、差別や偏見が生み出されてきた事実をとらえることができた。

【課題】

- ・「農業」と「新潟水俣病」とを関連付けて学習させて考えたいと考えたが、子どもの思考をつなげていくことができなかつた。教師が新潟水俣病について理解を深め、体験活動を関わらせて新潟水俣病の学習をより深めていく。
- ・過去の公害を学習する中で、新潟水俣病患者が発生した地域や原因を知ることができたが、自分の地域ではどうだったのか、自分の周りの地域とつなげて考えさせることができなかつた。新潟水俣病と自分の住む地域とのかかわりを知ることを通して、自分ごととして考えられるようにしていく。



■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
黒崎南小学校	5年1組(17人)	11月4日	社会	教諭・倉又菜緒

- ・主題名 環境を共に守る
- ・ねらい

新潟水俣病について、資料を読み取ることを通して、新潟水俣病の原因や症状を理解し、患者の苦しみが現在も続いていることに気付くことができる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
10	○過去にあった公害病を思い出させ、新潟でも公害が起こっていたことに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書では北九州市のことが書かれてあったけど、新潟でも水俣病があったんだ。 ●新潟水俣病の詳しい内容はまだよく分からない。 	・教科書の表を提示
課題：新潟水俣病はどのような病気なのだろうか。			
新潟水俣病はどのようにして起こったのでしょうか。新潟水俣病の患者の人たちはどんなことに苦しんでいるのでしょうか。資料から調べましょう。			
15	○P.80の被害者分布図や資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」をもとに、新潟水俣病の症状を調べ、整理する。	<p>〈新潟水俣病の原因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メチル水銀を含んだ排水を処理しないまま、川に流したから起こってしまった。 ●旧昭和電工鹿瀬工場から流れて、川の近くの地域の人が多く被害にあっているんだ。 <p>〈どのようにして始まったのか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1965年に水銀中毒の疑いで調べたら水俣病だった。 <p>〈どんな症状なのか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耳が聞こえにくくなったり手足が震えたりした。 ●味やにおいが分からなくなり、言葉がうまく話せなくなってしまうこともあって、症状が人によって違っていた。 <p>〈どんなことに苦しんでいるのか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●わかってもらえずに悪口を言われてしまう。 ●「金が欲しいからだ」と苦しんでいるのに偏見を持たれてしまっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P.80の分布図を提示 ・「新潟水俣病が教えてくれたもの」
DVDを見て、感じたことや分かったことを話し合ひましょう。			

20	○DVD「新潟水俣病」を視聴し、新たに気付いたことをロイロノートに書き、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●メチル水銀は目に見えないから、知らないうちに食べているのが怖い。 ●普通の生活をしていたのに、川魚を食べたことで苦しい思いをしているから、だれにでもかかってしまう恐ろしさがある。 	
----	---	---	--

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

○水俣病の症状だけでもつらいのに、ニセ患者と呼ばれたり偏見をもたれたりすることの方が苦しいと感じた。自分は差別をせず支えてあげたいと思った。

○水俣病の症状がとても多いことにおどろいた。今でも苦しんでいる人がいるから、同じことは二度と繰り返さないために、もっと病気のことを知ってほしい。

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	巻北小学校	担当(職・氏名)	教諭・植村雅江
学習テーマ	守ろう！大切な自然		
活動のねらい	身近な自然と触れ合う活動を通して水質保全の大切さに気づき、環境を保全していこうとする態度を育む。		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <p>・環境と人間のふれあい館へ行き、新潟水俣病について学ぶ時間を設ける。社会科の「公害」の学習と関連させながら学びを深めることで、新潟水俣病がいかに身近で深刻な問題であるのかを捉えさせる。</p>			
<p>○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）</p> <p>①学校田での米作りや校区の矢川の観察などを通して、身近な環境について興味をもつ。</p> <p>②ゲストティーチャー（小林一好さん）から学校田や矢川など身近な自然や生き物について話を聞く。</p> <p>③妙高自然体験教室で源流探検をする。校区の自然や生き物と比較することで、身近な自然を守っていくことの大切さに気付く。</p> <p>④社会科「環境をともに守る」の学習で新潟水俣病について学ぶ。環境と人間のふれあい館へ校外学習に行き、職員の方から話を聞くことで知識・理解を深める。</p> <p>⑤学んだことをロイロノートでまとめる。</p>			
<p>○ 活動詳細</p> <p>学校田での米作りや校区の矢川の観察、妙高での源流探検などを通して、身近な環境を保全することの大切さについて理解する。環境と人間のふれあい館で、新潟水俣病について学ぶ。</p>			
実施期間	4月～ 12月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
校区の矢川・学校田の観察	1	校区の矢川や学校田を観察して、自分たちに身近に住む生き物や環境について知った。	
学校田に住む生き物について学ぶ	2	ゲストティーチャーから校区の矢川や学校田に住む生き物について話を聞いた。学校田や校区に住む生き物や環境が年々変容していていることを学んだ。	
学校田での米作り	8	ゲストティーチャーの指導の下、環境に配慮しながら米作りを行った。	
妙高で学ぶ	2	妙高自然体験教室で源流探検を行い、生き物の観察をする。講師から校区周辺に住んでいる生き物は、「水が汚れている」場所に住む生き物であることを教えていただき、環境問題は、身近な問題であることを改めて実感することができた。	

公害について学ぶ	5	社会科「環境をともに守る」の学習を通して、公害について学び、新潟水俣病の存在を知った。
新潟水俣病について学ぶ	4	校外学習で新潟県立環境と人間のふれあい館へ行き、新潟水俣病について、展示を見学したり、話しを聞いたりした。
新潟水俣病についてまとめよう	3	新潟水俣病について分かったことや考えたこと、解決策についてまとめる。

○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

- ・新潟県立環境と人間のふれあい館 様
- ・学校田での米作り講師 小林一好様

○ 成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

- ・校区の川や学校田で活動したことで、環境問題を身近なものとして捉えることができた。
- ・米作りの活動に、ゲストティーチャーから継続的に関わっていただいたことで、児童の学びが途切れることがなかった。
- ・妙高自然体験教室「源流探検」の講師の方から、「川の汚染と住む生き物」について詳しく説明をしていただいたことで、児童が自分たちの生活する地域の川も汚れてしまっていることに気付き、活動意欲が高まった。
- ・実際に環境と人間のふれあい館に行き、展示を見たりお話を聞いたりしたことで、新潟水俣病への理解が一層深まった。

課題

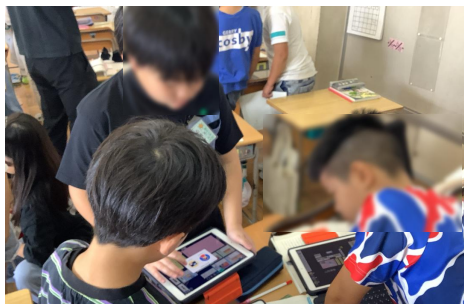
- ・新潟県立環境と人間のふれあい館への距離が遠く、バス代や時数確保の面で負担が大きかった。
- ・児童が学んだことを「新聞」としてまとめた。学習の成果をクラス内で発表し合ったが、全校や保護者、地域などに向けて発表できればよかった。
- ・環境問題についての興味・関心は深まったが、「行動」に移すことができなかった。

■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立巻北小学校	5年3組(29名)	11月18日	社会	教諭・山際華穂

- ・主題名 社会「環境をともに守る」
- ・ねらい 新潟水俣病について、「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために(新潟水俣病教師用指導資料集)」資料1「語り部小武節子さんの話」、リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」を活用しながら調べる活動を通して、新潟水俣病の概要を知り、環境と人間のふれあい館への校外学習の課題意識を高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した北九州市の公害問題について想起させる。 ・四大公害病の一つは、「新潟水俣病」であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・煙突から赤い煙が出ていたり、海の色が黄色くなっていたりして、驚いたね。 ・工場から出る煙や排水などが原因だったね。 ・「公害」という言葉を学んだよ。 ・私たちが住んでいる新潟県にも公害があったなんて、知らなかったな。 ・新潟水俣病とは、どんな病気なのかな。 	<p>p60 資料1 語り部小武節子さんの話 リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」</p>
	<p>新潟水俣病とは、どのようなものなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために(新潟水俣病教師用指導資料集)」資料1「語り部小武節子さんの話」、リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」、を活用して、 ・新潟水俣病の原因 ・新潟水俣病の症状について調べる。 ・調べた内容を発表させ、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野川流域で発生した病気なんだね。 ・工場から排出されたメチル水銀で汚染された水が排出されたことが原因だよ。社会科で学習した北九州の公害の時と似ているな。 ・阿賀野川の魚を食べただけで、病気になってしまったんだね。何も悪いことをしていないのに、病気になってしまって、とても悲しかっただろうな。 ・手足がしびれたり、言葉が話せなくなったりするなんてつらいね。 ・症状は人によって違うなんて怖いな。 	



<ul style="list-style-type: none"> ・当時、実際にあった差別について伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水が原因なのに、「たたり」と言ったり「ニセ患者」と言ったりするのは、許せない。 ・水俣病の検査に行くことさえ、隠さなければいけないなんて悲しいね。 	<p>p 62 補助資料【病院・地域で感じた嫌な経験やニセ患者差別】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病は、メチル水銀に汚染された工場の排水が原因で起きた。 ・病状や程度は個人差があつて違う症状がでる。辛くて苦しい。 ・差別や偏見があり、地域や家族の絆さえ壊してしまった。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・さらに調べたいことや知りたいことを考え、新潟県立環境と人間のふれあい館への校外学習への課題意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工場は、どうしてメチル水銀を流し続けたのかな。 ・人によって違う症状が出るのが分かったけれど、どんな症状があるのかな。 ・資料の小武節子さんは、国を相手に裁判を起している。差別や偏見にあった人たちは、どんな気持ちで戦ったのだろうか。 	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

この実践の後、新潟県立環境と人間のふれあい館への校外学習へいった。
 学んだことを、グループで「新聞」としてまとめた。

The collage shows several pages of a student newspaper. The main title is '新潟水俣病新聞' (New潟 Minamata Disease Newspaper) with the date '発行日 五年三組' (Published: 5th Year, 3rd Group). The pages contain various articles and illustrations:

- 新潟水俣病の症状は?** (What are the symptoms of Minamata disease?) - Describes symptoms like numbness and muscle weakness.
- なぜこうなってしまった...** (Why did this happen...) - Explains the cause: methylmercury from a factory polluting the river, which was then eaten by fish.
- 人と水の関係** (The relationship between people and water) - Illustrates the cycle of contamination from the river to fish to humans.
- これから自分たちができること** (What we can do from now on) - Discusses environmental protection and awareness.
- 新潟水俣病の解決策** (Solutions for Minamata disease) - Talks about cleanup and prevention.

令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書〈写真資料〉

学校田にいる生き物について小林一好様から話を聞き、学校周辺の環境に配慮しながら米作りを行う様子



「学校周辺の川」と「豊かな自然が残っている川」を比較しながら生き物探しをする様子（妙高自然体験教室源流探検にて）



妙高で見つけた生き物と学校周辺に住む生き物にはどんな違いがあるのかを学んでいる様子



環境と人間のふれあい館で学習している様子



■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南浜中学校	担当(職・氏名)	ウィルソン章子
学習テーマ	新潟水俣病の現地学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう。		
活動のねらい	新潟水俣病の現地学習を通して、新潟水俣病への正しい理解を深めるとともに、差別や偏見を身近な問題として認識させ、自ら解決しようとする態度を育てる。		
<p>○ 新潟水俣病とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧昭和電工（株）鹿瀬工場を見学したり、「環境と人間のふれあい館」で職員の説明や語り部の講話を聴いたりすることで、新潟水俣病についての理解を深める。 			
<p>○ 活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病について、各班で調べ学習を行い、現地見学の前週には、あがのがわ環境学舎の職員の講話を受けた。現地見学では、鹿瀬工場と「環境と人間のふれあい館」を見学して学習を深めた。最後に、これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを考えた。 			
<p>○ 活動詳細</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新潟水俣病について、4つの観点から各班で分担して調べ学習を行った。 ②あがのがわ環境学舎の職員からグーグルマップを使い、阿賀野川流域を地図で確認しながら、鹿瀬工場が社会の変化に対応し生産品目に変化したことを学習した。 ③旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム・排水溝を見学する。 ④「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話を聴いた後、施設見学をした。 ⑤グループごとに分かれ、提言と自分ができることを考え、SDGsの項目を入れて、個人でまとめた。 			
実施期間	11月～ 12月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
学習ガイダンス	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病について基礎知識の学習を行う。 ・今後の学習について理解する。 	
事前学習	1	①発生の経緯・原因 ②身体的被害 ③社会的被害 ④水俣病の現在の4つの観点に分けて、調べ学習を行った。	
直前講義	2	あがのがわ環境学舎の職員から講義を受ける。	
校外学習	1日	旧昭和電工鹿瀬工場周辺を見学する。 「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話と施設見学	
まとめと発表	4	これからの社会をより良くするための提言と自分ができることを、SDGsの項目をいれてまとめる。班ごとに発表。	
<p>○ 協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あがのがわ環境学舎 ・環境と人間のふれあい館 			

○ 成果と課題 （※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

<成果>

- ・新潟水俣病についての学習を行うことで、新潟水俣病についての理解とそれに伴う社会の差別や偏見に気づき、環境保全や人権尊重について考えを深めることができた。
- ・学習ガイダンスでは、小学校で学んだことを思い出しながら、公害病やこれから学習する新潟水俣病について、考えを深めることができた。
- ・4つの観点に分けて、班で担当する観点を分担して調べ学習を行うことで、各自が責任をもって活動に取り組むことができた。ロイロノートで共有することにより、班員や他の班の調べた学習を見ることができ、より深く考えることができた。
- ・あがのがわ環境学舎の職員からの直前講義は、パワーポイントを使って視覚的に訴え、クイズもありとても興味・関心を高める講義で、専門的な知識を楽しみながら身に付けるところができた。
- ・現地学習では、事前学習と直前講義で学んだこととリンクし、深い学びにつながった。
- ・語り部さんの講話を聴き、新潟水俣病の病気の症状だけでなく、当時の様子や語り部さんの本当の気持ちなど、対面でお話を聴くことにより大変さや辛さ、苦しみなどがとても伝わってきて、差別や偏見を身近な問題として実感することができた。
- ・まとめのプレゼンテーションを作成し、これからの社会をよりよくするためにどうしたらよいかという提言や自分ができることを考え、発表した。また、発表する力をさらに身につける1つのよい機会ともなった。

<課題>



- ・調査活動では、「環境と人間のふれあい館」からいただいたパンフレットを使用した。大変良い資料だったのに、読み込む時間が短かったため、うまくまとめられない生徒がいた。早い時期から資料配布していただいていたので、時間を有効に使うこと、活動中の支援の仕方を工夫する必要があった。
- ・まとめのプレゼン発表では、発表自体はよかったが、発表に対する質問の内容などを考えさせる時間をもう少し取るべきだった。また、振り返りの時間も少し短くなってしまった。もう少し時間が取ればもっと他者の意見が聴けて考えが深まったと考える。

■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立南浜中学校	12名	11/5	総合の学習	小林 正文

- ・ 主題名 **新潟水俣病～環境と人権問題を考える～**
- ・ ねらい **新潟水俣病について、その発生原因や被害について考え、調査学習を行うことを通して、メチル水銀による環境破壊が水俣病を引き起こし、人権侵害の要因となったことを理解する。さらに、環境保全と人権尊重の重要性について考え、校外学習に向けて意欲を高めることができる。**

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
導入(10)	<p>ワークシートを配付</p> <p>○公害とは？スライドを使って説明する。</p> <p>公害が発生したのはなぜか。</p> <p>○公害が発生したのはなぜか、予想させる(下はスライドの一例)</p>  <p>○四大公害病とは？</p>	<p>●説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法では、事業活動やその他の人の活動に伴って生じる人の健康または生活環境に係る被害と定義 <p>●生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手な人が多いから。 ・便利さを求めたから。 ・会社の利益を優先したから。 ・国が法律を作るなどの対策をしなかったから。 <p>●説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく 	<p>ワークシート</p> <p>スライド(教師作成)</p>
本時(30)	<p>(学習課題)</p> <p>新潟水俣病とは、どのような公害だったのか。</p> <p>阿賀野川と人々の暮らしはどのように結びついていたのか。</p> <p>○阿賀野川と人々の暮らしについて、スライドで説明する。(右はスライドの一例)</p> <p>新潟水俣病が発生した原因は何か。</p> <p>○新潟水俣病の発生原因について資料で調べる。(次ページは授業の様子)</p>	<p>●説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野川は生活の場、タンパク源だった。  <p>●昭和電工から出されたメチル水銀を含む排水が原因である。</p> <p>●メチル水銀に汚染された川魚を大量に食べた人は発症した。(次ページはスライドの一例)</p>	<p>ワークシート</p> <p>スライド(教師作成)</p> <p>初めての新潟水俣病</p>

		<p>新潟水俣病 20 の疑問</p>
<p>○総合的な学習のテーマについて</p>		
<p>これからのどのようなテーマで学習していくか。</p>		
<p>●テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境を守ることの大切さ ②水俣病被害者の人権 		
<p>(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病とはメチル水銀を原因とする公害 ・新潟水俣病により、差別や偏見が生まれ、現在も苦しんでいる人々がいる。 		<p>スライド (教師作成)</p>
<p>○授業を通して考えたことを書く。</p> <p>○振り返りをロイロノートに提出し、回答を共有する。</p>	<p>●生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手足のしびれ、震えなどいろいろな症状で今も苦しんでいる人がいることが分かった。 ・これからの新潟のためにも、水俣病への理解をもっと深めていきたいと思った。 	<p>ワークシート</p> <p>ロイロノート</p>

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

○工場の周りがすごく栄えていた反面、その裏でアセドアルデヒドを作って有機水銀を流してしまったことが悲しいかな、と思いました。それにより病気になってしまった人たちがいること、また病気のせいで差別や偏見が今もある、ということを知ってさらに悲しくなりました。これからも水俣病のことについて理解を深めていきたいです。

○阿賀野川は昔の人にとってとても大事な川で、毎日のように普通に川魚を食べていたら病気になってしまったということを知りました。また、四大公害病とはどんなものなのかを学ぶことができました。

○私が水俣病になったら、耐えれないと思います。自分の体も大変なのに、人から差別されたり、誹謗中傷を言われたりするなんて、さらに辛くて絶対無理です。今も病気で苦しんでいる人たちについて、どう寄り添ってあげればいいのか考える機会になりました。



11/5(水) ガイダンス「水俣病について」基礎知識の学習



11/5(水) 事前学習「新潟水俣病について考える」「調べ学習」3つの観点を班で分担して調べる。班で発表。



11/12(水) あがのがわ環境学舎の職員から事前学習。前の週に学習したことを確認



グーグルマップを使って南浜中を探し、阿賀野川流域を地図で確認



食物連鎖と昔の暮らしの関係を確認

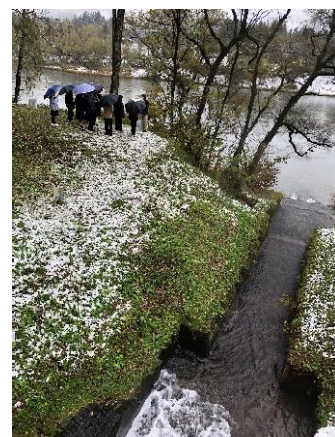


昔の工場周辺の様子を映像で確認



11/19(水) 現地学習、鹿瀬工場が見える高台で説明

現在の排水口の
場所で説明





菱風荘で昼食をとる生徒



環境と人間のふれあい館で語り部さんにお礼の言葉を言う生徒



施設職員から説明を受ける

説明後は、各自で自由に見学



12/3(水)・10(水) 事後学習。各班でまとめ・プレゼン作成。



12/17(水)まとめ学習。班ごとに発表し、水俣病について共有する。SDGsの視点から自分ができることを考える。

■様式2：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立下山中学校	担当(職・氏名)	教諭・仲田真礼
学習テーマ	新潟の魅力を守る・創る 阿賀野川探究グループ「新潟水俣病から学ぶ」		
活動のねらい	新潟水俣病に関する学習を通して、自然環境と人間の関わりについて理解を深め、持続可能な地域づくりのために自ら関わろうとする態度を育む。		
○ 新潟水俣病とのかかわり 「新潟の魅力を守る・創る」を学年共通の探究テーマとし、いくつかの探究分野に分かれる。そのうち、阿賀野川に関する分野を設け、新潟水俣病について探究学習を進める。			
○ 活動概要 <u>課題設定</u> お地蔵さんを切り口に阿賀野川で営まれた人々の暮らしや新潟水俣病に関心をもつ。 <u>情報収集</u> 外部講師の協力のもと、新潟水俣病に関する情報を多面的・多角的に収集する。 現地研修によって、阿賀野川の上流～下流、過去と現在に関する知見を深める。 <u>整理分析</u> 探究テーマを整理しながら、自分たちがどのように課題解決に関われるのか考える。 <u>まとめ・表現</u> 多様な他者に探究成果を伝えて、意見を交換する。			
○ 活動詳細			
実施期間	9月～3月		
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容	
課題設定 阿賀野川地蔵尊見学 問いづくり	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にあるお地蔵さんの建立の経緯を知り、阿賀野川と人々の暮らしの密接な結びつきに着目させる。 ・収集した情報をもとに課題を見つけ問いを立てるワークショップを行う。 ・並行して社会科(地理)で水俣市に関する授業を行う。 	
情報収集① 旗野秀人氏による授業	1	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本「阿賀のお地蔵さん」作成の背景を知り、新潟水俣病とそこに関わる人々の思いへの関心を高める。 	
あがのがわ環境学舎による授業	2	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病の原因、被害等について、多面的・多角的に捉えられるようにする。 ・現地研修の取材内容(問い)を考えさせる。 	
調べ学習	4		
現地研修(鹿瀬、安田)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・そこに暮らす(暮らしていた)人々の思いに着目させる問いかけを随時行いながら、鹿瀬工場周辺の見学、阿賀のお地蔵さんの見学などを行う。 ・鹿瀬の過去と現在に関する学習を工場周辺で行う。 	
整理分析① 論点整理	1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集した内容を振り返らせながら、どのような切り口で学びをまとめるか整理する。 	
情報収集② レゾナックによる授業	2	<ul style="list-style-type: none"> ・加害企業を責めるのではなく、持続可能な社会づくりへの思いや取組を共有できるようにする。 	
整理分析② 自分たちの関わり	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病をめぐる人々の思いを整理した上で、水俣市の取り組みを紹介し、新潟に暮らす自分たちにでき 	

		ることを考えさせる。
まとめ・表現 発表資料の作成	3	・発表テーマをしぼりこみ、何を伝えたいのか、だれのような思いに共感したのか明示させる。
新潟未来懇談会	2	・参観者に成果を発表したり、他者と探究成果を共有したりすることで、新潟の魅力を守る・創る上で大切にしたい思いを再考させる。
韓国オンライン交流 (ウルサン市ハクソン女子中学校)	1	・公害を共通テーマとして学習の成果を共有することで、国を越えてともに取り組めることを考えさせる。 ・「相手を知りたい」という生徒の思いを大切に、公害だけでなく、生活や文化に関する意見交換も行う。
振り返り	1	・これまでの探究学習で得た考えや、人との出会いの意義を価値付けて、今後の学習への動機付けを行う。
<p>○ 協力団体・協力者等（敬称略）</p> <p>新潟水俣病に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別授業 安田患者の会 旗野秀人 ・特別授業 あがのがわ環境学舎 山崎陽 ・特別授業 レゾナックホールディングス ・情報提供 新潟信愛病院 医師 丸山公男 ・情報提供 (熊本県水俣市) 一般財団法人 水俣病センター相思社 ・情報提供 (熊本県水俣市) 一般社団法人 きぼう・未来・水俣 ・情報提供 (熊本県水俣市) 水俣市立水俣病資料館 語り部の会 川本愛一郎 ・情報提供 (熊本県水俣市) 水俣・芦北公害研究サークル 梅田卓治 <p>学年全体の探究学習に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別授業 みらいず works ・特別授業 新潟 Komachi 編集部 ・特別授業 阿賀野川ござれや花火実行委員会 ・特別授業 トキエア株式会社 代表 和田直樹 		
<p>○ 成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟水俣病に関する知識だけでなく、それに関わっているさまざまな立場の人の思いに気づき、自分たちにできることを深く考えることができた。 ・学習成果をもとに多様な他者と意見交換を行い、持続可能な社会づくりへの思いを高められた。 ・外部機関と連携しながら、多面的・多角的に探究を進めることができた。 ・新潟水俣病の学習を総合的な学習のカリキュラムに位置づけることができた。 ・学年全体で現地研修をする予算がなく、探究分野を分けることになったが、学年内で学習内容をポスターセッションの形で共有できた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野川や新潟水俣病については、地元中学校として学年全体でしっかりと学ばせたいと感じた。総合的な学習の時間のカリキュラムの再検討が必要である。 ・熊本県水俣市との交流を計画していたが、調整がつかず、実現できなかった。 		

■写真資料（様式2 補足資料）



「阿賀野川地蔵尊」見学

阿賀野川河口でかつて起きた水難事故を受けて建立されたお地蔵さん。阿賀野川流域には、水難事故関連、つつがむし関連のお地蔵さんが各地にあることを学んだ。

「阿賀野川には他にも特別なお地蔵さんがある」と「阿賀のお地蔵さん（新潟水俣病関連）」への布石を置いた。



旗野秀人さん招待授業

絵本「阿賀のお地蔵さん」にまつわる話から、新潟水俣病をめぐって、多くの人たちが関わっていることや、熊本県水俣市ともつながりがあることを知る。また、新潟水俣病に関する情報だけでなく、関わっている人の強い思いや願いがあることに気づいた。

授業後、気になることを書き出すウェビングマップを作成した。



あがのがわ環境学舎 山崎陽さん招待授業

新潟水俣病に関する基本的な情報を、当時の時代背景や阿賀野川流域の人々の暮らしに着目しながら学んだ。鹿瀬工場の成立経緯や鹿瀬町の当時の様子についても学び、「加害企業」という側面だけでなく企業像に気づいた。また、阿賀野川流域に新潟水俣病がどのような規模で、どのような影響を与えたのか、多面的・多角的に捉えた。

現地研修の様子（鹿瀬工場周辺）



鹿瀬工場内部へ



鹿瀬ダムそばのお地蔵さん見学



高台から工場全体を観る

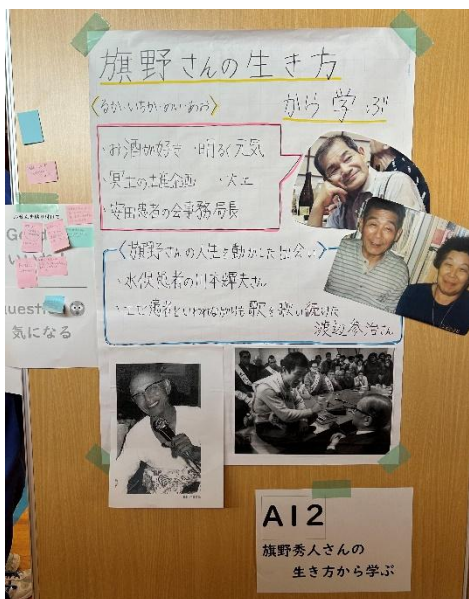
旧昭和電工によって支えられていた当時の鹿瀬町の写真と比較しながら、工場周辺の見学を行った。その後、工場内へ入り、現在生産しているものや厳重な管理が行われている排水システムを見学した。生徒は、工場で働く人の思いについて質問を投げかけ、どのように過去に向き合っているのか聞き取っていた。また、安田にある阿賀野お地蔵さんへ行き、旗野さんを2度目の座談会を実施した。



レゾナックホールディングス招待授業

川崎工場で行っているプラスチックのリサイクル技術 (KPR) について知り、レゾナックが過去と向き合いながら、どのような社会を目指しているのか学んだ。生徒は「被害に寄り添いながらも、自分たちはレゾナックの取組を発信できる立場にいる」と感じたことをレゾナックの講師に伝えることができた。

新潟未来懇談会（学習発表会の様子）



4つのグループに分かれて、探究成果をまとめたものを発表した。授業に協力してくださった方や報道機関も集まる前で、学んだことや自分たちにできることを伝えた。別の探究分野の生徒からの質問にもていねいに答えていた。

韓国ウルサン市ハクソン女子中学校とのオンライン交流（写真はNHKの報道より）



お互いに公害をテーマに学習の成果を共有した。その中で、韓国ウルサン市も新潟と同じく、急速な工業化の影で、大規模な公害が起きたことや、その復興のために多くの人々が取組を重ねてきたことを知った。

韓国側から「どのような支援が行われているか」という質問に対して、現在行われている裁判のことや、賠償金だけでない支援のあり方など、学んだことを生かして回答した。

今後も同じ思いをもつ同志として、交流を続けたいと互いに気持ちを新たにしました。

■様式3：令和7年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立下山中学校	2年生(18人)	10/22	総合	教諭 仲田真礼

- ・主題名 (総合的な学習) 新潟の魅力を守る・創る
- ・ねらい 患者支援を長年続けてきた支援者(旗野秀人さん)の考え方の変容を知ること、支援のあり方や人との関わり方について理解を深め、自分の生き方を見直す機会をつくる。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応(学習活動等)	資料
5	○これまで収集した情報を発表させながら、疑問点を共有する。	●苦しんでいるのに、なぜ患者として認められないのか。 ●理解されにくい状況で患者や支援者はどんな思いですごしていたのか。	P60~62
10	○「認定」や「理解」を得るために、患者が求められていたものが何か考えさせる。	●「患者は患者らしく」いることを強いられていた。 ●何気なく送っていた日常や、お互い様の人間関係が奪われた。	P69の資料2-5
15	○渡辺参次さんの歌唱動画を観て、旗野さんの支援のあり方がどのようなものだったかを考えさせる。	●「患者らしさ」ではなく、「その人らしさ」を守ろうとした。 ●支援のあり方によっては、患者さんを苦しめることにもなると気づいた。	参次さん動画
15	○水俣病に関する知識以外に、自分たちの生き方に関わる学びがないか考えさせる。	●人との向き合い方。思い込みや決めつけをせず、その人らしさがどこにあるのかを考えたい。 ●縁の大切さ。たとえ「水俣病」というきっかけだとしても、ともに人生を楽しめる仲間ができていく。 ●苦しみにも寄り添うが、それ以上に楽しみにも寄り添うこと。	「こべる」旗野さん寄稿文
5	○現地研修に向けて、改めて問いを整理させる。	●お地藏さん建立について、水俣市との関わりも含めて、詳しく聞きたい。 ●水俣病から学べることを今後も考え続けたい	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

- ・自分では絶対・差別偏見しないし、してないと思っていました。でも、水俣病の症状が見てすぐ重症だと思った方に「かわいそう」と思いました。そして見た目で分かりづらい症状の方には「かわいそう」とは思いませんでした。今思うと、これはちゃんとした「差別・偏見」だなと思いました。自分たちは症状の違いで無意識のうちに差別しています。こういう無意識の差別が、患者さんや旗野さんたちの思いもかき消し、「患者らしさ」を強いていたのだなと思いました。
- ・新潟水俣病から学べることを考える上で、「患者さんたちが何と闘っているのか」「支えている人の存在」「なにげに絶えない笑顔」を忘れてはいけないと感じました。前回調べていた水俣市の田中実子さんや川本輝夫さんのことを思い出し、新潟と水俣でつながりができて、みんなで水俣病から学ぼうという流れが続いていることに感動しました。
- ・裁判で闘う日々がいったん終わったときに、私だったら「よかった。やっと終わった」と思って自分の生活に戻ると思ったけど、旗野さんは「これでいいのか？」と考え直したのがすごいと思います。きっと千唐仁の人々のことを自分のことのように感じていたからなのだと思います。患者さんに「患者さんらしさ」を求めていると言っていたけれど、旗野さんはもともと「〇〇さん」、「△△のじいちゃん」というように1人の人として向き合っていたと思います。旗野さんからたくさん広がる人間関係にも興味がわきました。
- ・当たり前ってなんなんだろうと思いました。水俣病が起きてしまった当時がそうだったとして、今は本当にだれかに「〇〇らしさ」を求めているのかなと考えました。学校を風邪で休んだ友達がインスタを更新していたら「休んだくせに」と思ってしまったり、外国人が事故を起こしたニュースを見ると「またか」と思ってしまいます。旗野さんが来たときに「クラスにだって同じようなことはあるはずだ」と言っていた意味が何となく分かった気がします。全然レベルが違うし、同じようには考えちゃいけないかもしれないけれど、「らしさ」を求めることで、勝手に自分で本当の「その人らしさ」を見ない世の中にしてしまっているんじゃないかなと思いました。
- ・旗野さんや山崎さんの授業でたくさんのことを学びました。新潟水俣病についてもかなり調べました。でも、まだ旧昭和電工に行っていないし、患者さんの話もちゃんと聞いていません。来週の現地研修で少しでもいろんな話を聞いてきたいと思いました。

令和7年度
小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業
地域の特色を活かした環境学習支援事業
実施報告書

主催・制作 新潟県、新潟市
発行 新潟県立環境と人間のふれあい館
〒950-3324 新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7
☎ 025-387-1450 メール fureai@abeam.ocn.ne.jp